

豊田厚生病院理念

私たちはたえず
新しい医療のあり方を追求し
優しさと温かさを大切にして
地域の人たちと共に歩みます



基本方針

私たちは、次の基本方針に基づいて患者に適切な医療・保健・福祉サービスを提供します。

1. 公的病院として、地域住民の健康増進・病気の治療と予防に努めます。
2. 患者の権利に配慮した安全で安心できる医療・保健・福祉サービスの提供を行います。
3. 常に医学の進歩に目を向け、人的・設備的な質向上に努めます。
4. 地域の医療機関との緊密な連携を図り、患者中心の地域医療体系の構築に努めます。

患者の権利と責任

1. 個人の尊厳
人格が尊重され人間としての尊厳を守られる権利があります。
2. 平等な医療を受ける権利
良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
3. 知る権利
病状・検査・治療について十分な説明を受ける権利があります。
4. 自己決定の権利
納得できるまで説明を受けた上で、自ら治療方法を選択する権利があります。また、セカンド・オピニオンを求めることができます。
5. プライバシーが守られる権利
ご自分の情報を承諾なしに第三者に提示されない権利があります。
6. 参加と協同の責任
患者は、これらの権利を守るため、医療従事者との信頼関係の構築に努め、医療に参加、協力する責任があります。

発刊にあたり

豊田厚生病院 病院長 川口 鎮



日本は急激な高齢化とともに社会保障の担い手となる労働力人口が減少しています。国は社会の活力を維持・向上していくため、健康寿命の延伸による長寿を実現しながら人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」を構築していくことを目指しています。そのため、年々増え続ける社会保障費の財源確保に向けて令和元年10月に消費税増税を実施したものの、国債等の国の借金は1,100兆円を超え、更に増え続けています。こうしたなか、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い日本の経済は急激に冷え込み、国は過去最大の緊急経済対策を実施する必要に迫られ、危機的状況にある財政再建を一段と厳しいものとしています。

医療・介護の分野においては、政府は全ての国民が安心できる質の高い医療提供体制の構築に向け、地域医療構想の実現、働き方改革の推進、医師の偏在対策の推進といった三位一体の取り組みを進めています。地域医療構想においては、令和元年9月に再検証要請対象医療機関が公表され、各医療機関が担う急性期機能や必要な病床数等の役割の再検証が圏域内で求められており、地域医療の再編に向けた動きはさらに加速しています。また、医師の働き方改革においては、令和6年の時間外労働の上限規制に向け、診療報酬改定にて改革への取り組みを評価することで改革を進めようとしています。

こうしたなか、当院は西三河北部医療圏の中核病院として高度医療を提供するとともに、豊田市の市民病院的な役割として地域住民に安全で安心な医療を提供するため、以下の取り組みを行いました。

- ①精度の向上や増加する検査数に対応するため、血管撮影装置を更新しました。
- ②地域の救急医療体制の充実のために豊田市と協同してドクターカーの運行を開始しました。
- ③臨床検査室の品質マネジメントを評価する国際規格であるISO15189の認定を取得しました。
- ④がんゲノム医療中核拠点病院と連携し、がんの遺伝子検査を推進するがんゲノム医療連携病院に指定されました。
- ⑤地元住民への情報発信として、病院祭、交流館・区民会館での健康講話・健康講座、J A あいち豊田と共催して健康講話などを実施しました。

運営面では、外来は1日当りの患者数は1,336人（前年度1,296人）、1人当りの診療単価は23,399円（前年度22,491円）となりました。入院については、1日当りの患者数は534人（前年度535人）、1人当りの診療単価は79,090円（前年度74,973円）となりました。

外来では、新しいがん治療薬の採用による高額医薬品の使用増加により単価が上がりました。また、入院でも、手術件数の増加、特に全身麻酔による手術件数が増加して単価が上がったことにより、診療収入としても前年を上回ることができました。

今後も診療機能の更なる向上に加え、病院経営の健全化維持に向けて職員一丸となって取り組むとともに、地域住民の健康増進に配慮した安全で安心できる医療・保健・福祉サービスを提供して参ります。

令和2年10月1日

病院長 川口 鎮



▲研修医オリエンテーション

2019年4月。縫合実習の様子。診療に関する重要事項や電子カルテの操作方法等を学んだ。



▲ドクターカー協定締結

2019年7月。豊田市消防と連携し、当院の医療スタッフが駆け付け、より早く初期治療が開始できる。



▲厚生連球技大会

2019年9月。厚生連の全事業所が参加する大会



▲第5回病院祭 バルーン遊具

2019年10月。「目指せ！健康で安全な令和新時代」をテーマに、約3000人を迎えた。子ども職業体験や院内探検ツアーのほか、トリアージ体験や防災パネルを用いて災害時の病院機能を知っていただく機会となった。



▲第5回病院祭 院内探検ツアー



▲第5回病院祭 屋台村



▲第5回病院祭 子ども仕事体験



▲第5回病院祭 災害時の病院機能説明



▲市民公開講座

2019年10月。病院祭同日開催。脊椎外科医師による「運動器症候群」および救急科医師による「災害拠点病院&DMAT」についての講演等を行った。



▲防災訓練

2019年11月。地域中核災害医療センター防災訓練（シミュレーション訓練）を実施



▲エントランスコンサート

年4回開催



▲厚生連卓球大会

2020年2月。各種目で多数のメダルを獲得



▲臨床研修修了証授与式

2020年3月。研修医11名全員について臨床研修修了となった



▲ISO15189認定を取得

2019年1月に短時間で測定できる最新鋭の分析装置を導入。これにより、検査報告時間の短縮および正確な検査結果の報告を行うことができるようになった。2020年3月には、ISO15189認定を取得し、検査結果に対する信頼性が向上した。

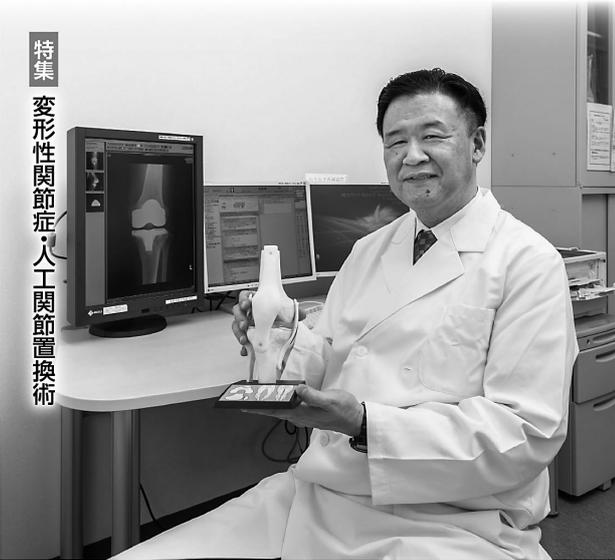


TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、瘦しさと温かさを大切に、地域の人たちと共に歩みます

カモメイト

Vol. 83
spring

特集
変形性関節症・人工関節置換術



診療日カレンダー [Calendar of Atención] ■ 休診 (Feriado) ● 午後休診 (Atención de mañana) (2019年)

5月	6月	7月	8月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、瘦しさと温かさを大切に、地域の人たちと共に歩みます

カモメイト

Vol. 84
summer

特集
特定看護師 特定行為研修修了看護師



診療日カレンダー [Calendar of Atención] ■ 休診 (Feriado) ● 午後休診 (Atención de mañana) (2019年)

8月	9月	10月	11月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、瘦しさと温かさを大切に、地域の人たちと共に歩みます

カモメイト

Vol. 85
autumn

特集
災害拠点病院の役割を知ろう



診療日カレンダー [Calendar of Atención] ■ 休診 (Feriado) ● 午後休診 (Atención de mañana) (2019年・2020年)

10月	11月	12月	1月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、瘦しさと温かさを大切に、地域の人たちと共に歩みます

カモメイト

Vol. 86
winter

特集
脊椎脊髄センター開設しました



診療日カレンダー [Calendar of Atención] ■ 休診 (Feriado) ● 午後休診 (Atención de mañana) (2020年)

1月	2月	3月	4月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

※4月よりの土曜日は休診となります

目次

豊田厚生病院理念	1
基本方針、患者の権利と責任	2
発刊にあたり	3
主な出来事	4
カモメイト院外版	6
豊田厚生病院概要	9
豊田厚生病院組織図	11
豊田厚生病院会議・委員会組織図	12
医師名簿	13
役付職員名簿	14
職員数	15
令和元年度事業計画	16

I. 医療実績

1. 診療科別延患者数 及び診療収入

1) 科別延患者数	21
2) 科別診療収入	22

2. 市町村別利用状況

1) 市町村別外来利用状況	23
2) 市町村別入院利用状況	24

3. 年齢別利用状況

1) 年齢別外来利用状況	25
2) 年齢別入院利用状況	25

4. 救命救急センター外来利用状況

1) 診療科別患者数	26
2) 月別患者数	26
3) 救急車受入状況	27

5. 手術件数

6. 分娩数・死亡数・剖検数	30
----------------	----

7. 退院患者統計

1) 診療科別・月別退院患者数	31
2) 診療科別・死亡退院患者数	31
3) 地域別・年齢階層別退院患者数	32
4) 疾病別・診療科別退院患者数	34
5) 診療科別・在院期間別退院患者数	35

6) 疾病別・在院期間別退院患者数	36
7) 疾病別・年齢階層別退院患者数	37
8) 診療科別疾患順位	39
8. 剖検数	43
9. 臨床研究	44
II. 部署別業務実績	
1. 放射線技術科	51
2. 臨床検査技術科	54
3. リハビリテーション技術科	58
4. 臨床工学技術科	60
5. 栄養科	64
6. 薬剤部	66
7. 看護部	72
8. 医療安全管理部	76
9. 感染制御部	80
10. 地域医療連携課（地域医療連携係）	83
11. 地域医療連携課（在宅支援コーディネーター係）	87
12. 医療福祉相談課（兼がん相談支援センター）	89
13. 豊田厚生訪問看護ステーション	92
14. 豊田厚生居宅介護支援事業所	95
15. 豊田厚生地域包括支援センター	97
16. 健康管理室	100
III. 職員活動	
1. 研究業績	105
2. 院内研修活動	
1) 全体講演会・全体発表会	133
2) 研修会・勉強会	134
3. 市民講座・市民公開講座（一般市民対象講座）	137
4. 学生実習等受入状況	
1) 実習	139
2) 職場体験・見学	139
IV. 委員会活動	
1. 委員会一覧	143

豊田厚生病院概要

令和2年3月1日現在

■ 名 称

愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院

■ 所在地

〒470-0396 愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

TEL(0565)43-5000 FAX(0565)43-5100

■ 設立年月日

昭和22年5月1日（豊田厚生病院開院 平成20年1月1日）

■ 病床数

606床（一般600床・感染症6床）

■ 標榜科目 38科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、血液内科、アレルギー科、緩和ケア内科、精神科、小児科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、臨床検査科、病理診断科、外科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、小児外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓外科、救急科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、歯科口腔外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、皮膚科、産婦人科、リハビリテーション科、化学療法内科

■ 専門外来 39科

血液内科、膠原病外来、腎臓外来、糖尿病外来、脳神経内科、小児循環器科、小児神経科、小児血液科、小児アレルギー科、小児外科、ストーマ外来、内分泌外来、もの忘れ外来、肝臓外来、ペースメーカークリニック、血管外科、インプラント外来、助産師外来、アレルギー外来、乳腺外来、婦人科腫瘍外来、禁煙外来、糖尿病フットケア外来、女性専門外来、小児腎臓外来、ボトックス外来、緩和ケア外来、肥満外来、セカンドオピニオン外来、ペインクリニック、胃瘻交換外来、母乳外来、耳鼻いんこう科腫瘍外来、糖尿病療養指導士外来、リウマチ外来、不整脈外来、骨粗鬆症外来、心不全外来、側弯症外来

■ 関連施設

豊田厚生訪問看護ステーション、豊田厚生地域包括支援センター、豊田厚生居宅介護支援事業所、加茂看護専門学校

■ 施設認定

救急告示病院、病院群輪番制病院（二次）、臨床研修病院（医科）、臨床研修施設（歯科）、エイズ治療協力病院、難病医療協力病院、地域がん診療連携拠点病院、地域中核災害医療センター、肝疾患専門医療機関、救命救急センター、DMAT指定医療機関、脳死下臓器提供施設、保険医療機関、労災保険指定医療機関、生活保護法指定医療機関、結核指定医療機関、指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）、養育医療機関指定、原爆医療指定（一般・認定疾病）、第二種感染症指定医療機関、病院機能評価認定病院、医療被ばく低減施設、日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設、卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院、人間ドック健診施設機能評価認定病院、マンモグラフィ（乳房エックス線写真）検診施設、下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設

■ 管 理 者

病院長	川口 鎮	副院長兼第1診療部長 兼保健事業部長	篠田政典	患者相談部長	平松義規
副院長兼第5診療部長 兼診療協同部長	鏡味良豊	副院長兼医療安全管理 部長兼地域医療福祉連 携部長	服部直樹	診療協同部長	中根生弥
副院長兼第4診療部長 兼感染制御部長	岩瀬 豊	副院長兼第3診療部長	久留宮康浩	薬剤部長	三宅芳男
加茂看護専門学校兼副 院長兼第2診療部長	梶田光春	副院長兼臨床研修部長	水野敬輔	看護部長	阪口浩美
				事務部長	近藤良夫

■ 学会認定

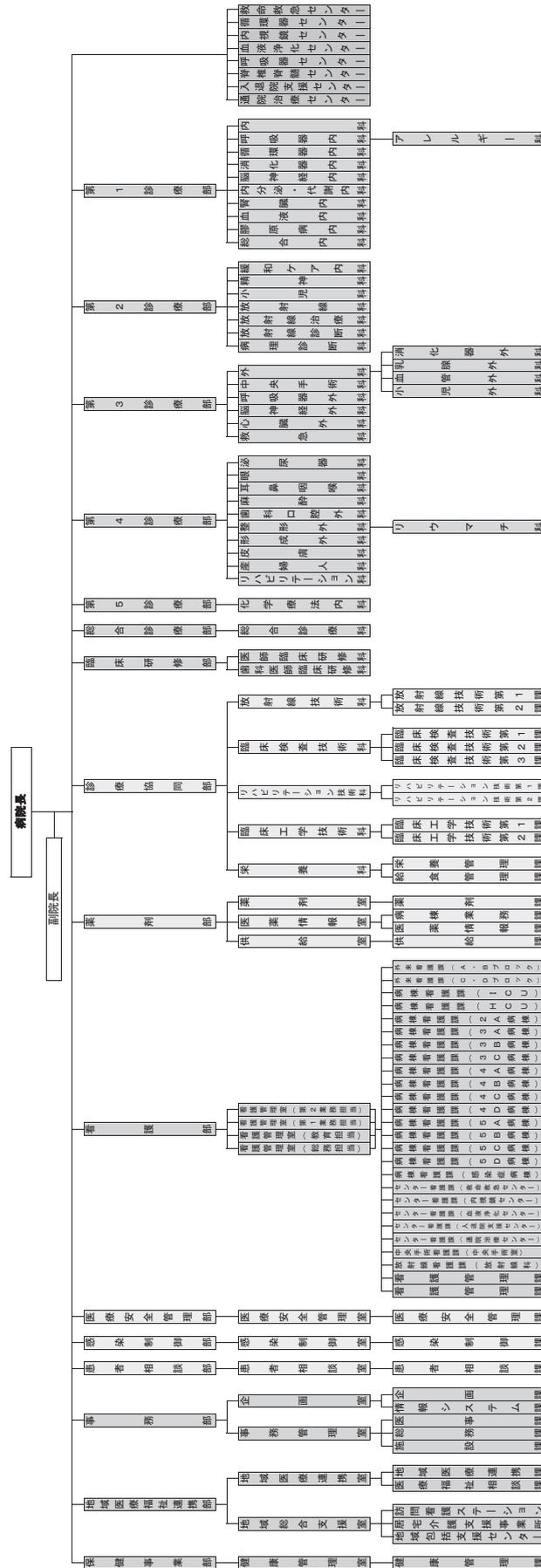
日本内科学会認定医制度教育病院	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	日本乳癌学会専門医制度認定施設
日本呼吸器学会認定施設	呼吸器外科専門医合同委員会基幹施設
日本高血圧学会専門医認定施設	日本脳神経外科学会専門医研修施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設	日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
日本循環器学会循環器専門医研修施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設	日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本肝臓学会認定施設	日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	日本眼科学会専門医制度研修施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本神経学会専門医制度教育施設	日本麻酔科学会麻酔科標榜のための研修施設
日本認知症学会専門医制度教育施設	日本ペインクリニック学会指定研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設	日本口腔外科学会認定研修施設
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設	日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設	日本手外科学会研修施設
日本甲状腺学会認定専門医施設	日本形成外科学会認定施設
日本透析医学会専門医制度認定施設	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本腎臓学会研修施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本急性血液浄化学会認定指定施設	日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設
日本血液学会認定血液研修施設	日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本リウマチ学会教育施設	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設	日本大腸肛門病学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本集中治療医学会専門医研修施設
日本緩和医療学会認定研修施設	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設	日本胆道学会指導施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	日本女性医学会専門医制度認定研修施設
日本病理学会研修認定施設B	外科周術期感染管理教育施設
日本臨床細胞学会認定施設	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I&A制度）認定施設
日本臨床細胞学会教育研修施設	日本口腔科学会認定医制度研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	

■ その他認定

病院機能評価認定病院	卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院
人間ドック健診施設機能評価認定病院	医療被ばく低減施設

豊田厚生病院 組織図

令和2年3月1日現在





医師名簿

令和2年3月1日現在

職名	診療科	氏名
院長	心臓外科	川口 鎮
副院長兼第5診療部長兼通院治療センター長兼血液内科代表部長兼化学療法内科代表部長	血液内科	鏡味 良豊
副院長兼第4診療部長兼感染制御部長	泌尿器科	岩瀬 豊
加茂看護専門学校校長兼豊田厚生病院副院長兼第2診療部長兼小児科代表部長	小児科	梶田 光春
副院長兼第1診療部長兼健康事業部長兼内科代表部長兼循環器内科代表部長	循環器内科	篠田 政典
副院長兼医療安全管理部長兼地域医療福祉推進部長兼脳神経内科代表部長	脳神経内科	服部 直樹
副院長兼第3診療部長兼外科代表部長兼乳癌外科部長	外科	久留宮 康浩
副院長兼臨床研修部長兼入院支援センター長兼血管外科部長	〃	水野 敬輔
緩和ケア内科代表部長	緩和ケア内科	村松 雅人
内分泌・代謝内科代表部長	内分泌・代謝内科	澤井 喜那
保健事業部健康増進室長兼消化器内科病棟部長兼化学療法内科部長	化学療法内科	森田 清之
内視鏡センター長兼消化器内科代表部長	消化器内科	都築 智之
呼吸器内科代表部長兼アレルギー科部長	呼吸器内科	谷川 吉政
血液浄化センター長兼腎臓内科代表部長兼医師臨床研修科代表部長	腎臓内科	倉田 久嗣
循環器センター長	循環器内科	金子 鎮二
消化器内視鏡部長	消化器内科	竹内 淳史
呼吸器内科病棟部長兼アレルギー科病棟部長	呼吸器内科	青山 昌広
総合内科代表部長	総合内科	西本 泰浩
脳神経内科部長	脳神経内科	伊藤 瑞規
血液内科病棟部長	血液内科	平賀 潤二
内分泌・代謝内科病棟部長	内分泌・代謝内科	加藤 大也
呼吸器内視鏡部長	呼吸器内科	指尾 豊和
循環器内科外来部長	循環器内科	窪田 龍二
循環器内科C C U部長	〃	大橋 大器
膠原病内科代表部長	膠原病内科	水野 伸宏
脳神経内科外来部長	脳神経内科	富田 稔
循環器内科医長	循環器内科	藤田 雅也
総合内科医長	総合内科	渡口 賢隆
総合内科病棟医長	〃	鈴木 誓子
循環器内科病棟医長	循環器内科	暁 陽祐
消化器内科医長	消化器内科	松井 健一
顧問	内科	金山 均
〃	〃	西村 大作
〃	消化器内科	高士 ひとみ
〃	〃	吉岡 知輝
〃	循環器内科	羽賀 智明
〃	血液内科	原田 靖彦
〃	腎臓内科	天野 竜彰
〃	内分泌・代謝内科	渡邊 令奈
〃	呼吸器内科	二村 圭祐
〃	脳神経内科	赤塚 和寛
〃	内分泌・代謝内科	松尾 悠志
〃	血液内科	鈴木 奈瑠子
〃	循環器内科	足立 健太郎
〃	〃	堀 仁美
〃	消化器内科	松葉 朋彦
〃	循環器内科	伊藤 亮太
〃	〃	白井 義憲
〃	消化器内科	豊島 創
〃	〃	安田 司
〃	呼吸器内科	林 かずみ
〃	腎臓内科	堀 貴洋
〃	脳神経内科	森 悠
〃	内科	大塚 晴佳
〃	〃	後藤 孝幸
〃	〃	平岩 厚佑
〃	〃	石川 稜恭
〃	〃	稲掛 優介
〃	〃	岩本 和馬
〃	〃	近藤 大也
〃	〃	玉腰 丈博
〃	〃	長井 伸
〃	〃	水野 幸奈
精神科代表部長	精神科	前川 和範
〃	〃	渡邊 周一
小児科病棟部長	小児科	生駒 雅信
小児科外来部長	〃	武田 将典
〃	〃	高橋 ゆま
〃	〃	宮城 島 萌
〃	〃	鈴木 大路
〃	〃	鈴木 祥敬
放射線診断科代表部長	放射線診断科	松田 譲
放射線診断科核医学部長	〃	中村 篤史
病理診断科代表部長	病理診断科	成田 道彦
組織診断管理部長	〃	氏平 伸子
組相談部長兼呼吸器センター長兼呼吸器外科代表部長	呼吸器外科	平松 義規
呼吸器外科病棟部長	〃	岡坂 敏樹
〃	〃	渡邊 裕樹
〃	〃	今村 由人

職名	診療科	氏名
医療安全管理部医療安全管理室長(代表部長待遇)兼外科外来部長	外科	世古口 英
中央手術科代表部長兼消化器外科部長	〃	菅原 元
上部消化器外科部長	〃	井上 昌也
下部消化管外科医長	〃	加藤 健宏
〃	〃	秋田 直宏
〃	〃	南 貴之
〃	〃	蟹江 恭和
〃	〃	佐久間 政宜
〃	〃	稲田 亘佑
〃	〃	竹内 健司
〃	〃	緒方 諒仁
〃	〃	長田 祥子
〃	〃	立花 栄二
〃	〃	住友 正樹
〃	〃	大岩 幹夫
〃	〃	松田 彰乃
〃	〃	鳥居 潤
〃	〃	竹内 一生
〃	〃	荒木 善盛
〃	〃	寺田 貴史
〃	〃	小林 明裕
救命救急センター長兼救急科代表部長	救急科	小林 修一
救急科外来部長	〃	畑田 剛
泌尿器科代表部長	泌尿器科	橋本 良博
泌尿器科病棟部長	〃	金本 一洋
泌尿器科内視鏡部長	〃	宇佐美 雅之
眼科代表部長	眼科	山田 麻里
〃	〃	富安 嵐太
〃	〃	大林 知広
耳鼻咽喉科代表部長	耳鼻咽喉科	欄 真一郎
〃	〃	南方 寿哉
〃	〃	小栗 恵介
〃	〃	田中 伸和
〃	〃	高橋 弘恵
〃	〃	上原 博和
〃	〃	小島 康裕
〃	〃	太田 祐介
〃	〃	長橋 究
〃	〃	酒井 博生
〃	〃	高原 里奈
〃	〃	兼子 隆次
〃	〃	河合 孝真
〃	〃	澤木 廉
〃	〃	高田 里奈
〃	〃	金山 康秀
〃	〃	辻 太一
〃	〃	稲垣 弘進
〃	〃	二村 尚久
〃	〃	大田 恭太郎
〃	〃	足立 維
〃	〃	杉本 遼介
〃	〃	等々力 一徳
〃	〃	川端 明子
〃	〃	水野 玲子
〃	〃	茂木 公佑
〃	〃	鈴木 伸吾
〃	〃	足立 秀禎
〃	〃	加藤 友久美
〃	〃	針山 由美
〃	〃	新城 加奈子
〃	〃	安井 裕子
〃	〃	山本 靖子
〃	〃	正木 希世
〃	〃	山中 浩史
〃	〃	河井 啓一郎

研修医(2年次)				
伊藤 怜花	榎本 さやか	金屋 歳三	川口 大地	
川瀬 貴久	呉山 菜梨	櫻井 礼子	佐藤 萌美	
竹中 徳子	長 ちひろ	蜂谷 慶	武重 万里子	
前田 健登	寺澤 慧			
研修医(1年次)				
天野 広菜	石川 大貴	石谷 紗希	井関 彰太	
糸見 百合子	岩田 恵輔	大澤 拓哉	大島 貴裕	
曾我 宣弘	服部 杏子	浜辺 健太	杉山 寛明	
木村 侑樹				
研修歯科医				
河辺 良介				

役員職員名簿

令和2年3月1日現在

◆放射線技術科

技師長	小澤 功
課長	廣瀬 宜孝
係長	松本 真明
係長	遠矢 祐希子
係長	伊藤 友彰
係長	近藤 千晃
係長	小西 哲也
係長	松下 喜敬
係長	村山 和宏
係長	深田 真司

◆臨床検査技術科

診療協同部長兼技師長	中根 生弥
課長	高嶋 幹代
係長	田中 浩一
係長	鈴木 梢
係長	木村 有里
係長	三澤 千鶴
係長	山田 幸司
係長	黒木 雅子
係長	永田 篤志
係長	下竹美由紀

◆リハビリテーション技術科

技師長	板倉 美佳
課長	稲吉 美枝
係長	濱井 均
係長	佐藤 太亮
係長	岩附 史明
係長	吹留 理香

◆臨床工学技術科

技師長	中前 健二
課長	兵藤 好行
係長	沖島 正幸
係長	井上 宏隆

◆栄養科

技師長	多氣みつ子
課長	小林 憲司
係長	江口真奈美
係長	岩本 拓郎

◆薬剤部

部長	三宅 芳男
室長	祢宜田和正
係長	井上 健
係長	中村 治彦
課長	佐々木英雄
係長	間瀬 悟
係長	近藤 有
係長	各務さとみ
係長	植松 夏子
係長	戸田 州俊
係長	鈴木 大介
係長	戸田 州俊
係長	中尾 圭介

◆医療安全管理部

課長	浅野真奈美
係長	加納千津子

◆感染制御室

室長	横山 浩子
係長	駒井 博子

◆看護部

看護部長		阪口 浩美
副看護部長		富川由佳里
〃		畠中 京子
〃		西森 陽子
〃		杉浦 薫
課長	A・Bブロック	館向 幸子
〃	C/Dブロック兼通院治療センター兼患者相談課長	黒川 延代
〃	2 A 病棟	下野 京子
〃	I C U 病棟	古橋美直子
〃	H C U 病棟	中野 智子
〃	3 A 病棟	三田 洋希
〃	3 B 病棟	伊藤 知晴
〃	3 C 病棟	安藤 愛子
〃	4 A 病棟	上杉留里子
〃	4 B 病棟	塚本 浩子
〃	4 C 病棟	福田 郁栄
〃	4 D 病棟	伊藤美由起
〃	5 A 病棟	藤野久美子
〃	5 B 病棟	井口多恵子
〃	5 C 病棟兼 5 D 病棟	河合千恵子
〃	救命救急センター	勝野 知子
〃	内視鏡センター兼放射線科	丹羽 孝寿
〃	血液浄化センター	柴田 和代
〃	入退院支援センター	林 眞千子
〃	中央手術室	杉山 和美
〃	看護管理課	藤井 緑
〃	看護管理課兼感染症病棟	伊藤久美子
係長	A ブロック	浅井 陽子
〃	B ブロック	池田 秀子
〃	C ブロック	山越 美穂
〃	D ブロック	安藤真理子
〃	2 A 病棟	牧 知香子
〃	2 A 病棟	小野田結花
〃	I C U 病棟	川合 舞
〃	I C U 病棟	吉田 栄里
〃	H C U 病棟	関 幸子
〃	H C U 病棟	伊藤真由美
〃	3 A 病棟	鈴木 尚子
〃	3 A 病棟	櫛田 千景
〃	3 B 病棟	加藤 敏子
〃	3 B 病棟	吉野佐知子
〃	3 C 病棟	山内 悦子
〃	3 C 病棟	日比野千裕
〃	4 A 病棟	伊藤千代美
〃	4 A 病棟	山本かおり
〃	4 B 病棟	杉浦 公重
〃	4 B 病棟	大牟田智佳子
〃	4 C 病棟	岩屋奈央子
〃	4 C 病棟	田中めぐみ
〃	4 D 病棟	梅村 育代
〃	4 D 病棟	小澤 秀子
〃	5 A 病棟	加藤 昭子
〃	5 A 病棟	戸田 礼美
〃	5 B 病棟	渡邊かおる
〃	5 C 病棟	米澤 康子
〃	5 C 病棟	村井奈津子
〃	5 D 病棟	梶原佳代子
〃	5 D 病棟	伊藤 美幸
〃	救命救急センター	岩永 香
〃	内視鏡センター	藤原民智代
〃	入退院支援センター	渡部 志保
〃	通院治療センター	中王子美保
〃	中央手術室	三宅 敦子
〃	中央手術室	岩村さより
〃	放射線科	佐藤 修秀
〃	看護管理課	武藤 聡恵
〃	看護管理課	石川 雅恵

◆事務部

部長	近藤 良夫
企画室長	浅岡 一公
事務管理室長	加藤 信也
医事課長	安藤 理恵
総務課長	池田 真紀
企画課長	長谷川雅敏
医療情報係長	神谷 公江
診療情報係長	澤木 勇士
医事第1係長	近藤 慎哉
医事第2係長	金田 麻美
庶務係長	織田ちずる
経理係長	河合 啓行
保育主任	飯田 香澄
施設係長	大藪 宏樹
エネルギー係	近藤 隼

◆地域医療連携課

課長	一柳 容子
係長	原 明子
〃	森 めぐみ
〃	杉村 龍也

◆訪問看護ステーション

係長	齋藤 靖子
----	-------

◆居宅介護支援事業所

係長	清水 浩子
----	-------

◆健康管理室

課長	深田 英樹
係長	浦野美和子



職員数

令和2年3月1日現在

職種		年度		備考	
		令和元年度	平成30年度		
常勤職員	医師		185	172	研修医26名含む
	医療技術職	薬剤師	46	43	
		診療放射線技師	36	34	
		臨床検査技師	59	53	
		理学療法士	26	24	
		作業療法士	8	7	
		言語聴覚士	4	4	
		管理栄養士	17	17	栄養士
		臨床工学技士	18	15	
		ソーシャルワーカー	14	15	
		歯科衛生士	4	4	
		その他	6	6	臨床心理士・視能訓練士
	小計	238	222		
	看護部門	保健師	6	7	
		助産師	16	17	
		看護師	638	623	
		准看護師	5	6	
		看護助手	47	50	
		小計	712	703	
	その他	事務員	126	115	
		協助部門補助	7	7	検査科・放射線科補助等
		管理技術者	32	30	ボイラ技士、保育士、調理師等
		管理補助者	10	10	調理員等
小計		175	162		
合計		1,310	1,259		
非常勤職員	医師		82	80	
	看護部門		49	58	看護助手含む
	その他		43	42	
	合計		174	180	
総合計		1,484	1,439		

令和元年度 豊田厚生病院事業計画

1. 環境認識

少子高齢化が急速に進行し、医療を取り巻く環境の大きな変化に直面している。すべての都道府県で地域医療構想が策定され、国は達成に向けて、地域医療構想調整会議において議論・進捗管理を行い、具体的対応策の速やかな策定に向けて一層の取組を加速させることを促している。

西三河北部医療圏では2025年までは人口は増加するが、65歳以上の増加率が高く高齢化が急速に進む医療圏と認識されている。この地域では医療需要の高い年齢層が増加していくことで医療・介護の需要はさらなる増加が見込まれている。

当院は各種の指定を受ける西三河北部医療圏の中核病院として、地域包括ケアシステムにおける高度急性期・急性期を担い、地域の医療機関等との連携を更に進めると共に、豊田市の市民病院的な役割を果たすことが求められている。

また、当該医療圏は広大なへき地対象地域を抱えている。足助病院が中心となって役割を果たしていくが、当院には患者の受け入れなどの支援・連携が求められている。

2. 基本方針（病院運営の基本姿勢及び目標）

西三河北部医療圏の基幹病院として、救命救急センター機能、がん診療機能を軸に高度医療機能を有する「高機能病院」としての役割を果たし、圏域内完結の高度急性期・急性期医療を提供していく。地域医療支援病院として紹介・逆紹介率の保持・推進を通じて地域の医療機関・診療所との連携を強化する中で、重症患者・救急患者を積極的に受け入れ、地域包括ケアシステムにおける急性期病院としての機能を果たしていく。

また、公的医療機関として地域住民に信頼される病院を目指し、豊田市の市民病院的な役割を果たすとともに、地域医療の中核となる病院を目指す。

3. 重点事項と実施目標

（1）診療機能の充実

救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける病院として、地域住民のニーズに応えることができるよう医療提供体制を充実させる。

① 救急医療・集中治療体制の充実 豊田・尾三消防本署および各分署との連携強化、救急車受け入れの増加（特に昼間）、救急車不応需の更なる減少への取り組み、ICU・HCUの効率的運用の構築、特定集中治療室管理料1の維持

② がん医療の充実

がん医療関連の各職種専門資格の取得推進、通院治療センター機能の効率的運用、入院化学療法治療の役割再検討、がん関連遺伝子検査の検討、がんゲノム医療連携病院取得の検討

③ 看護体制の充実

一般病棟入院基本料1（7対1）の安定的な運用、看護管理室が主体となったベッドコントロールの運用確立、病棟業務の効率化、働きやすい環境・質の向上

④ 医療提供体制の充実

ISO15189の受審ならびに国際標準検査管理加算の取得、入退院支援センターの充実、持参薬管理体制の検討と確立、治験業務の院内体制の拡充、高額医療機器の更新稼働、業務の適正・最適化、栄養指導の推進

⑤ 医療情報システムの更新準備

2021年更新に向けた情報収集、各部署への要望ヒアリング実施

(2) 医療の質、安全強化

医療技術の飛躍的な進歩に伴い、医療の質と安全に関する要望も高いものとなっていることから、安全で安心な医療を提供できる体制を構築する。

① 医療の質の向上

手術室専従薬剤師業務の検討、クオリティインディケーターの活用、薬物治療管理の検討・推進、病棟薬剤業務の充実、栄養サポート（栄養指導）体制の強化、クリニカルパスの適正化

② 医療安全の充実

医療安全研修の実施、インシデント・アクシデントの重要事例からのラウンド実施と、再発防止策の検討・実践・周知、コンプライアンスの周知徹底

③ 感染制御の充実

感染対策の意識向上に向けた教育活動の充実、職業感染に関する取り組みの強化、抗菌薬適正使用支援の充実

④ 資格取得の推進

認定・専門資格取得の推進（全職種）、論文・学会発表の推進

(3) 地域との連携強化

地域医療支援病院の指定を受ける病院として、医師会や近隣の医療機関だけではなく、地域の住民や団体、JAなどとの連携を強化する。

① 地域医療連携の強化

行政、地元医師会・薬剤師会、各医療機関などとの連携強化、地域連携パスの推進、地域医療従事者への研修会等の開催、紹介・逆紹介の推進

② 地域団体・住民との連携強化

地元JAとの連携継続（料理教室等）、民間がん患者支援団体との連携

(4) 保健事業

生活習慣病の予防と早期発見を目指し、高度な医療機器を用いた専門ドックをはじめとする各種の健診コースを設定して幅広いニーズに対応する。

① 保健事業の充実

健診コースの内容ならびに価格の見直し、専任医師の確保、健診業務の拡大

(5) 福祉・介護事業

在宅医療・介護、福祉などについて、地域の保健・医療・福祉サービスとの連携を図り、総合的なサービスや情報を提供する。

① 在宅医療・介護の推進

訪問看護利用者の維持・拡大、ターミナルケア看護の充実（緩和ケア病棟との連携）、在宅療養支援の推進

② 地域包括ケアの推進

豊田市地域密着型包括支援ネットワーク会議に参画、豊田市成年後見センター運営委員会に参画、地域のケアマネとの関わり強化（介護支援連携指導料増）

(6) 経営管理

医療圏の基幹病院として地域医療を守り、地域住民から信頼される病院となるため、良質な人材を確保しながら安定した病院経営を継続させる。

① 経営の安定

収入増加に向けた取り組み、適正な経費の検証と取り組み、適正な査定率に向けた分析と取り組み、課題解決に向けた経営戦略会議の実施

② マンパワーの充実

業務量、育成、人件費、加算等を含めた適切な人材確保、研修医の確保、看護師の離職防止対策の検

討、医師事務作業補助者の必要に応じた配置

③ 患者サービスの向上

患者アンケート結果の効果的な活用、患者満足度向上に向けた検討

④ DPCの円滑な運用

DPC分析ソフトの活用、ヒアリング・会議での活用

⑤ 新たな施設基準の検討

新たな施設基準取得に向けた検討、平成32年度診療報酬改定に向けた検討・対応

(7) その他

① 新専門医制度への対応

基幹病院・協力病院としての体制確立

② 広報活動の充実

病院祭の開催、ホームページの充実、市民公開講座の開催、カモメイトの効率的な利用、地域への医療講演会開催

I 医療実績

1. 診療科別延患者数及び診療収入

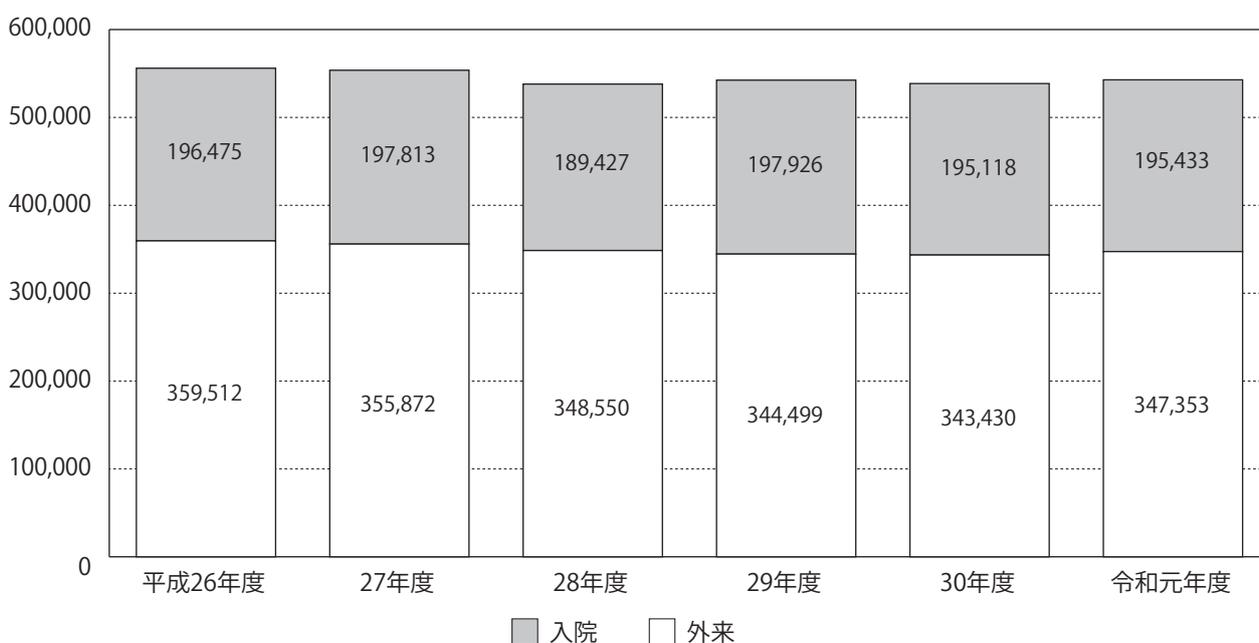
診療日数 外来：260日 入院：365日

1 科別延患者数

(単位：人)

	外 来			入 院		
	令和元年度	平成30年度	前年対比	令和元年度	平成30年度	前年対比
内 科	133,743	132,294	101.1%	102,328	102,146	100.2%
精 神 科	8,211	8,362	98.2%	-	-	-
小 児 科	13,963	14,489	96.4%	5,423	5,245	103.4%
外 科	23,117	23,284	99.3%	25,712	25,417	101.2%
整 形 外 科	34,373	34,348	100.1%	16,562	17,906	92.5%
形 成 外 科	8,373	7,808	107.2%	1,479	1,742	84.9%
脳 神 経 外 科	8,188	8,314	98.5%	9,778	9,905	98.7%
呼 吸 器 外 科	2,440	2,143	113.9%	3,381	3,412	99.1%
心 臓 外 科	2,941	2,860	102.8%	3,176	2,557	124.2%
皮 膚 科	19,215	19,952	96.3%	1,850	1,967	94.1%
泌 尿 器 科	20,209	19,397	104.2%	5,772	6,350	90.9%
産 婦 人 科	18,446	17,943	102.8%	8,106	7,376	109.9%
眼 科	13,069	12,821	101.9%	3,281	2,742	119.7%
耳 鼻 咽 喉 科	18,742	18,632	100.6%	5,070	5,138	98.7%
放 射 線 科	5,251	4,554	115.3%	-	-	-
麻 酔 科	2,277	2,111	107.9%	159	36	441.7%
歯科口腔外科	14,795	14,118	104.8%	3,356	3,179	105.6%
合 計	347,353	343,430	101.1%	195,433	195,118	100.2%
一 日 平 均	1,336	1,296	103.1%	534	535	99.9%

年度別延患者数 (人)



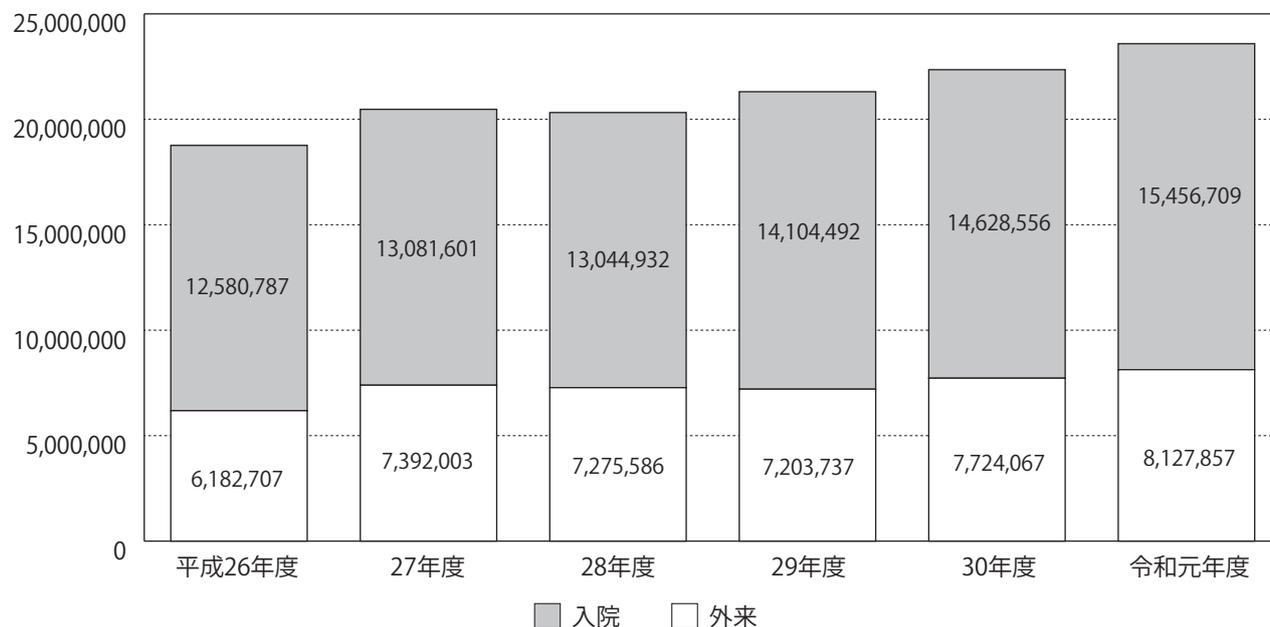
診療日数 外来：260日 入院：365日

2 科別診療収入

(単位：千円)

	外 来			入 院		
	令和元年度	平成30年度	前年対比	令和元年度	平成30年度	前年対比
内 科	4,316,902	4,075,149	105.9%	7,309,696	7,048,367	103.7%
精 神 科	77,468	81,416	95.2%	-	-	-
小 児 科	200,117	218,873	91.4%	320,118	307,119	104.2%
外 科	823,268	846,196	97.3%	2,120,317	2,084,989	101.7%
整 形 外 科	649,357	576,522	112.6%	1,724,732	1,465,624	117.7%
形 成 外 科	64,616	61,114	105.7%	102,632	117,137	87.6%
脳 神 経 外 科	133,611	139,732	95.6%	772,722	773,155	99.9%
呼 吸 器 外 科	153,645	123,421	124.5%	442,263	394,198	112.2%
心 臓 外 科	33,803	31,817	106.2%	657,938	521,284	126.2%
皮 膚 科	169,507	154,091	110.0%	82,933	84,770	97.8%
泌 尿 器 科	619,149	554,043	111.8%	393,768	411,730	95.6%
産 婦 人 科	208,045	216,629	96.0%	683,573	641,660	106.5%
眼 科	191,752	180,997	105.9%	286,746	236,413	121.3%
耳 鼻 咽 喉 科	225,236	225,549	99.9%	333,054	358,897	92.8%
放 射 線 科	105,049	90,628	115.9%	-	0	-
麻 酔 科	21,590	16,076	134.3%	38,916	4,124	943.7%
歯科口腔外科	134,741	131,812	102.2%	187,300	179,091	104.6%
合 計	8,127,857	7,724,067	105.2%	15,456,709	14,628,556	105.7%

年度別診療収入（人）



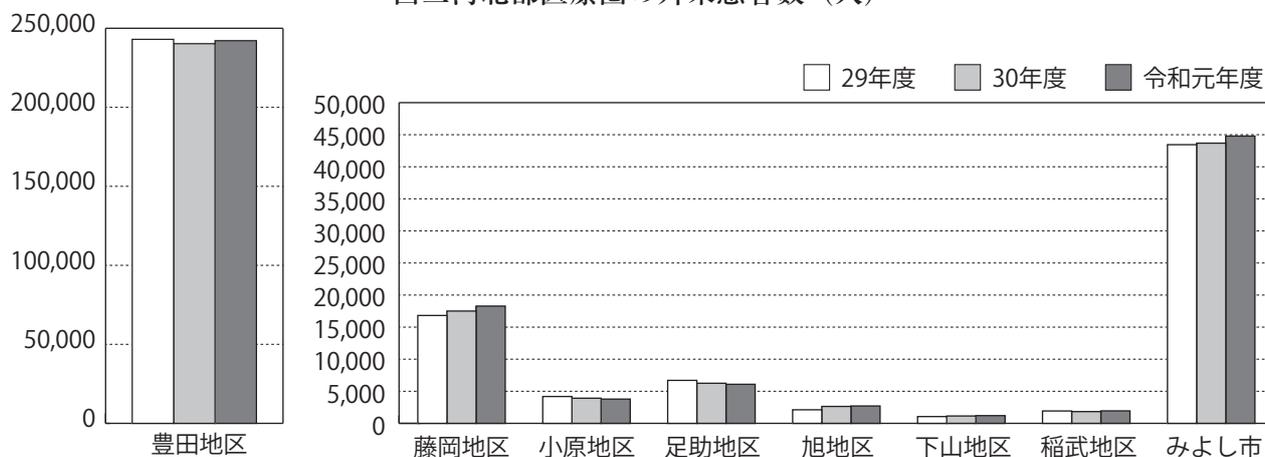
2. 市町村別利用状況

1 市町村別外来利用状況（延患者数）

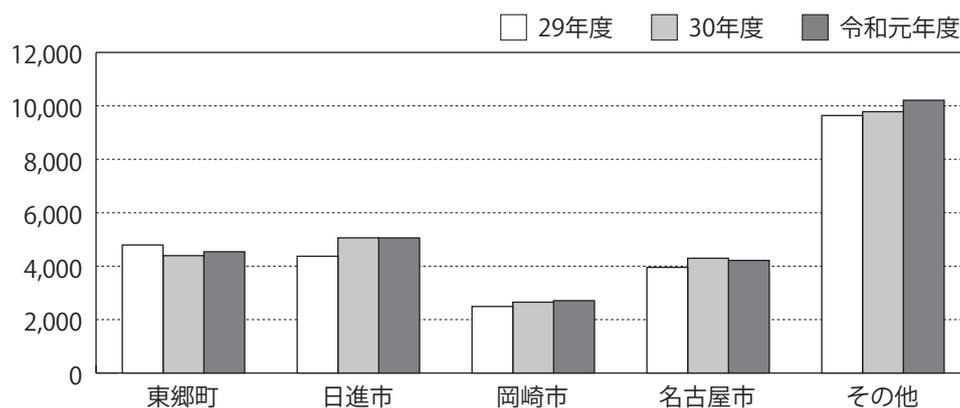
（単位：人）

	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
豊田市全域	276,171	79.4%	273,562	80.1%	275,804	81.6%
* 豊田地区	242,159	69.6%	240,263	69.1%	243,001	72.3%
* 藤岡地区	18,281	5.3%	17,508	5.0%	16,816	5.1%
* 小原地区	3,783	1.1%	3,920	1.1%	4,186	1.2%
* 足助地区	6,089	1.8%	6,250	1.8%	6,700	1.6%
* 旭地区	2,708	0.8%	2,639	0.8%	2,115	0.6%
* 下山地区	1,205	0.3%	1,149	0.3%	1,057	0.3%
* 稲武地区	1,946	0.6%	1,833	0.5%	1,929	0.5%
みよし市	44,791	12.9%	43,682	12.6%	43,445	11.7%
小計	320,962	92.3%	317,244	92.7%	319,249	93.3%
東郷町	4,540	1.3%	4,394	1.3%	4,793	1.2%
日進市	5,058	1.5%	5,060	1.5%	4,372	1.2%
岡崎市	2,709	0.8%	2,653	0.8%	2,492	0.7%
名古屋市	4,216	1.2%	4,297	1.2%	3,955	1.0%
その他	10,209	2.9%	10,037	2.9%	9,638	2.6%
小計	26,732	7.7%	26,441	7.6%	25,250	6.7%
合計	347,694	100.0%	343,685	100.0%	344,499	100.0%

西三河北部医療圏の外来患者数（人）



西三河北部医療圏以外の外来患者数（人）

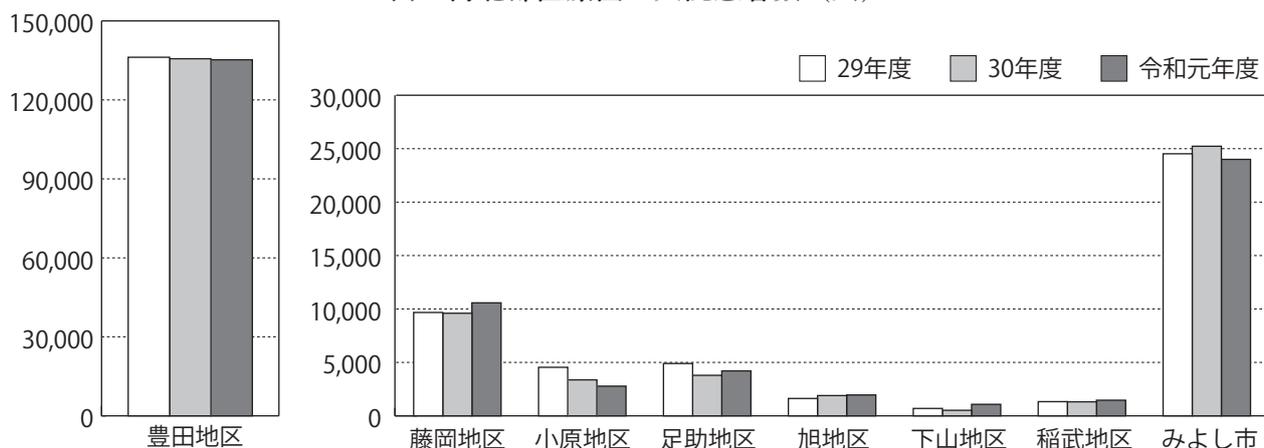


1 市町村別入院利用状況 (延患者数)

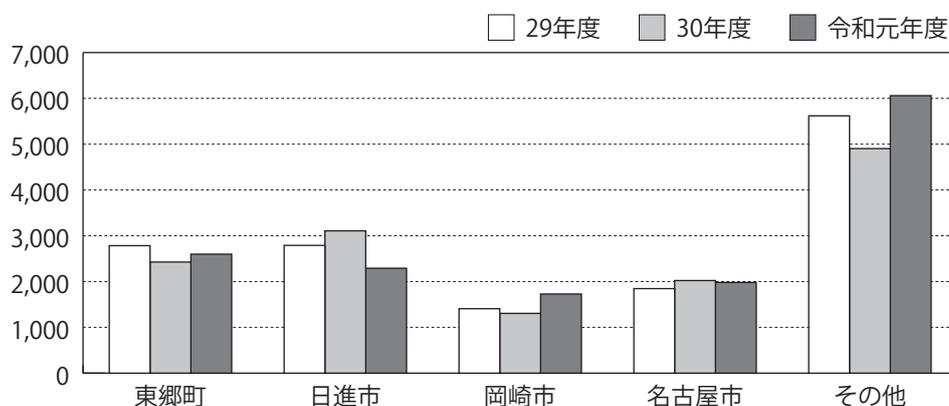
(単位：人)

	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
豊田市全域	157,306	80.3%	156,127	79.7%	158,958	82.2%
* 豊田地区	135,246	69.0%	135,635	69.2%	136,197	70.6%
* 藤岡地区	10,575	5.4%	9,602	4.9%	9,673	5.6%
* 小原地区	2,780	1.4%	3,367	1.7%	4,543	1.9%
* 足助地区	4,209	2.1%	3,793	1.9%	4,898	2.0%
* 旭地区	1,956	1.0%	1,896	1.0%	1,626	0.9%
* 下山地区	1,077	0.5%	520	0.3%	692	0.3%
* 稲武地区	1,463	0.7%	1,314	0.7%	1,329	1.0%
みよし市	23,999	12.2%	25,227	12.9%	24,523	10.9%
小計	181,305	92.5%	181,354	92.5%	183,481	93.1%
東郷町	2,598	1.3%	2,426	1.2%	2,784	1.2%
日進市	2,291	1.2%	3,108	1.6%	2,790	1.4%
岡崎市	1,728	0.9%	1,305	0.7%	1,407	0.5%
名古屋市	1,980	1.0%	2,022	1.0%	1,846	0.9%
その他	6,059	3.1%	5,431	2.8%	5,618	3.0%
小計	14,656	7.5%	14,292	7.3%	14,445	6.9%
合計	195,961	100.0%	195,646	100.0%	197,926	100.0%

西三河北部医療圏の入院患者数 (人)



西三河北部医療圏以外の入院患者数 (人)

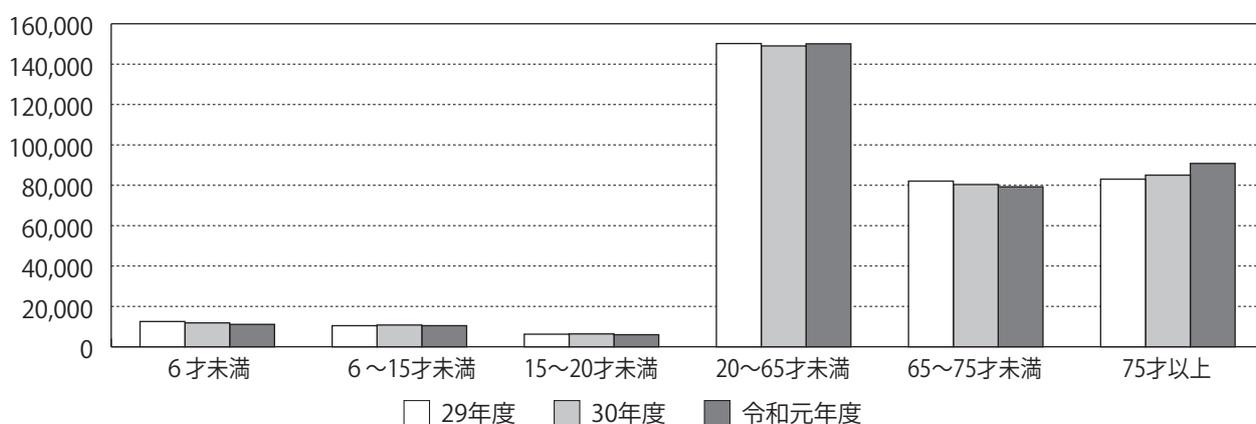


3. 年齢別利用状況

1 年齢別外来利用状況 (延患者数)

(単位：人、%)

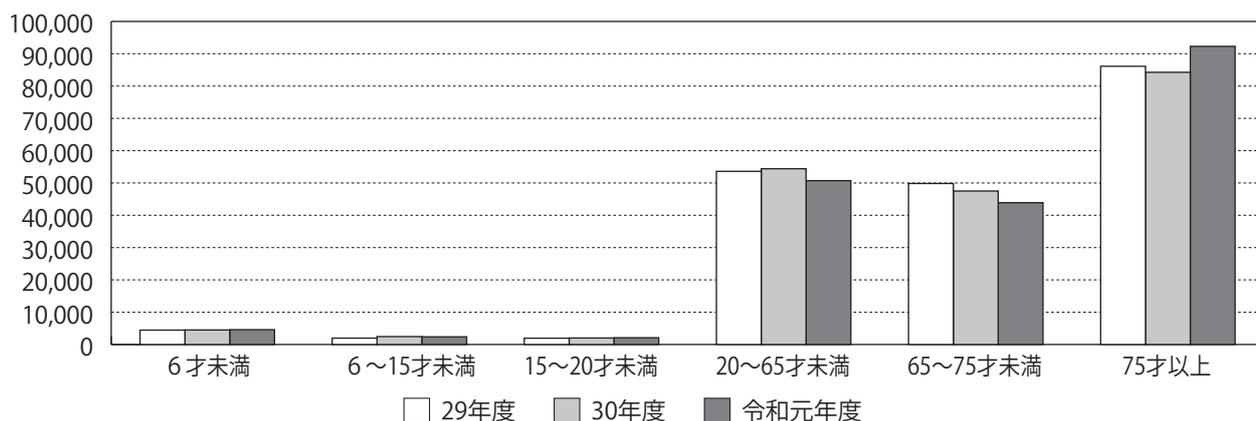
	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
6才未満	11,100	3.2%	11,842	3.4%	12,518	3.6%
6～15才未満	10,461	3.0%	10,781	3.1%	10,449	3.0%
15～20才未満	5,991	1.7%	6,379	1.9%	6,238	1.8%
20～65才未満	150,081	43.2%	149,031	43.4%	150,200	43.6%
65～75才未満	79,243	22.8%	80,371	23.4%	82,063	23.8%
75才以上	90,818	26.1%	85,281	24.8%	83,031	24.1%
合計	347,694	100.0%	343,685	100.0%	344,499	100.0%



2 年齢別入院利用状況 (延患者数)

(単位：人、%)

	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
6才未満	4,584	2.3%	4,487	2.3%	4,457	2.3%
6～15才未満	2,374	1.2%	2,447	1.3%	1,966	1.0%
15～20才未満	2,094	1.1%	2,008	1.0%	1,946	1.0%
20～65才未満	50,720	25.9%	54,406	27.8%	53,600	27.1%
65～75才未満	43,893	22.4%	47,505	24.3%	49,835	25.2%
75才以上	92,296	47.1%	84,793	43.3%	86,122	43.5%
合計	195,961	100.0%	195,646	100.0%	197,926	100.0%



4. 救命救急センター外来利用状況

1 診療科別患者数

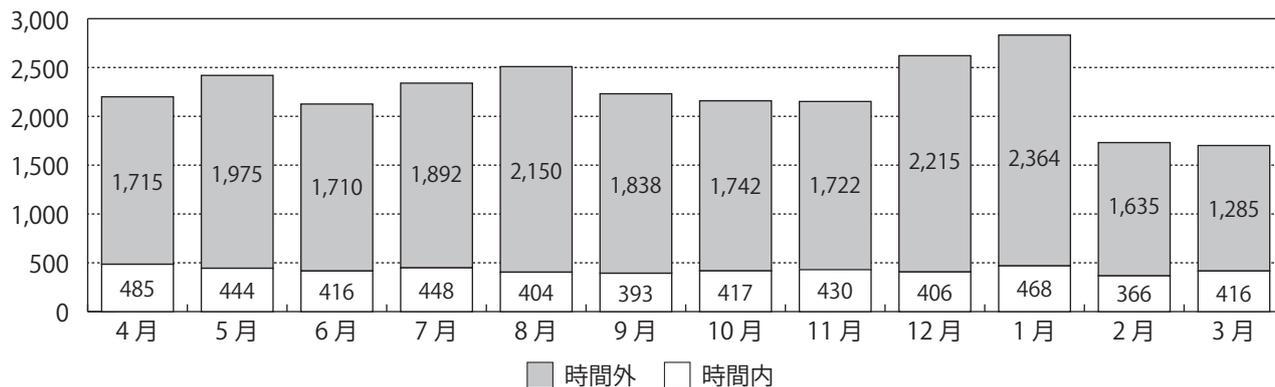
(単位：人)

診療科	時間内		時間外				時間外 合計	合計
	延患者数	入院 (再掲)	日直		当直			
			延患者数	入院	患者数	入院(再掲)		
内科	2,740	1,011	2,846	535	6,860	1,465	9,706	12,446
精神科	11	0	7	0	19	0	26	37
小児科	464	52	1,144	110	2,896	323	4,040	4,504
外科	190	118	181	86	480	310	661	851
整形外科	648	103	848	77	1,597	124	2,445	3,093
形成外科	130	0	183	1	447	2	630	760
脳神経外科	301	99	269	63	768	141	1,037	1,338
呼吸器外科	12	5	17	12	32	17	49	61
心臓外科	8	5	3	2	9	3	12	20
皮膚科	120	11	352	17	626	26	978	1,098
泌尿器科	180	20	237	19	657	34	894	1,074
産婦人科	40	3	125	9	204	40	329	369
眼科	26	1	67	0	162	1	229	255
耳鼻咽喉科	193	11	371	14	649	33	1,020	1,213
麻酔科	1	0	2	0	2	0	4	5
歯科口腔外科	29	0	52	4	131	3	183	212
合計	5,093	1,439	6,704	949	15,539	2,522	22,243	27,336
前年度	5,238	1,455	7,053	992	16,416	2,516	23,469	28,707
前年度対比	97.2%	98.9%	95.1%	95.7%	94.7%	100.2%	94.8%	95.2%

2 月別患者数

(単位：人)

年月日	時間内		時間外				時間外 合計	合計	
	患者数	入院(再掲)	日直		当直				
			患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)			
H31	4月	485	142	433	66	1,282	214	1,715	2,200
R 1	5月	444	120	586	84	1,389	226	1,975	2,419
	6月	416	128	480	83	1,230	195	1,710	2,126
	7月	448	124	521	76	1,371	221	1,892	2,340
	8月	404	102	687	101	1,463	204	2,150	2,554
	9月	393	97	519	66	1,319	205	1,838	2,231
	10月	417	116	482	77	1,260	228	1,742	2,159
	11月	430	134	514	76	1,208	205	1,722	2,152
	12月	406	114	771	78	1,444	229	2,215	2,621
	R 2	1月	468	142	859	107	1,505	218	2,364
2月		366	106	495	82	1,140	194	1,635	2,001
3月		416	114	357	53	928	183	1,285	1,701
合計	5,093	1,439	6,704	949	15,539	2,522	22,243	27,336	



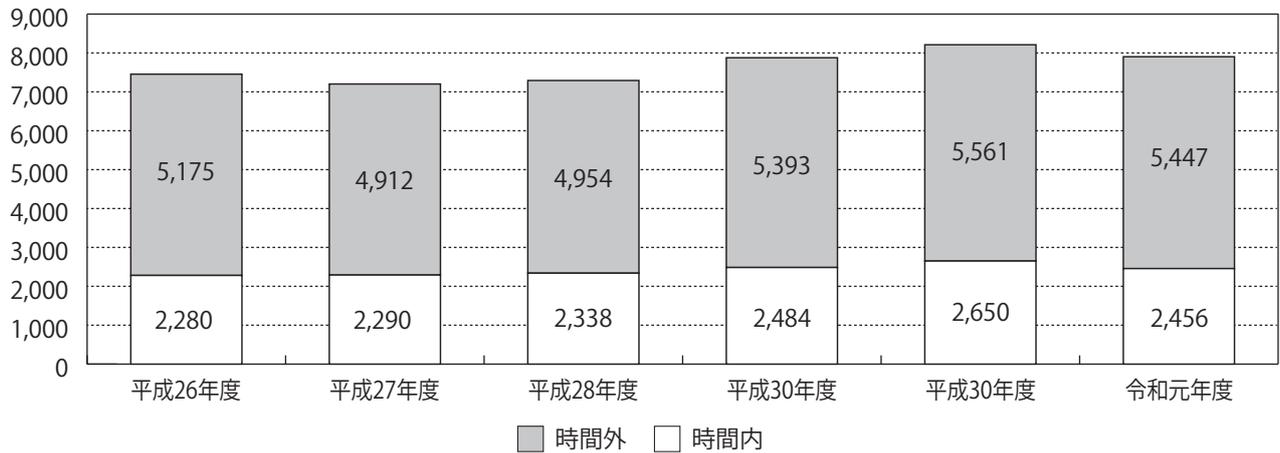


3 救急者受入状況

①救急車受入数推移

(単位：人)

	時間内	時間外	総数	前年比
平成26年度	2,280	5,175	7,455	100.7%
平成27年度	2,290	4,912	7,202	96.6%
平成28年度	2,338	4,954	7,292	101.2%
平成29年度	2,484	5,393	7,877	108.0%
平成30年度	2,650	5,561	8,211	104.2%
令和元年度	2,456	5,447	7,903	96.2%



②診療科別救急車受入数

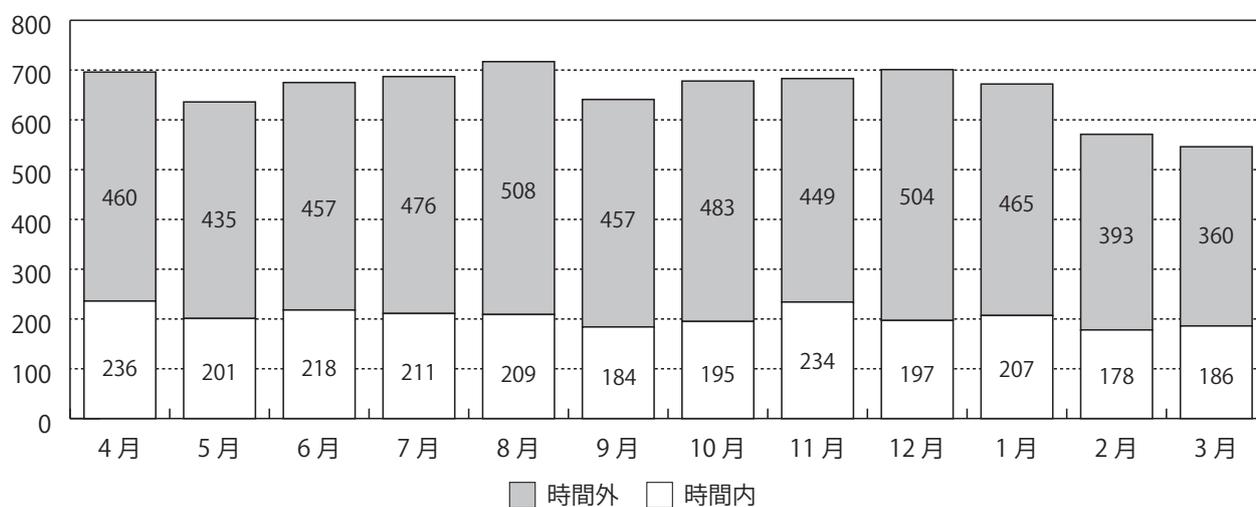
(単位：人)

診療科	時間内		時間外				時間外 合計	合計
	患者数	入院(再掲)	日直		当直			
			患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)		
内科	1,426	780	606	286	2,355	987	2,961	4,387
精神科	4	0	1	0	7	0	8	12
小児科	83	23	62	18	296	104	358	441
外科	106	86	41	35	178	135	219	325
整形外科	384	91	232	55	542	98	774	1,158
形成外科	45	0	36	1	81	2	117	162
脳神経外科	175	90	111	48	328	123	439	614
呼吸器外科	4	4	8	7	11	10	19	23
心臓外科	3	2	1	1	7	3	8	11
皮膚科	16	6	13	5	36	11	49	65
泌尿器科	80	14	31	6	154	23	185	265
産婦人科	13	2	4	2	35	13	39	52
眼科	5	0	1	0	7	0	8	13
耳鼻咽喉科	104	10	49	2	197	13	246	350
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	8	0	1	0	16	1	17	25
合計	2,456	1,108	1,197	466	4,250	1,523	5,447	7,903
前年度	2,650	1,137	1,214	492	4,347	1,490	5,561	8,211
前年対比	92.7%	97.4%	98.6%	94.7%	97.8%	102.2%	98.0%	96.2%

③月別救急車受入数

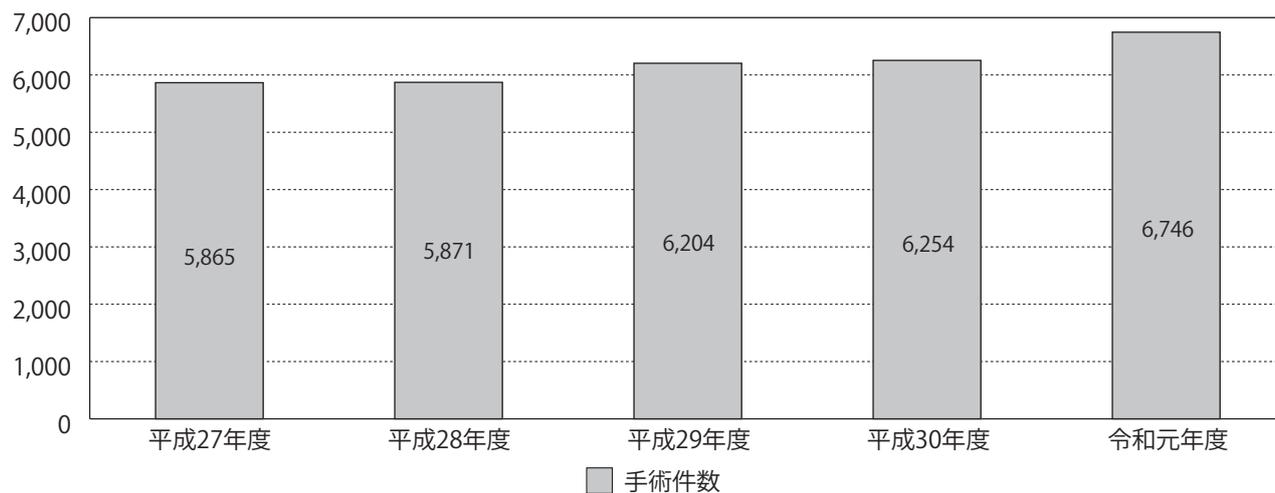
(単位：人)

年月日	時間内		時間外						合計
			日直		当直		時間外 合計		
	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)			
H31	4月	236	103	85	34	375	146	460	696
R 1	5月	201	95	93	33	342	139	435	636
	6月	218	95	108	42	349	113	457	675
	7月	211	93	91	34	385	133	476	687
	8月	209	82	112	42	396	121	508	717
	9月	184	83	105	31	352	119	457	641
	10月	195	93	109	43	374	142	483	678
	11月	234	94	104	38	345	118	449	683
	12月	197	90	116	41	388	143	504	701
R 2	1月	207	104	115	60	350	135	465	672
	2月	178	87	90	43	303	115	393	571
	3月	186	89	69	25	291	99	360	546
合計		2,456	1,108	1,197	466	4,250	1,523	5,447	7,903



5. 手術件数

	平成30年度		令和元年度	
	件数	緊急件数(再掲)	件数	緊急件数(再掲)
内科	106	8	57	4
外科	1,470	318	1,548	398
整形外科	1,167	177	1,207	211
形成外科	337	6	334	6
脳神経外科	233	120	257	142
呼吸器外科	205	11	243	9
心臓外科	108	20	127	17
皮膚科	23	0	27	0
泌尿器科	308	4	308	13
産婦人科	569	65	567	63
眼科	1,144	29	1,462	21
耳鼻咽喉科	363	15	362	9
歯科口腔外科	208	0	235	0
麻酔科	13	1	12	0
合計	6,254	774	6,746	893



6. 分娩数・死亡数・剖検数

(単位：人)

	令和元年度		平成30年度		
	当院	豊田市	当院	豊田市	
分 娩 数	260	3,229	246	3,466	
死 亡 数	悪 性 新 生 物	368	959	353	943
	心 疾 患	68	293	56	302
	肺炎及び気管支炎	48	187	37	140
	脳 血 管 疾 患	43	212	45	217
	老 衰	16	395	5	353
	不 慮 の 事 故	11	89	17	78
	腎 疾 患	20	46	16	68
	肝 疾 患	21	43	8	34
	自 殺	1	46	0	56
	高 血 圧 性 疾 患	0	1	0	17
	そ の 他	181	917	200	1,002
	合 計	777	3,188	737	3,210
剖 検 数	17	-	15	-	

- (注) 1) 当院の死亡数は、入院中に死亡した数
 2) 豊田市の人数は、1月～12月の数字を計上

令和元年度 悪性新生物（発生臓器別内訳）

[当院]

順位	臓器別	件数
1	肺	73
2	胃	44
3	膵	40
4	結腸	22
4	肝	21

[豊田市]

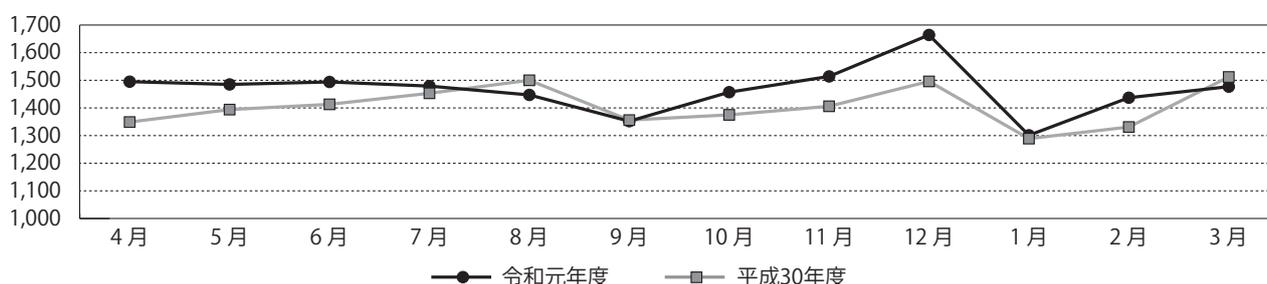
順位	臓器別	件数
1	肺	167
2	胃	127
3	結腸	70
4	肝	86
5	膵	96

7. 退院患者統計

集計の対象は入院年月日にかかわらず、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの退院患者とした。
データは退院サマリおよび電子カルテ本文より抽出した。

1 診療科別・月別退院患者数

	総数	比率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡
総 数	17,602	100.0%	1,495	1,485	1,494	1,479	1,447	1,352	1,457	1,514	1,664	1,301	1,437	1,477	777
内 科	7,563	43.0%	663	627	626	627	607	555	604	691	729	578	631	625	571
小 児 科	1,193	6.8%	124	112	91	124	104	105	109	87	100	75	92	70	0
外 科	1,899	10.8%	147	158	171	145	157	160	164	174	178	128	149	168	101
整形外科	1,368	7.8%	118	112	122	119	113	94	99	115	121	120	120	115	7
形成外科	213	1.2%	20	20	19	22	12	19	16	19	19	15	17	15	0
脳神経外科	510	2.9%	47	40	33	39	36	48	45	50	53	38	40	41	41
呼吸器外科	303	1.7%	19	25	21	28	29	22	24	24	36	22	28	25	7
心臓血管外	121	0.7%	9	12	9	7	11	11	12	9	14	7	11	9	5
皮 膚 科	215	1.2%	26	22	11	16	28	17	24	17	14	15	8	17	2
泌尿器科	773	4.4%	73	75	75	66	59	62	56	47	82	60	62	56	19
産婦人科	1,060	6.0%	95	84	99	85	78	86	101	90	97	70	84	91	16
眼 科	961	5.5%	47	78	90	86	74	60	85	91	86	73	84	107	0
耳鼻咽喉科	594	3.4%	45	56	52	53	55	45	49	37	62	43	42	55	6
麻 酔 科	44	0.2%	5	1	3	1	4	5	5	7	5	2	3	3	0
歯科口腔外	785	4.5%	57	63	72	61	80	63	64	56	68	55	66	80	2
30年度	16,874		1,349	1,394	1,413	1,453	1,500	1,356	1,375	1,406	1,496	1,289	1,331	1,512	



2 診療科別・死亡退院患者数

診療科	総数	比率	剖検数	剖検率	平均在院日数	48時間以内死亡	粗死亡率	精死亡率
総 数	777	100.0%	15	1.9%	20.6	106	4.4%	3.8%
内 科	571	73.5%	13	2.3%	19.5	72	7.5%	6.6%
小 児 科	0	-	-	-	0	-	-	-
外 科	101	13.0%	2	2.0%	25.1	10	5.3%	4.8%
整形外科	7	0.9%	0	0.0%	21	1	0.5%	0.4%
形成外科	0	-	-	-	0	-	-	-
脳神経外科	41	5.3%	0	0.0%	13.4	14	8.0%	5.3%
呼吸器外科	7	0.9%	0	0.0%	17.6	0	2.3%	2.3%
心臓血管外	5	0.6%	0	0.0%	31.2	0	4.1%	4.1%
皮 膚 科	2	0.3%	0	0.0%	55.5	0	0.9%	0.9%
泌尿器科	19	2.4%	0	0.0%	27.8	2	2.5%	2.2%
産婦人科	16	2.1%	0	0.0%	28.1	1	1.5%	1.4%
眼 科	0	-	-	-	0	-	-	-
耳鼻咽喉科	6	0.8%	0	0.0%	41.2	0	1.0%	1.0%
麻 酔 科	0	-	-	-	0	-	-	-
歯科口腔外	2	0.3%	0	0.0%	39.0	0	0.3%	0.3%

※精死亡率：(総死亡数 - 入院後48時間以内死亡数) / 退院患者数 × 100を表す

3 地域別・年齢階層別退院患者数

地域	性別	総数	比率(%)	平均年齢	0~9歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	~89歳	90歳~
総数	計	17,602	100.0	59.84	1,294	533	794	884	1,289	1,790	2,683	4,882	2,771	682
	男	9,821	100.0	60.45	739	288	358	352	615	1,045	1,710	2,977	1,499	238
	女	7,781	100.0	59.06	555	245	436	532	674	745	973	1,905	1,272	444
井郷地区	計	844	4.8	63.13	51	20	24	35	51	74	125	301	137	26
	男	476	4.8	63.78	31	8	8	17	32	34	78	182	76	10
	女	368	4.7	62.29	20	12	16	18	19	40	47	119	61	16
猿投地区	計	463	2.6	59.56	32	17	14	23	39	46	98	118	56	20
	男	261	2.7	59.41	17	7	8	9	25	32	57	75	27	4
	女	202	2.6	59.74	15	10	6	14	14	14	41	43	29	16
猿投台地区	計	727	4.1	64.26	39	9	23	29	59	53	96	262	135	22
	男	408	4.2	64.50	23	5	10	11	29	34	62	156	73	5
	女	318	4.1	64.14	15	4	13	18	30	19	34	106	62	17
逢妻地区	計	1,241	7.1	61.40	79	35	42	56	95	119	202	371	188	54
	男	723	7.4	61.52	49	18	22	16	52	81	140	224	98	23
	女	518	6.7	61.23	30	17	20	40	43	38	62	147	90	31
朝日丘地区	計	873	5.0	60.58	52	25	49	42	46	115	128	230	153	33
	男	463	4.7	60.24	34	14	21	19	18	64	73	134	74	12
	女	411	5.3	60.82	19	11	28	23	28	51	55	96	79	21
崇化館地区	計	1,273	7.2	63.00	70	33	39	51	96	132	188	360	222	82
	男	724	7.4	62.49	42	19	19	20	53	77	126	227	114	27
	女	549	7.1	63.68	28	14	20	31	43	55	62	133	108	55
豊南地区	計	286	1.6	62.48	16	8	8	7	18	28	51	101	41	8
	男	145	1.5	63.21	11	3	2	2	6	13	30	53	20	5
	女	141	1.8	61.72	5	5	6	5	12	15	21	48	21	3
保見地区	計	902	5.1	60.10	62	29	43	40	68	80	144	269	130	37
	男	511	5.2	60.34	34	18	22	22	28	41	101	172	60	13
	女	391	5.0	59.78	28	11	21	18	40	39	43	97	70	24
梅坪台地区	計	620	3.5	58.29	39	14	48	38	40	83	90	176	82	10
	男	326	3.3	58.38	22	8	20	14	20	51	51	94	44	2
	女	294	3.8	58.19	17	6	28	24	20	32	39	82	38	8
浄水地区	計	779	4.4	49.50	118	28	59	79	82	57	67	208	68	13
	男	413	4.2	50.24	70	21	22	33	25	37	33	132	37	3
	女	366	4.7	48.67	48	7	37	46	57	20	34	76	31	10
益富地区	計	273	1.6	63.95	18	6	6	12	10	10	60	97	38	16
	男	158	1.6	65.66	8	3	3	5	4	5	38	61	24	7
	女	115	1.5	61.61	10	3	3	7	6	5	22	36	14	9
美里地区	計	595	3.4	61.46	42	17	27	18	45	54	77	188	106	21
	男	298	3.0	61.74	25	10	8	7	21	23	35	107	58	4
	女	297	3.8	61.18	17	7	19	11	24	31	42	81	48	17
高橋地区	計	810	4.6	64.12	45	22	25	32	61	54	114	240	162	55
	男	455	4.6	64.77	25	11	12	14	27	27	72	153	99	15
	女	355	4.6	63.28	20	11	13	18	34	27	42	87	63	40
石野地区	計	225	1.3	65.25	16	2	7	8	8	14	31	81	44	14
	男	141	1.4	65.53	13	2	2	2	2	10	19	57	27	7
	女	84	1.1	64.77	3	0	5	6	6	4	12	24	17	7
松平地区	計	174	1.0	62.52	12	5	5	5	11	21	32	40	33	10
	男	106	1.1	62.00	9	4	2	2	3	12	25	27	18	4
	女	68	0.9	63.34	3	1	3	3	8	9	7	13	15	6
前林地区	計	392	2.2	64.60	16	11	16	10	20	37	64	126	73	19
	男	218	2.2	65.90	4	4	7	2	13	19	45	93	31	0
	女	174	2.2	62.97	12	7	9	8	7	18	19	33	42	19
竜神地区	計	539	3.1	60.12	36	13	23	26	36	73	82	166	70	14
	男	274	2.8	61.43	15	5	17	9	17	28	47	94	38	4
	女	265	3.4	58.77	21	8	6	17	19	45	35	72	32	10
若園地区	計	172	1.0	62.63	18	0	3	3	6	20	27	57	31	7
	男	72	0.7	59.44	8	0	2	1	3	13	15	15	13	2
	女	100	1.3	64.92	10	0	1	2	3	7	12	42	18	5
高岡地区	計	284	1.6	62.32	25	4	4	14	13	31	45	84	51	13
	男	161	1.6	62.48	14	2	3	5	8	17	27	55	25	5
	女	123	1.6	62.11	11	2	1	9	5	14	18	29	26	8

地域	性別	総数	比率(%)	平均年齢	0~9歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	~89歳	90歳~
上郷地区	計	165	0.9	63.06	14	0	2	4	11	18	27	57	31	1
	男	105	1.1	64.94	8	0	0	1	4	15	20	38	19	0
	女	60	0.8	59.77	6	0	2	3	7	3	7	19	12	1
末野原地区	計	257	1.5	56.90	27	8	15	17	14	20	38	77	32	9
	男	150	1.5	55.26	17	6	6	11	9	12	26	46	14	3
	女	107	1.4	59.21	10	2	9	6	5	8	12	31	18	6
藤岡地区	計	469	2.7	63.12	21	6	25	13	27	73	88	102	92	22
	男	250	2.5	61.60	9	1	12	9	14	48	60	59	33	5
	女	219	2.8	64.86	12	5	13	4	13	25	28	43	59	17
藤岡南地区	計	553	3.1	56.27	59	15	26	31	25	74	122	127	61	13
	男	309	3.1	57.13	34	9	9	17	12	35	77	77	33	6
	女	244	3.1	55.17	25	6	17	14	13	39	45	50	28	7
小原地区	計	235	1.3	71.25	9	6	2	6	6	22	28	47	68	41
	男	125	1.3	68.52	6	5	1	3	3	10	19	27	39	12
	女	110	1.4	74.35	3	1	1	3	3	12	9	20	29	29
足助地区	計	349	2.0	69.72	15	4	3	6	9	15	72	105	97	23
	男	230	2.3	71.95	7	2	0	1	4	11	51	68	75	11
	女	119	1.5	65.43	8	2	3	5	5	4	21	37	22	12
下山地区	計	75	0.4	67.88	2	0	3	0	2	3	30	17	16	2
	男	56	0.6	68.25	0	0	3	0	1	2	25	14	11	0
	女	19	0.2	66.79	2	0	0	0	1	1	5	3	5	2
稲武地区	計	124	0.7	71.53	5	2	2	0	3	4	20	39	34	15
	男	82	0.8	70.67	4	1	2	0	2	3	14	24	21	11
	女	42	0.5	73.21	1	1	0	0	1	1	6	15	13	4
旭地区	計	153	0.9	66.22	5	0	6	7	6	18	31	43	26	11
	男	89	0.9	64.90	1	0	6	5	2	10	23	28	10	4
	女	64	0.8	68.05	4	0	0	2	4	8	8	15	16	7
みよし市	計	2,287	13.0	55.20	240	97	120	132	204	255	310	557	320	52
	男	1,314	13.4	56.96	139	50	52	42	97	164	209	343	191	27
	女	973	12.5	52.81	101	47	68	90	107	91	101	214	129	25
東郷町	計	237	1.3	56.57	24	9	6	9	31	23	42	56	32	5
	男	136	1.4	59.82	12	6	2	1	12	14	30	36	23	0
	女	101	1.3	52.20	12	3	4	8	19	9	12	20	9	5
日進市	計	254	1.4	54.16	20	13	16	24	34	24	27	46	48	2
	男	136	1.4	57.76	9	5	8	10	14	14	15	29	30	2
	女	118	1.5	50.00	11	8	8	14	20	10	12	17	18	0
岡崎市	計	171	1.0	54.20	10	12	11	9	15	24	40	34	15	1
	男	89	0.9	56.73	5	5	4	2	8	17	21	15	11	1
	女	82	1.1	51.45	5	7	7	7	7	7	19	19	4	0
刈谷市	計	28	0.2	48.54	3	0	4	2	4	4	5	4	2	0
	男	11	0.1	52.91	1	0	0	1	1	4	2	1	1	0
	女	17	0.2	45.71	2	0	4	1	3	0	3	3	1	0
名古屋市	計	212	1.2	45.67	18	13	30	27	33	27	20	24	15	5
	男	113	1.2	46.93	10	9	15	9	16	15	12	17	6	4
	女	99	1.3	44.24	8	4	15	18	17	12	8	7	9	1
安城市	計	15	0.1	35.93	1	4	2	4	0	1	0	2	1	0
	男	5	0.1	30.20	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0
	女	10	0.1	38.80	1	3	1	1	0	1	0	2	1	0
知立市	計	25	0.1	47.32	1	1	3	3	8	1	5	3	0	0
	男	21	0.2	48.05	1	1	2	2	7	1	5	2	0	0
	女	4	0.1	43.50	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0
瀬戸市	計	75	0.4	48.03	7	6	6	8	6	12	16	7	7	0
	男	37	0.4	41.84	6	6	2	2	3	6	4	6	2	0
	女	38	0.5	54.05	1	0	4	6	3	6	12	1	5	0
長久手市	計	25	0.1	42.56	1	2	3	5	6	4	2	1	1	0
	男	14	0.1	40.36	1	1	1	4	3	2	2	0	0	0
	女	11	0.1	45.36	0	1	2	1	3	2	0	1	1	0
その他市外	計	257	1.5	50.64	9	26	30	28	26	33	27	40	32	6
	男	130	1.3	50.73	6	12	17	10	9	19	16	28	13	0
	女	127	1.6	50.54	3	14	13	18	17	14	11	12	19	6
県外	計	164	0.9	47.71	17	11	14	21	15	34	12	19	21	0
	男	86	0.8	48.46	9	6	5	9	8	25	5	8	11	0
	女	78	1.0	46.94	8	5	9	12	7	9	7	11	10	0

4 疾病別・診療科別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総	内	小	外	整形	形成	脳	呼	心	皮	泌	産	眼	耳	麻	歯	死	剖
		数	科	児	科	外科	外科	神経	吸	臓	膚	尿	婦	科	鼻	酔	科	亡	検
																		数	数
総 数	計	17,602	7,563	1,193	1,899	1,368	213	510	303	121	215	773	1,060	961	594	44	785	777	15
	男	9,821	4,671	671	1,064	674	107	319	232	86	129	664	0	442	369	20	373	477	6
	女	7,781	2,892	522	835	694	106	191	71	35	86	109	1,060	519	225	24	412	300	9
I 感染症及び寄生虫症	計	427	189	149	13	1	0	0	2	0	48	3	5	0	10	10	2	11	1
	男	223	97	78	3	0	0	0	1	0	32	3	0	0	3	4	2	5	1
	女	209	92	71	10	1	0	0	1	0	16	0	5	0	7	6	0	6	0
II 新生物	計	3,380	1,297	1	731	16	51	49	183	1	35	238	546	0	187	0	45	365	1
	男	1,786	896	1	331	8	23	31	131	1	20	203	0	0	116	0	25	229	1
	女	1,594	401	0	400	8	28	18	52	0	15	35	546	0	71	0	20	136	0
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	109	69	19	6	0	0	0	4	1	2	1	5	0	2	0	0	7	2
	男	65	45	11	2	0	0	0	4	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0
	女	44	24	8	4	0	0	0	0	0	1	1	5	0	1	0	0	4	2
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	421	357	14	13	2	4	0	7	1	0	0	0	6	17	0	0	8	0
	男	225	194	8	5	2	4	0	5	1	0	0	0	4	2	0	0	5	0
	女	196	163	6	8	0	0	0	2	0	0	0	0	2	15	0	0	3	0
V 精神及び行動の障害	計	23	21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	14	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VI 神経系の疾患	計	393	276	20	0	46	1	30	0	0	0	0	0	0	18	2	0	12	3
	男	225	161	9	0	25	1	18	0	0	0	0	0	0	11	0	0	5	1
	女	168	115	11	0	21	0	12	0	0	0	0	0	0	7	2	0	7	2
VII 眼及び付属器の疾患	計	1,017	2	0	0	0	68	0	0	0	0	0	0	947	0	0	0	0	0
	男	466	1	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	433	0	0	0	0	0
	女	551	1	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	514	0	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	72	3	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	63	0	0	0	0
	男	39	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0
	女	33	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0
IX 循環器系の疾患	計	2,740	2,264	3	133	0	4	220	1	115	0	0	0	0	0	0	0	118	3
	男	1,727	1,425	1	90	0	2	127	1	81	0	0	0	0	0	0	0	63	0
	女	1,013	839	2	43	0	2	93	0	34	0	0	0	0	0	0	0	55	3
X 呼吸器系の疾患	計	1,753	925	474	9	0	0	0	81	0	0	0	0	0	259	0	5	138	2
	男	1,124	595	267	7	0	0	0	70	0	0	0	0	0	183	0	2	101	2
	女	629	330	207	2	0	0	0	11	0	0	0	0	0	76	0	3	37	0
XI 消化器系の疾患	計	2,527	902	18	895	1	0	0	0	0	0	0	7	0	4	0	700	68	2
	男	1,395	501	10	566	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	317	40	1
	女	1,132	401	8	329	0	0	0	0	0	0	0	7	0	4	0	383	28	1
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	198	24	17	2	5	30	0	0	0	112	0	1	1	4	0	2	4	0
	男	115	13	9	2	5	18	0	0	0	63	0	0	0	3	0	2	0	0
	女	83	11	8	0	0	12	0	0	0	49	0	1	1	1	0	0	4	0
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	483	80	40	3	318	4	0	0	0	1	1	0	0	3	32	1	5	1
	男	243	38	28	2	150	4	0	0	0	1	1	0	0	2	16	1	2	0
	女	240	42	12	1	168	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16	0	3	1
XIV 尿路性器系の疾患	計	863	370	34	15	2	0	0	0	0	0	306	136	0	0	0	0	22	0
	男	439	177	22	5	0	0	0	0	0	0	235	0	0	0	0	0	12	0
	女	424	193	12	10	2	0	0	0	0	0	71	136	0	0	0	0	10	0
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	344	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	342	0	0	0	0	0	0
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	344	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	342	0	0	0	0	0	0
XVI 周産期に発生した病態	計	60	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

国際分類大項目分類		総	内	小	外	整形	形成	脳神	呼吸	心臓	皮	泌尿	産婦	眼	耳鼻	麻	歯科	死	剖
		数	科	児	科	外科	外科	経外科	器外科	血管	膚	器科	人科	科	咽喉科	酔科	科	亡	検
Ⅶ 先天奇形, 変形及び染色体異常	計	37	6	3	0	7	2	3	0	2	0	2	1	0	11	0	0	0	0
	男	19	5	2	0	4	2	1	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0
	女	18	1	1	0	3	0	2	0	1	0	0	1	0	9	0	0	0	0
Ⅷ 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	254	74	168	4	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	1	5	0
	男	140	39	94	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	1	3	0
	女	114	35	74	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
Ⅸ 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	計	1,070	99	16	48	623	23	170	25	1	17	9	6	7	11	0	15	14	0
	男	575	50	9	32	287	15	116	20	1	12	8	0	5	8	0	12	9	0
	女	495	49	7	16	336	8	54	5	0	5	1	6	2	3	0	3	5	0
Ⅹ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,426	603	150	27	346	26	37	0	0	0	211	11	0	1	0	14	0	0
	男	971	420	87	19	191	6	26	0	0	0	210	0	0	1	0	11	0	0
	女	455	183	63	8	155	20	11	0	0	0	1	11	0	0	0	3	0	0

※主病名に対する死亡数であるため、死因統計とは異なる

5 診療科別・在院期間別退院患者数

		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
総数	計	17,602	10,432	3,461	1,530	986	977	165	47	4	0	0	11.2
	男	9,821	5,830	1,905	864	540	565	85	29	3	0	0	11.2
	女	7,781	4,602	1,556	666	446	412	80	18	1	0	0	11.1
内科	計	7,563	3,656	1,804	834	559	590	96	24	0	0	0	13.5
	男	4,671	2,390	1,066	483	318	349	51	14	0	0	0	12.9
	女	2,892	1,266	738	351	241	241	45	10	0	0	0	14.5
小児科	計	1,193	1,113	65	8	4	3	0	0	0	0	0	4.5
	男	671	621	40	6	1	3	0	0	0	0	0	4.6
	女	522	492	25	2	3	0	0	0	0	0	0	4.4
外科	計	1,899	897	523	190	123	134	23	8	1	0	0	13.7
	男	1,064	515	273	120	67	78	8	3	0	0	0	13.1
	女	835	382	250	70	56	56	15	5	1	0	0	14.6
整形外科	計	1,368	681	241	244	127	65	10	0	0	0	0	12.0
	男	674	378	115	91	51	34	5	0	0	0	0	11.1
	女	694	303	126	153	76	31	5	0	0	0	0	12.9
形成外科	計	213	168	19	9	3	4	4	5	1	0	0	9.7
	男	107	77	9	8	3	3	3	3	1	0	0	13.1
	女	106	91	10	1	0	1	1	2	0	0	0	6.4
脳神経外科	計	510	171	115	64	65	74	15	4	2	0	0	20.1
	男	319	115	79	39	38	36	6	4	2	0	0	19.3
	女	191	56	36	25	27	38	9	0	0	0	0	21.5
呼吸器外科	計	303	103	150	26	13	8	2	1	0	0	0	12.0
	男	232	75	114	21	11	8	2	1	0	0	0	12.7
	女	71	28	36	5	2	0	0	0	0	0	0	9.8
心臓血管外	計	121	4	1	48	44	21	2	1	0	0	0	27.7
	男	86	3	1	36	28	15	2	1	0	0	0	28.3
	女	35	1	0	12	16	6	0	0	0	0	0	26.1
皮膚科	計	215	138	57	9	6	4	1	0	0	0	0	8.7
	男	129	89	29	5	2	3	1	0	0	0	0	8.5
	女	86	49	28	4	4	1	0	0	0	0	0	9.0
泌尿器科	計	773	596	98	30	16	28	5	0	0	0	0	7.7
	男	664	528	72	24	12	23	5	0	0	0	0	7.4
	女	109	68	26	6	4	5	0	0	0	0	0	9.6

		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
産婦人科	計	1,060	780	215	24	10	26	5	0	0	0	0	7.8
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,060	780	215	24	10	26	5	0	0	0	0	7.8
眼科	計	961	910	34	14	1	2	0	0	0	0	0	3.4
	男	442	418	15	7	1	1	0	0	0	0	0	3.5
	女	519	492	19	7	0	1	0	0	0	0	0	3.3
耳鼻咽喉科	計	594	455	99	16	7	12	2	3	0	0	0	8.6
	男	369	273	67	12	4	8	2	3	0	0	0	9.2
	女	225	182	32	4	3	4	0	0	0	0	0	7.6
麻酔科	計	44	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.6
	男	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.3
	女	24	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.9
歯科口腔外	計	785	716	40	14	8	6	0	1	0	0	0	4.2
	男	373	328	25	12	4	4	0	0	0	0	0	4.7
	女	412	388	15	2	4	2	0	1	0	0	0	3.7

6 疾病別・在院期間別退院患者数（大分類）

国際分類大項目分類		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
総数	計	17,602	10,432	3,461	1,530	986	977	165	47	4	0	0	11.2
	男	9,821	5,830	1,905	864	540	565	85	29	3	0	0	11.2
	女	7,781	4,602	1,556	666	446	412	80	18	1	0	0	11.1
I 感染症及び寄生虫症	計	432	296	84	20	11	19	2	0	0	0	0	9.4
	男	223	154	43	10	4	11	1	0	0	0	0	9.6
	女	209	142	41	10	7	8	1	0	0	0	0	9.2
II 新生物	計	3,380	1,385	930	415	259	321	54	15	1	0	0	15.3
	男	1,786	600	518	282	155	194	27	10	0	0	0	16.6
	女	1,594	785	412	133	104	127	27	5	1	0	0	13.7
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	109	52	32	12	7	6	0	0	0	0	0	11.9
	男	65	30	15	10	5	5	0	0	0	0	0	12.9
	女	44	22	17	2	2	1	0	0	0	0	0	10.3
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	421	208	109	48	23	28	2	3	0	0	0	13.8
	男	225	112	68	16	10	15	1	3	0	0	0	13.9
	女	196	96	41	32	13	13	1	0	0	0	0	13.7
V 精神及び行動の障害	計	23	5	5	4	0	9	0	0	0	0	0	24.0
	男	14	5	1	3	0	5	0	0	0	0	0	22.4
	女	9	0	4	1	0	4	0	0	0	0	0	26.6
VI 神経系の疾患	計	393	234	75	30	25	24	5	0	0	0	0	10.8
	男	225	144	41	15	11	12	2	0	0	0	0	9.6
	女	168	90	34	15	14	12	3	0	0	0	0	12.3
VII 眼及び付属器の疾患	計	1,017	969	33	13	1	1	0	0	0	0	0	3.2
	男	466	445	14	6	1	0	0	0	0	0	0	3.2
	女	551	524	19	7	0	1	0	0	0	0	0	3.2
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	72	42	30	0	0	0	0	0	0	0	0	6.7
	男	39	19	20	0	0	0	0	0	0	0	0	7.2
	女	33	23	10	0	0	0	0	0	0	0	0	6.1
IX 循環器系の疾患	計	2,740	1,411	523	328	230	203	32	12	1	0	0	13.4
	男	1,727	977	305	183	128	116	11	6	1	0	0	12.2
	女	1,013	434	218	145	102	87	21	6	0	0	0	15.4
X 呼吸器系の疾患	計	1,753	965	363	153	105	144	18	5	0	0	0	13.0
	男	1,124	602	238	105	73	91	10	5	0	0	0	13.2
	女	629	363	125	48	32	53	8	0	0	0	0	12.7

国際分類大項目分類		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
XI 消化器系の疾患	計	2,527	1,746	496	127	82	62	11	3	0	0	0	8.4
	男	1,395	953	280	75	44	34	9	0	0	0	0	8.7
	女	1,132	793	216	52	38	28	2	3	0	0	0	8.2
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	198	91	67	17	11	8	2	2	0	0	0	12.7
	男	115	52	39	12	4	6	1	1	0	0	0	12.7
	女	83	39	28	5	7	2	1	1	0	0	0	12.7
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	483	106	167	126	41	28	12	2	1	0	0	17.6
	男	243	58	99	43	17	14	10	1	1	0	0	18.1
	女	240	48	68	83	24	14	2	1	0	0	0	17.0
XIV 尿路性器系の疾患	計	863	544	157	61	47	41	10	3	0	0	0	11.1
	男	439	282	76	30	22	22	6	1	0	0	0	10.9
	女	424	262	81	31	25	19	4	2	0	0	0	11.3
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	344	218	108	5	3	7	3	0	0	0	0	8.8
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	344	218	108	5	3	7	3	0	0	0	0	8.8
XVI 周産期に発生した病態	計	60	51	9	0	0	0	0	0	0	0	0	6.4
	男	30	26	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6.1
	女	30	25	5	0	0	0	0	0	0	0	0	6.7
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	37	25	9	1	1	1	0	0	0	0	0	7.9
	男	19	12	5	0	1	1	0	0	0	0	0	9.4
	女	18	13	4	1	0	0	0	0	0	0	0	6.3
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	254	202	29	11	8	3	1	0	0	0	0	6.9
	男	140	113	18	4	4	1	0	0	0	0	0	6.3
	女	114	89	11	7	4	2	1	0	0	0	0	7.7
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,070	509	191	157	127	70	13	2	1	0	0	14.1
	男	575	306	94	70	58	37	7	2	1	0	0	13.7
	女	495	203	97	87	69	33	6	0	0	0	0	14.6
XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,426	1,373	44	2	5	2	0	0	0	0	0	2.9
	男	971	940	27	0	3	1	0	0	0	0	0	2.8
	女	455	433	17	2	2	1	0	0	0	0	0	3.0

7 疾病別・年齢階層別退院患者数（大分類）

国際分類大項目分類		総数	0～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～	平均年齢
総数	計	17,602	1,294	533	794	884	1,289	1,790	2,683	4,882	2,771	682	59.84
	男	9,821	739	288	358	352	615	1,045	1,710	2,977	1,499	238	60.45
	女	7,781	555	245	436	532	674	745	973	1,905	1,272	444	59.06
I 感染症及び寄生虫症	計	432	133	32	22	17	16	29	27	75	57	24	43.08
	男	223	70	14	9	9	9	17	17	39	31	8	43.21
	女	209	63	18	13	8	7	12	10	36	26	16	42.95
II 新生物	計	3,380	3	19	47	106	292	477	718	1,153	481	84	66.58
	男	1,786	2	10	13	22	40	201	448	707	303	40	69.99
	女	1,594	1	9	34	84	252	276	270	446	178	44	62.75
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	109	14	5	3	5	10	8	12	31	17	4	56.78
	男	65	7	4	1	3	7	6	6	18	11	2	57.17
	女	44	7	1	2	2	3	2	6	13	6	2	56.20
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	421	9	6	16	27	50	74	51	112	61	15	61.68
	男	225	5	4	6	16	35	51	26	53	26	3	58.88
	女	196	4	2	10	11	15	23	25	59	35	12	64.90
V 精神及び行動の障害	計	23	2	0	2	0	3	6	3	6	0	1	55.13
	男	14	2	0	1	0	1	2	3	4	0	1	55.07
	女	9	0	0	1	0	2	4	0	2	0	0	55.22

国際分類大項目分類		総数	0～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～	平均年齢
VI 神経系の疾患	計	393	17	16	17	14	49	54	56	108	55	7	59.31
	男	225	6	11	14	11	26	33	33	61	29	1	58.27
	女	168	11	5	3	3	23	21	23	47	26	6	60.70
VII 眼及び付属器の疾患	計	1,017	0	3	3	3	14	61	211	498	209	15	72.81
	男	466	0	1	2	1	5	28	86	251	86	6	72.94
	女	551	0	2	1	2	9	33	125	247	123	9	72.71
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	72	8	0	1	4	10	16	17	12	3	1	53.78
	男	39	4	0	1	1	5	12	11	5	0	0	52.59
	女	33	4	0	0	3	5	4	6	7	3	1	55.18
IX 循環器系の疾患	計	2,740	3	3	9	43	126	311	486	1,004	587	168	71.66
	男	1,727	2	3	7	35	87	224	372	640	310	47	69.59
	女	1,013	1	0	2	8	39	87	114	364	277	121	75.18
X 呼吸器系の疾患	計	1,753	510	84	87	56	68	63	132	281	327	145	47.99
	男	1,124	290	65	59	40	46	44	96	216	198	70	48.73
	女	629	220	19	28	16	22	19	36	65	129	75	46.67
XI 消化器系の疾患	計	2,527	78	162	341	198	241	251	314	519	349	74	54.61
	男	1,395	51	64	146	98	147	152	200	336	181	20	56.00
	女	1,132	27	98	195	100	94	99	114	183	168	54	52.89
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	198	16	5	13	16	30	19	22	27	31	19	56.65
	男	115	8	5	8	15	21	12	14	12	16	4	51.74
	女	83	8	0	5	1	9	7	8	15	15	15	63.45
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	483	44	34	11	12	31	52	76	158	57	8	57.47
	男	243	29	13	5	9	16	31	39	71	27	3	55.57
	女	240	15	21	6	3	15	21	37	87	30	5	59.39
XIV 尿路性器系の疾患	計	863	40	18	27	58	105	108	121	194	153	39	61.01
	男	439	27	13	4	19	37	65	71	108	81	14	61.82
	女	424	13	5	23	39	68	43	50	86	72	25	60.17
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	344	0	5	82	213	42	2	0	0	0	0	32.96
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	344	0	5	82	213	42	2	0	0	0	0	32.96
XVI 周産期に発生した病態	計	60	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	男	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	37	11	13	2	3	2	1	2	2	1	0	24.16
	男	19	6	4	2	1	1	1	1	2	1	0	28.95
	女	18	5	9	0	2	1	0	1	0	0	0	19.11
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	254	162	9	1	3	8	7	12	17	27	8	25.30
	男	140	91	6	0	3	6	3	6	8	15	2	23.00
	女	114	71	3	1	0	2	4	6	9	12	6	28.12
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,070	49	55	70	50	95	93	130	245	220	63	60.88
	男	575	32	43	50	37	62	58	66	119	94	14	54.89
	女	495	17	12	20	13	33	35	64	126	126	49	67.83
XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,426	135	64	40	56	97	158	293	440	136	7	56.82
	男	971	77	28	30	32	64	105	215	327	90	3	58.82
	女	455	58	36	10	24	33	53	78	113	46	4	52.56



8 診療科別疾患順位（細分類）

細分類病名のままではわかりにくいものに関しては、一部修正を加え掲載

<内科>

順位	コード	病名	総数	平均在院 日数	在院日数 中央値	最高在院 日数	最低在院 日数
1	I 500	うっ血性心不全	420	20	32	174	2
2	I 208	労作性狭心症	291	3.7	7	33	1
3	J 690	誤嚥性肺炎	234	26.3	34	105	1
4	I 480	発作性心房細動	232	4.4	7	66	1
5	J 189	急性肺炎	167	16.3	21	92	1
6	Z 138	その他の検査（睡眠時無呼吸，腎生検，気管支鏡）入院	162	3	7	24	2
7	Z 136	心臓カテーテル検査入院	147	2.7	3.5	10	2
8	I 481	持続性心房細動	146	4.8	9	44	3
9	Z 122	肺生検入院	142	2.2	8	10	2
10	N 185	慢性腎臓病，ステージ5	130	16.7	22.5	87	2

<小児科>

順位	コード	病名	総数	平均在院 日数	在院日数 中央値	最高在院 日数	最低在院 日数
1	R 560	熱性けいれん	125	3.9	5	9	1
2	J 189	急性肺炎	82	4.5	6	13	3
3	J 209	急性気管支炎	67	4.2	5	8	2
4	Z 130	食物負荷試験	64	1	1	1	1
5	J 450	小児気管支喘息	54	5.2	5.5	9	2
6	A 099	急性胃腸炎	45	3.2	3.5	6	1
7	J 029	急性咽頭炎	41	3.9	4	6	2
8	M 303	皮膚粘膜リンパ節症候群 [川崎病]	37	10.6	11	19	6
9	A 080	ロタウイルス性腸炎	34	3.9	3.5	5	2
10	J 210	R S ウイルスによる急性細気管支炎	32	4.7	5	8	2

<外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院 日数	在院日数 中央値	最高在院 日数	最低在院 日数
1	K 409	片側単径ヘルニア	162	3.6	5	13	2
2	K 358	急性虫垂炎	102	5.6	8	28	2
3	K 801	慢性胆のう炎を伴う胆のう結石症	92	6.7	9	23	4
4	C 504	乳房上外側4分の1の悪性新生物	84	11	21	62	1
5	K 913	術後腸閉塞	83	12.1	14.5	58	5
6	C 162	胃体部の悪性新生物	56	17.2	18.5	54	2
7	C 20	直腸の悪性新生物	54	21.3	21.5	90	2
	C 187	S状結腸の悪性新生物	54	23.1	19.5	83	2
	K 800	急性胆のう炎を伴う胆のう結石症	54	6.9	8.5	27	4
8	K 353	限局性腹膜炎を伴う急性虫垂炎	44	9.5	12	24	5
9	C 163	幽門前庭の悪性新生物	34	22	22.5	57	3
10	C 182	上行結腸の悪性新生物	33	20.1	16	104	7

<整形外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	Z138	脊髄造影影検査入院	226	2	3	9	1
2	Z470	術後抜釘入院	115	3.4	6.5	15	2
3	S7200	閉鎖性大腿骨頸部骨折	114	20.8	21.5	80	3
4	S7210	閉鎖性大腿骨転子部貫通骨折	91	21.3	23.5	70	9
5	M4806	腰部脊柱管狭窄症	46	15.4	16.5	35	6
6	S5250	閉鎖性前腕橈骨遠位端骨折	41	4.7	5	31	2
7	M170	両側性原発性膝関節症	35	19.5	19	29	14
8	M4712	頸髄症性脊椎症	34	15.9	16	30	2
	G560	手根管症候群	34	2.3	3.5	9	2
9	S3200	閉鎖性腰椎骨折	28	13.8	13.5	50	4
10	M4316	腰部脊椎すべり症	24	13.7	14	18	10

<形成外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	H024	眼瞼下垂	60	1.9	2	3	1
2	Z421	術後乳房再建	16	5.2	5	16	2
3	D171	体幹の皮膚及び皮下腫瘍	14	3.4	3.5	6	1
	C443	顔面の皮膚悪性新生物	14	2.4	2.5	5	1
4	S0220	閉鎖性鼻骨骨折	8	2.5	2	3	1
5	H020	眼瞼内反症及び眼瞼睫毛乱生症	7	1.9	1.5	2	1

<脳神経外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	S0650	外傷性硬膜下出血	107	17.5	19.5	270	2
2	I610	脳内出血、皮質下出血	95	22.8	23.5	128	1
3	Z138	脳血管造影検査入院	29	2	2	2	2
4	I652	頸動脈の閉塞及び狭窄	23	22.7	19	78	2
5	S0660	外傷性くも膜下出血	22	17.5	11	140	2
6	S0600	脳振とう（盪）症	14	3.6	4.5	10	2
7	I671	非（未）破裂性脳動脈瘤	13	15.5	14	23	10
8	I634	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	12	27.3	23	67	3
	G912	正常圧水頭症	12	18.9	17.5	42	11
	I613	脳幹の脳内出血	12	38	18	260	1
9	I614	小脳の脳内出血	11	22.1	16.5	51	2
10	C793	転移性脳腫瘍	10	26.6	20	65	7

<呼吸器外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	C341	上葉、気管支又は肺の悪性新生物	78	11.3	14	50	5
2	J931	自然気胸	53	9.8	11	61	4
3	C343	下葉、気管支又は肺の悪性新生物	45	13.1	15.5	75	6
4	C780	肺の転移性悪性新生物	25	9.4	9.5	15	7
5	S2720	外傷性血気胸	9	12.8	9	35	6



<心臓血管外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院 日数	在院日数 中央値	最高在院 日数	最低在院 日数
1	I 208	労作性狭心症	27	23.4	24.5	32	17
2	I 710	大動脈の解離	15	28.3	29	55	3
3	I 200	不安定狭心症	14	30.7	28	68	19
	I 340	僧帽弁閉鎖不全症	14	25	21	56	13
4	I 350	大動脈弁狭窄症	9	23.9	21.5	46	19
5	I 209	狭心症3枝病変	7	29	28	44	19
	I 351	大動脈弁閉鎖不全症	7	29	24	59	16

<皮膚科>

順位	コード	病名	総数	平均在院 日数	在院日数 中央値	最高在院 日数	最低在院 日数
1	L 031	四肢の蜂窩織炎	71	10.1	13	31	5
2	A 46	丹毒	14	7.4	8	15	5
3	B 029	合併症を伴わない帯状疱疹	13	7.8	7.5	9	6
4	C 443	顔面の皮膚悪性新生物	8	2.6	4.5	7	2
5	B 022	帯状疱疹後神経痛	7	9.3	8	19	6
	L 033	体幹の蜂窩織炎	7	8.6	8.5	14	5
	T 630	マムシ咬傷	7	4.1	4.5	7	3

<泌尿器科>

順位	コード	病名	総数	平均在院 日数	在院日数 中央値	最高在院 日数	最低在院 日数
1	Z 125	前立腺生検入院	208	2.5	3.5	7	2
2	N 201	尿管結石	77	5	10.5	43	3
3	N 132	腎結石性及び尿管結石性閉塞を伴う水腎症	45	3.4	4	7	2
4	C 678	膀胱境界部病巣の悪性新生物	43	14.9	18.5	60	4
5	C 672	膀胱側壁の悪性新生物	37	6.8	10	39	3
6	C 64	腎盂を除く腎の悪性新生物	30	20.9	25	65	8
7	N 200	腎結石	29	3.9	5	7	3
8	C 61	前立腺の悪性新生物	26	19.1	13.5	66	6
	N 40	前立腺肥大症	26	7	8	12	6
9	N 10	急性尿細管間質性腎炎	23	12.2	9.5	40	2
10	N 410	急性前立腺炎	19	7.7	8	15	5

<産婦人科>

順位	コード	病名	総数	平均在院 日数	在院日数 中央値	最高在院 日数	最低在院 日数
1	C 56	卵巣の悪性新生物	128	10.3	16.5	66	2
2	O 800	自然頭位分娩	127	8	9.5	61	5
3	C 541	子宮内膜の悪性新生物	75	6.8	11	48	1
4	D 27	卵巣の良性新生物	64	6.6	8.5	16	5
5	C 539	子宮頸部の悪性新生物	59	10.7	11	56	3
6	D 259	子宮平滑筋腫、その他	55	6.4	6	17	2
7	O 342	既往帝王切開後妊娠	39	8.9	8.5	11	7
8	D 251	壁内子宮平滑筋腫	36	6.7	7.5	10	3
9	O 021	稽留流産	30	1.2	2	5	1
	D 250	粘膜下子宮平滑筋腫	30	4.8	6.5	9	3
	N 840	子宮体部ポリープ	30	2.9	2	3	1
10	O 814	吸引娩出術を伴う自然分娩	28	10.1	10	69	7

<眼科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	H250	老人性初発白内障	526	2.4	2.5	5	1
2	H251	老人性核白内障	242	2.4	3	5	1
3	H353	黄斑及び後極の変性	57	6.3	8	14	3
4	H330	網膜裂孔を伴う網膜剥離	21	14.9	15	21	8
5	H258	その他の老人性白内障	20	2.6	3	5	2

<耳鼻咽喉科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	J36	扁桃周囲膿瘍	58	4.8	5	8	3
2	J350	慢性扁桃炎	50	7.7	9.5	19	7
3	C73	甲状腺の悪性新生物	41	10.8	14	46	7
4	J351	扁桃肥大	39	6.8	7.5	9	1
5	H912	突発性難聴（特発性）	36	8.6	8	14	4
6	H813	末梢性めまい（眩暈）症	21	4.3	4.5	9	1
7	J358	扁桃及びアデノイドのその他の慢性疾患	18	6.5	6	8	4
	J039	急性扁桃炎	18	5.4	5.5	10	3
	J328	慢性副鼻腔炎	18	6.7	6.5	8	5
8	G510	ベル<Bell>麻痺	15	9.2	9.5	13	7
9	D110	耳下腺腫瘍	13	7.3	7.5	9	6
10	E049	腺腫様甲状腺腫	12	7.3	7.5	8	7

<麻酔科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	M512	椎間板ヘルニア	12	2.3	2.5	5	1
2	M4806	腰部脊柱管狭窄症	10	4.5	3	5	2
3	B022	帯状疱疹後神経痛	10	4.3	4	5	2

<歯科口腔外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	K073	下顎水平埋伏智歯	506	2.4	3.5	5	2
2	K011	埋伏歯<impacted teeth>	75	2.7	3	5	2
3	K048	歯根のう胞	27	5.1	6	18	2
4	K090	発育性菌原性のう胞	19	4.5	4	6	2
5	K045	慢性根尖性歯周炎	14	4.2	4.5	7	2
	Z470	術後プレート抜去入院	14	4.9	4.5	6	3

8. 剖検数

No.	年齢	性別	診療科	主臨床診断名
1	23	女	内科	全身性エリテマトーデス
2	79	女	内科	心肺停止
3	65	女	内科	筋萎縮性側索硬化症
4	71	男	内科	筋萎縮性側索硬化症
5	75	男	外科	十二指腸潰瘍出血
6	67	女	内科	神経サルコイドーシス
7	81	女	内科	感染性心内膜炎
8	61	女	内科	ERCP 後膵炎
9	71	男	内科	脳症
10	66	女	内科	播種性血管内凝固症候群、脳梗塞・急性期
11	66	男	内科	肺炎、白質脳症
12	83	女	内科	うっ血性心不全
13	78	女	内科	パーキンソン病
14	86	男	救急科	来院時心肺停止
15	69	男	内科	心筋梗塞
16	50	男	外科	下行結腸癌
17	59	男	内科	急性間質性肺炎

9. 臨床研究

	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
1	—	デジタルマンモグラフィの画素値計測による濃度の検討	乳腺外科	久留宮康浩	当院10例 (20乳房)	2019/4/18 ～ 2019/7/31
2	ヒュービット ジェノミクス株式会社	心不全の発症・重症化の高精度予測とそれに基づく最適な治療法の開発のための心不全レジストリ(JROADHF-NEXT)	循環器内科	篠田 政典	当院：50例 (全参加施設 5000例)	2019/5/2 ～ 2024/3/31
3	—	感染症専門医不在の施設におけるCandida血症に対するAntifungal stewardshipの効果	薬剤部	酒井 幹康	全例	2019/5/20 ～ 2019/12/31
4	—	抗菌薬ラウンド運用変更に伴う効果	薬剤部	酒井 幹康	全例	2019/5/20 ～ 2019/12/31
5	—	Extended-spectrum β -lactamase産生菌菌血症合併腎盂腎炎に対するCefmetazoleの有効性に関する検討	薬剤部	大岩由香里	全例	2019/5/23 ～ 2019/12/31
6	主管施設 (名古屋大学循環器内科)	新しいヒス束ペースメーカーの長期予後と刺激伝導系の解明を目指した多施設共同研究	循環器内科	藤田 雅也	30 (全参加施設 300)	2019/5/23 ～ 2026/3/31
7	—	免疫チェックポイント阻害薬による間質性肺疾患発現状況に関する調査	薬剤部	平岩いずみ	全例	2019/5/27 ～ 2020/3/31
8	主管施設 (大阪大学大学院医学系研究科)	本邦における精巣腫瘍患者レジストリの作成およびコホート研究の基盤創出	泌尿器科	橋本 良博	全例	2019/6/17 ～ 2020/3/31
9	主管施設 (名古屋大学消化器内科)	原発性胆汁性胆管炎(PBC)と自己免疫性肝炎(AIH)における予後予測マーカーと発生イベントに関する検討	消化器内科	都築 智之	100 (全参加施設 400例)	2019/6/20 ～ 2022/3/31
10	—	心臓CT検査における異なる算出方法によるSize-specific dose estimates (SSDE) と体格指標の関係について	放射線技術科	柴田 英輝	300 (全参加施設 300例)	2019/6/24 ～ 2020/5/30
11	—	当院におけるWallenberg症候群の嚥下障害症例11例の臨床的検討	リハビリテーション技術科	萩野 周作	11例	2019/6/27 ～ 2019/8/31
12	主管施設 (東京女子医科大学)	高安動脈炎(TAK)、巨細胞性動脈炎(GCA)全国疫学調査	循環器内科	篠田 政典	16例	2019/6/19 ～ 2021/3/31



	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
13	—	心房細動クライオアブレーションにおいてPCXMCを用いた患者被ばく線量の報告患者入射皮膚線量、組織臓器線量の把握	放射線技術科	村山 和宏	100例	2019/7/1 ～ 2020/5/31
14	—	当院小児における血液培養陽性症例の後方視的検討	検査科	加藤 雄大	全例	2019/7/22 ～ 2020/12/31
15	大阪市立大学大学院	関節リウマチ患者の新規椎体骨折発生に対するゾレドロン酸とデノスマブの有用性の検討 多施設共同非盲検ランダム化比較試験「研究名略称:EVIDENCE study」	整形外科	金山 康秀	10例	2019/8/1 ～ 2025/6/30
16	磐田市立総合病院	関節リウマチ患者におけるJanus kinase inhibitor (baricitinib) の治療開始後24週間の治療成績安全性に関する研究 -RA BETTER研究-	整形外科	金山 康秀	全例	2019/8/8 ～ 2020/8/31
17	磐田市立総合病院	関節リウマチ患者におけるbaricitinib治療後に発症した帯状疱疹症例の臨床的特徴	整形外科	金山 康秀	全例	2019/8/8 ～ 2020/8/31
18	国立がん研究センター東病院	マンモグラフィ読影におけるディープラーニングを用いたコンピューター自動診断システム (DLADs) の性能評価試験	外科	丹羽 多恵	当院100例(全参加施設15000例)	2019/8/19 ～ 2021/12/31
19	名古屋大学医学部付属病院	愛知県感染防止対策加算1届出病院における多施設point prevalence survey	総合内科	渡口 賢隆	全例	2019/8/22 ～ 2022/12/31
20	株式会社マイクロン	杉田クリップを用いて治療した患者の術後評価(観察研究) 多施設共同単群後向き研究	脳神経外科	立花 栄二	当院60例(全参加施設400例)	2019/9/2 ～ 2022/3/31
21	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	Pleuroparenchymal fibroelastosisおよびIdiopathic pulmonary fibrosisにおける肺胞上皮剥離の検討	アレルギー科	谷川 吉政	全参設PPFE群UIP群、Control群各28例	2019/9/12 ～ 2021/3/31
22	広島大学大学院歯薬保健学研究科循環器内科学	繰返し入院する慢性心不全患者を対象としたASV療法の予後に関する前向きコホート研究:再入院や死亡に関する影響を検討する縦断的観察研究	循環器内科	窪田 龍二	当院10例(全参加施設1100例)	2019/9/30 ～ 2021/8/31

	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
23	—	高齢者早期胃癌に対する胃ESDの妥当性に関する検討	消化器内科	安田 司	当院200例	2019/10/10 ～ 2020/3/31
24	磐田市立総合病院 大学循	高齢関節リウマチ患者におけるbaricitinib治療の有効性と安全性に関する研究-RA BETTER研究-	整形外科	金山 康秀	当院10例 (全参加施設70例)	2019/10/24 ～ 2019/10/31
25	日本医学放射線学会	IVRに関する医療被ばく実態調査及び線量評価	放射線診断課	松田 譲	当院3例(全参加施設各施設で手技別に連続3症例)	2019/10/28 ～ 2020/7/31
26	—	豊田厚生病院救命救急センターを受診した異物患者の解析	総合内科	西本 泰浩		2019/10/28 ～ 2019/11/30
27	—	高TG血症患者のペマフィブラートの有効性・安全性：後向き観察研究	内分泌・代謝内科	加藤 大也	当院200例 (全参加施設200例)	2019/10/31 ～ 2021/9/30
28	島根大学医学部 附属病院	マンツル細胞リンパ腫に対するSAMHD1遺伝子を含む予後因子の探索と予後予測モデル構築を目的とした調査研究	血液内科	鏡味 良豊	当院8例(全参加施設500例)	2018/11/26 ～ 2020/12/31
29	愛知医科大学病院	アルツハイマー病におけるてんかん発作の動画をを用いた調査	精神科	渡邊 周一	30例(全参加施設180<健康群30例、発作群30例、AD群30例、健康群・発作群・AD群の家族30名>)	2018/11/26 ～ 2020/12/31
30	名古屋大学大学院 医学系研究科	関節リウマチ患者の治療継続性からみた至適医療に関する臨床研究	整形外科	金山 康秀	全参加施設既登録1500例+新登録3500例計5000例	2018/12/10 ～ 2019/5/31
31	—	大腸悪性狭窄に対する大腸ステント留置後の化学療法についての検討	消化器内科	安田 司	当院70例	2018/12/25 ～ 2028/8/31
32	名古屋大学医学部 附属病院	入院を要する肺炎患者における初期抗菌薬治療と予後に関する研究臨床(観察研究)	アレルギー科	谷川 吉政	全例 (全参加施設約1700例)	2018/12/27 ～ 2019/2/28



	依頼者	研究調査課題	科名	研究 責任者名	症例数	期間
33	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター	JALSG参加施設において新規に発症した全AML、全MDS、全CMML症例に対して施行された治療方法と患者側因子が5年生存率に及ぼす影響を検討する観察研究：(JALSG-CS17)	血液内科	鏡味 良豊	当院:30例 (全参加施設 4900例)	2019/1/17 ～ 2019/4/15
34	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター	JALSG CS-17研究付随研究急性骨髄性白血病を対象としたクリニカルシーケンスの実行可能性に関する研究：(JALSG CS-17-Molecular)	血液内科	鏡味 良豊	当院:10例 (全参加施設 1000例)	2019/1/21 ～ 2019/5/31
35	日本脊椎脊髄病学会	側方進入椎体間固定術の合併症のデータベース構築に関する研究	整形外科 脊椎外科	辻 太一	当院:20例 (全参加施設 5000例)	2019/1/17 ～ 2019/3/31
36	—	大腸癌原発部位,右側左側からみた肝転移切除例の臨床病理学的検討	外科	久留宮康浩	当院:50例	2019/1/28 ～ 2019/3/31
37	—	Wallenberg症候群の嚥下障害とティッシュ徴候の関連についての検討	リハビリテーション 技術科	萩野 周作	当院:31例 (全参加施設 31例)	2019/2/28 ～ 2020/3/31
38	日本整形外科学会	日本整形外科学会症例レジストリー (JOANR) 構築に関する研究	整形外科	金山 康秀		2019/3/14 ～ 2019/12/31
39	名古屋大学医学部附属病院	関節リウマチ患者における生物学的製剤の頸椎病変進行抑制効果と予測因子の検討	整形外科	金山 康秀	当院:70例 (全参加施設 200例)	2019/3/11 ～ 2021/12/31
40	国立成育医療研究センター	腸管出血性大腸菌感染症に続発する溶血性尿毒症症候群の発症・予後規定因子を検討する症例対照研究	総合内科	渡口 賢隆		2019/3/28 ～ 2019/12/31
41	—	心臓カテーテル装置更新前後での、心房細動ABL時における患者、術者、看護師被ばく線量の比較	放射線技術科	村山 和宏	当院:100例	2020/2/27 ～ 2021/5/31
42	—	口腔外科疾患術後における半固形化栄養剤を用いた経管栄養管理の検討	歯科口腔外科	兼子 隆次	当院 半固形化栄養剤50例 コントロール群30例	2020/3/12 ～ 2020/6/30

	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
43	—	無症候性壊死性ミオパチーの臨床病理的検討（自験例4例から）	内科	森 悠	当院 4 例	2020/3/12 ～ 2020/5/31
44	—	当院におけるTrousseau症候群の予後の検討	研修医	武重万里子	当院18例	2020/3/12 ～ 2020/5/31
45	奈良県立医科大学循環器内科	JROAD-DPCを使用した、劇症型心筋炎の疾患登録とその解析	循環器内科	篠田 政典	当院 2 例 全参加施設 (500～1000 例)	2020/3/19 ～ 2022/3/31
46		迅速PCR法導入が黄色ブドウ球菌菌血症患者の抗菌薬処方動向に与える影響	薬剤師	渡邊 雅史	当院90例	2020/3/19 ～ 2020/12/31
47		当院の摂食嚥下回診対象患者の栄養摂取状況について	栄養科	日比 祥代	全例	2020/3/26 ～ 2024/4/30
48	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子医学・医療部門 放射線医学総合研究所 放射線防護情報統合センター	放射線診療における医療被ばく実態調査及び線量評価と医療被ばくデータベース構築の検討	放射線技師	小澤 功	全参加施設 51例	2020/3/30 ～ 2022/3/31
49	名古屋大学医学部付属病院	小児IgA血管炎のステロイド使用法に関する後方視的検討	小児科	高橋 ゆま	当院:全例 (全参加施設 500例)	2020/3/30 ～ 2024/3/31
50		Trousseau症候群と非弁膜症性心房細動に起因する脳梗塞の鑑別に関する検討	内科	赤塚 和寛	当院97例 (全参加施設 97例)	2020/4/2～ 2020/9/30
51	藤田医科大学	生活習慣病を伴う複数疾患を有する高齢者に対する栄養療法支援アプリ作成に関する研究	内分泌・代謝内科	加藤 大也	当院100例～ 200例 (全参加施設 1000例)	2020/4/2 ～ 2022/3/31
52		当院における胃粘膜下腫瘍に対するLECSの現状に関する検討	消化器内科	松井 健一	当院10例	2020/4/2 ～ 2020/11/30
53		当院における成人腸重積30例の検討	消化器内科	豊島 創	当院30例	2020/4/5 ～ 2021/3/31
54		当院での胃がん検診における食道癌検出の意義	消化器内科	安田 司	当院30例	2020/4/5 ～ 2020/4/30
55	(主管)藤田医科大学	悪性リンパ腫疑い不明熱患者の診断におけるリキッドバイオプシーの有用性を検討するための研究	血液内科	平賀 潤二	全参加施設 50例	2019/11/7 ～ 2024/3/31

Ⅱ 部署別業務実績

1. 放射線技術科

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 高額医療機器の更新

→血管撮影装置2台更新。前年対比108.7%稼働。

2. 認定・専門資格取得／学会発表の推進

→医学物理士、日本磁気共鳴専門技術者、胃がんX線撮影技師検定、マンモグラフィー撮影技術認定技師、放射線治療専門放射線技師、臨床実習指導教員、放射線管理士、放射線機器管理士、Ai認定診療放射線技師、医療情報技師 等取得 *学会発表計16題 *論文2題

3. 読影補助（タスクシフトシェア）

→仮想大腸内視鏡（CTC）検査、緊急性が高い所見の読影補助（日当直帯）

4. 手術室イメージ操作技師派遣（看護師業務支援）

→整形外科（XLIF、BKP）手術支援

2. 令和元年度実績

1. 放射線技術科取扱件数

	令和元年度	前年度比（%）
一般撮影	118,844	102.4
X線テレビ	12,531	98.1
血管撮影	3,220	104.6
C T	38,873	102.9
M R I	15,844	101.0
骨塩定量	1,969	103.5
R I	2,735	111.7
放射線治療	7,008	109.8
合計	201,024	102.5

2. MRI検査件数

	令和元年度	前年度比（%）
内科	4,607	102.3
心療精神科	61	84.7
小児科	168	82.8
外科	499	98.2
整形外科	2,196	118.4
脳神経外科	3,329	98.1
皮膚科	72	74.2
泌尿器科	558	100.9
産婦人科	622	109.3
眼科	47	87.0
耳鼻咽喉科	389	80.4
放射線科	472	82.4
麻酔科	44	191.3
歯科口腔外科	74	88.1
形成外科	97	81.5
心臓外科	117	134.5
呼吸器外科	47	102.2
健診センター	1,206	98.1
救急科	1,239	100.6
合計	15,844	101.0

3. 血管撮影件数

	令和元年度	前年度比 (%)
内 科	2,086	99.5
外 科	145	121.8
整 形 外 科	20	125.0
脳 神 経 外 科	124	109.7
呼 吸 器 外 科	20	62.5
産 婦 人 科	13	325.0
合 計	2,408	101.1

4. X線CT検査件数

	令和元年度	前年度比 (%)
内 科	14,316	106.0
心 療 精 神 科	3	37.5
小 児 科	61	103.4
外 科	4,513	102.5
整 形 外 科	1,739	115.9
脳 神 経 外 科	1,895	94.2
皮 膚 科	122	103.4
泌 尿 器 科	2,401	104.8
産 婦 人 科	469	103.3
眼 科	30	75.0
耳 鼻 咽 喉 科	1,361	99.0
放 射 線 科	801	99.6
麻 酔 科	14	107.7
歯 科 口 腔 外 科	824	105.2
形 成 外 科	104	79.4
心 臓 外 科	409	104.1
呼 吸 器 外 科	743	123.2
健 診 セ ン タ ー	385	105.5
救 急 科	8,683	97.6
合 計	38,873	102.9

5. アイソトープ検査件数

	令和元年度	前年度比 (%)
脳 血 流	383	98.5
甲 状 腺	17	212.5
副 甲 状 腺	12	171.4
肺 血 流	16	177.8
心 筋 負 荷	870	137.4
心 筋 無 負 荷	166	109.2
心 プ ー ル	0	0
肝	2	200.0
腎	9	100.0
副 腎	4	22.2
メ ッ ケ ル	1	20.0
消 化 管	0	-
骨	242	103.4
ガ リ ウ ム	15	125.0
P E T	766	103.1
そ の 他	216	101.9
合 計	2,719	111.8

その他：甲状腺治療(1)件、唾液腺(0)件、センチネルリンパ節(123)件、肺換気(15)件

6. 放射線科使用装置の定格（豊田厚生病院）

令和2年4月現在

設置場所	装置（メーカー）		定格（kV、mA）		購入年月
第1撮影室	KXO-50S(DRAD-3000A)	東芝	150/80	320/630	H20.1
第2撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H20.1
第3撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H26.9 H20.1*1
第4撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H26.9
第5撮影室	アミュレット イノバリティ	フジ	49/35	102/200	H28.4
第6撮影室	AutoAZ3000CMR	アサヒ	100	15	H20.1
第7撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H20.1 *2
第8撮影室	Prodigy	GE	76	3	H24.7
救急外来撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H20.1
	AMX-4 Plus	GE	125	(200mAs)	H14.1
泌尿器科撮影室	ウロスコープアクセス	シーメンス	150/81	630/800	H20.1
結石破砕室	Delta II	ドルニエ	110	4	H20.1
第1透視室	Sonialvision Safire	島津	150/80	500/1000	H20.1
第2透視室	KXO-80XM/KXO-80XM/MDX-8000A	東芝	150/100	500/800	H20.1
第3透視室	KXO-80Z /MFX-8000A	東芝	150/100	500/800	H23.3
血管撮影室 I V R - C T	AXIOM Artis dTA	シーメンス	125/100	800/1000	H20.1
	SOMATOM Open 40	シーメンス	140/120	570/665	H20.1
循環器撮影室1	トリニクスB8インチ	島津	125/100	800/1000	R01.8
循環器撮影室2	トリニクスB12インチ	島津	125/100	800/1000	R01.8
第1CT室	Light Speed VCT 64	GE横河	140/120	715/800	H20.1
第2CT室	SCENARIA	日立	120/140	140/510	H24.10
第3CT室	SCENARIA	日立	120/140	140/510	H24.12
第1MRI室	SKYRA	シーメンス	3.0 テスラ		H28.11
第2MRI室	Area	シーメンス	1.5 テスラ		H30.12
第3MRI室	Achieva R 2	フィリップス	1.5 テスラ		H22.8
ガンマカメラ室	Infinia 3	GE横河			H20.1
PET-CT室	Discovery ST Elite	GE横河	140/120	380/440	H20.1
	Clinac iX	バリアン	15MeV		H20.1
リニアック室	OBI	バリアン	125	80/20	H20.1
	Light Speed RT	GE横河	140/120	380/440	H20.1
シミュレータCT室	Light Speed RT	GE横河	140/120	380/440	H20.1
手術室	CiosSelect	シーメンス	110	(200mAs)	R01.8
器材庫	WHA-200	島津	110	200/9	H23.5
	0ECBrivo Essential	GE	110	20	H25.10
手術室ポータブル	モバイルアートMUX-100HJ	島津	125	(200mAs)	H20.1
2Fポータブル庫	モバイルアートEvolution	島津	125	(200mAs)	H29.10
3Fポータブル庫	モバイルアートMUX-100HJ	島津	125	(200mAs)	H20.1
4Fポータブル庫	モバイルアートMUX-100HJ	島津	125	(200mAs)	H20.1
感染症棟診察室	IME-100L	東芝	125/80	145/225	H15.3
健診胸部撮影室	KXO-50S(DRAD-3000A)	東芝	150/80	320/630	H20.1
健診マンモ撮影室	マンモマート Inspration	シーメンス	35/24	134/189	H24.11
健診透視室1 I.I	DBA-2400A(KXO-50XM)	東芝	150/80	320/630	H18.7
健診透視室2 I.I	DBX-6000A(KXO-50XM)	東芝	150/80	320/630	H17.3
健診透視室3 FPD	FLEXAVISION	島津	150/80	320/630	H29.4
歯科口腔外科	AZ3000	アサヒ	90	12	H11.1
X線撮影室	GX-70	アサヒ	70	10	H11.1

* 1 : 立位管球H 26.9 臥位管球H 20.1 * 2 : 第二撮影室から移設

2. 臨床検査技術科

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 診療機能への貢献

- ・第15次中期計画での新たな検体検査システム（cobas8000）の導入により検体到着から結果報告までの時間を短縮した。（結果報告時間：65分→45分）
- ・病理未読レポートについて、既読依頼を各診療科に実施し、100%既読とした。
- ・自己血輸血への運用を構築したことで、安心・安全な自己血採血を可能とした。
（自己血採血件数：23件／月→40件／月）
- ・微生物検査室に質量分析装置を導入したことにより、迅速な結果報告を行い、抗菌薬の適正使用に貢献した。（結果報告時間：2.6日→1.2日に短縮）
- ・マイコプラズマ遺伝子検査を週2回から毎日測定へ変更したことで、マイコプラズマの日常診療に貢献した。（検査日：2回／週→5回／週）
- ・ブドウ球菌メチシリン耐性遺伝子検出検査を開始したことで、MRSAの迅速な鑑別に貢献した。
（MRSA報告件数：48件／年）
- ・ISO15189認定取得（令和2年3月5日）により国際標準管理加算40点の算定準備が整った。
- ・増加する整形外科（脊椎手術）の術中神経モニタリングに対して支援を行った。（モニタリング件数：11件／月→23件／月）

2. 業務改善と効率化

- ・試薬・材料・消耗品および外注項目の価格見直しを継続し、年間300万円以上の削減ができた。
- ・ISO15189の取得に向け検査環境の改善をはかり、検査室内の温度と湿度管理を開始した。
- ・ISO15189の認定取得に関連して病理細胞検査室の作業環境および作業導線を改善し、業務の効率化に繋がった。
- ・ISO15189の取得に向け清潔および不潔エリアを明確化し、更に感染防御のための白衣の着脱について習慣化した。
- ・働き方改革の一環として、検査科内会議は全て時間内に開催することで業務の効率化を図った。

3. チーム医療および医療安全

- ・肝炎関連検査の未実施患者について、PBPMによる感染症検査の代行入力を実施した。
（代行入力件数：400件／年→陽転報告41件／年）
- ・整形外科（脊椎手術）の神経モニタリング件数増加に対し柔軟に対応した。
（神経モニタリング件数：136件／年→252件／年）
- ・インデント報告はISO15189の是正手順に従うことで、より一層深く分析することが可能となり、再発防止に繋がった。
- ・感染制御に係る診療支援（技師コメント）に努めた。（血培：193件／年 CD：20件／年）

4. 人材育成と施設認証

- ・術中脳脊髄モニタリングの件数増加に伴う対応技師を育成した。（対応技師：4名→5名へ増員。）
- ・がんゲノム医療に関する勉強会を企画（検査科・企画室）開催した。（参加者：50名）
- ・自己啓発推進を図り、学会・研修会にて18演題の発表及び3種6名が認定資格を取得した。
＜認定：超音波検査士3名、緊急臨床検査士2名、ソノグラファー1名＞
- ・ISO15189臨床検査室認定を取得した。（認定番号：RML02250）
- ・その他 施設認証：精度保証施設認証、日本臨床細胞学会施設認定、I & A認定施設（輸血）



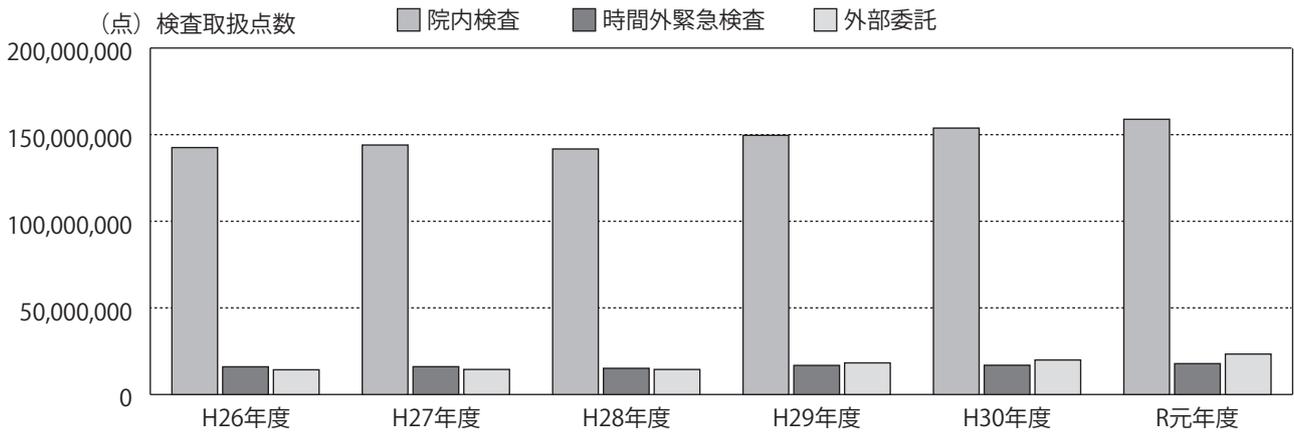
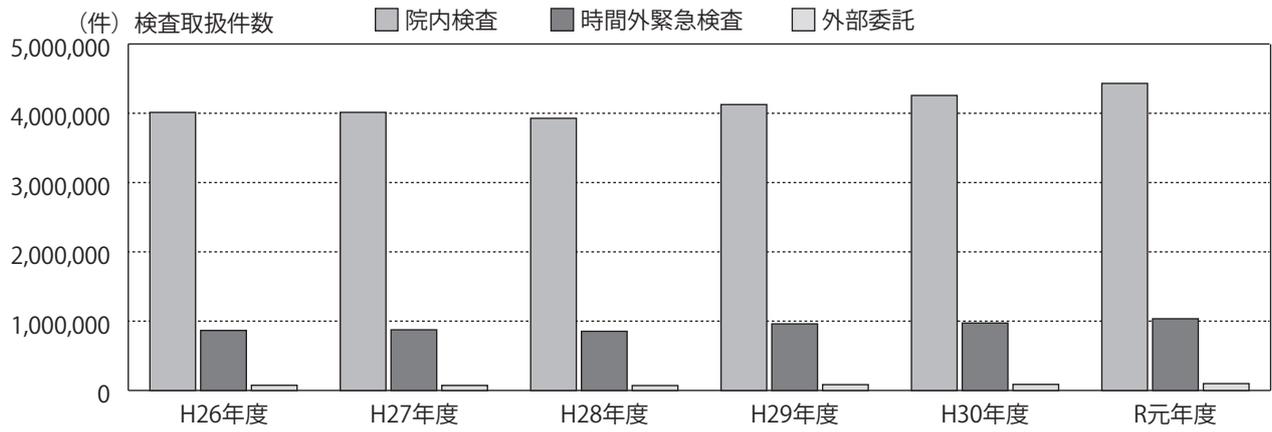
1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 整備機器（高額医療機器および固定資産機器）

部署	機器名	機種名	メーカー	数量
輸血検査	血球洗浄遠心機	MC450	日立工機	1
輸血検査	フリーザー	MDF-MU539H-PJ	PHC	1
輸血検査	血液バック陰圧型採血機	KL-103	川澄化学工業	1
輸血検査	遠心機	テーブルトップ遠心機	久保田商事	1
微生物検査	微生物同定分類分析装置	MALDIダイオタイパMFパッケージ	ベックマンコールター	1
微生物検査	遺伝子検査機器	Smart Gene	ミズホメディー	1
生理検査	心臓超音波診断装置	Vivid E95	GEヘルスケア	1
生理検査	ECGチェッカ	AX-301D	日本光電	1
生理検査	超音波評価用マルチパーパス	ファントムN-365	京都化学	1
生理検査	睡眠時無呼吸検査装置	Embletta MPR	チェスト	2
生理検査	睡眠時無呼吸検査解析装置	Embla PSG解析機	チェスト	2
生理検査	睡眠時無呼吸検査装置（簡易）	PMP-300	チェスト	2
病理細胞検査	システム顕微鏡	BX53LED	オリンパス	1
病理細胞検査	液状化検体細胞診標本作成装置	セルプレッププラス	ロシュ	1
病理細胞検査	ホルマリン容器保管庫	ZT-KB1500-SP	ゼクテック	1
病理細胞検査	プッシュプルシステム切り出し流し台	ZT-PPS3600-SP	ゼクテック	1
病理細胞検査	Class II 安全キャビネット	SSインテリア	サーモフィッシュャー サイエンティフィック	1

2. 検査取扱件数・点数

検査大項目	検査小項目	令和元年度件数	令和元年度点数
一般検査	尿	151,258	4,568,404
	便	25,753	1,055,284
	体液	4,282	86,753
血液検査	血液	458,273	10,163,214
輸血検査	輸血	48,147	2,515,363
臨床化学	化学Ⅰ	2,961,508	35,852,672
	化学Ⅱ	109,421	15,041,807
	血液ガス	30,967	4,335,380
	負荷試験	201	30,850
免疫検査	免疫	284,410	14,362,880
微生物検査	一般細菌	76,299	9,845,583
	核酸検査	686	235,460
	その他	3,023	0
病理検査	病理組織	11,938	12,187,620
	細胞診	13,377	2,283,090
生理検査	肺機能	15,701	1,521,290
	心電図	53,808	13,003,360
	超音波	40,169	23,311,840
	脳波	2,791	2,260,766
	その他	28,294	2,660,257
その他	採血・検体採取	109,588	3,115,040
	病理解剖	17	425,000
	検査外業務	1,053	0
院内合計		4,430,964	158,861,895
外部委託		98,888	23,353,431
総合計		4,529,852	182,215,326
時間外緊急検査		1,034,840	17,817,881



4. 外注検査依頼状況

S R L		令和元年度
保険収載分	件数	67,683
	点数	16,384,235
薬物濃度	件数	1,045
	点数	491,150
保険未収載	件数	1,235
	支払金額	3,833,932
B M L		令和元年度
保険収載分	件数	20,069
	点数	3,458,911
ファルコ		令和元年度
保険収載分	件数	8,824
	点数	2,967,935

* 外注の保険収載・薬物分は稼動点数、未収載は支払い金額を計上

5. 加算件数・点数

項目	令和元年度	
	件数	点数
時間外加算	6,077	1,215,400
入院初回加算	341	6,820
検体管理加算 I	101,982	4,079,280
検体管理加算 IV	789	394,500
外来迅速加算	74,462	3,295,660
病理診断料(加算Ⅱ含)	26,406	8,248,020
輸血管理料・適正加算 I	4,392	724,800
骨髓診断加算	224	53,760
合計	214,673	18,018,240

6. 検査判断件数・点数

項目	令和元年度	
	件数	点数
尿	34,155	1,161,270
血液検査	87,754	10,969,250
臨床化学Ⅰ	88,687	12,770,928
臨床化学Ⅱ	30,038	4,325,472
免疫血清	61,272	8,823,168
微生物検査	12,399	1,859,850
病理細胞検査	1,310	196,500
生理検査	3,956	596,920
合計	319,571	40,703,358

7. 外部精度管理調査結果

調査年度	外部精度管理種類	評点
令和元年度	日本医師会	95.3点 D:0
令和元年度	日本臨床衛生検査技師会	A+B:239/241 C:0 D:2
令和元年度	愛知県臨床検査技師会	A+B:180/183 C:3 D:0

8. 臨床検査室認証・認定

認証・認定団体	令和元年度
日臨技精度保証施設認証	認証
日本臨床細胞学会施設認定	認定
日本臨床細胞学会教育研修施設認定	認定
日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度認証施設(I&A)	認定
ISO15189施設認定	認定

9. 学会認定資格者

学会認定資格	令和元年度
超音波検査士	12名
細胞検査士	6名
輸血認定技師	2名
糖尿病療養指導士	1名
第1種衛生管理士	5名
衛生工学衛生管理者	1名
認定臨床化学者	1名
認定血液検査技師	2名
認定心電検査技師	1名
認定病理検査技師	1名
認定一般検査技師	1名
救急検査認定技師	3名
緊急臨床検査士	12名
二級臨床検査士(病理学)	4名
二級臨床検査士(微生物学)	4名
二級臨床検査士(血液学)	3名
二級臨床検査士(呼吸生理)	2名
血管診療技師	1名
認定サイトメトリー技術者	1名
医用質量分析認定士	2名
分析機器・試薬アナリスト	1名
リウマチ学会登録ソノグラファー	5名
ピンクリボンアドバイザー(初級/中級)	初級2名/中級1名
特化物及び四アルキル鉛等作業主任者	4名
検体採取並びに味覚検査及び嗅覚検査	60名
検査説明・相談ができる臨床検査技師	6名

3. リハビリテーション技術科

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 教育活動として、臨床実習生の受け入れの取り組み

- ・リハビリ学生：8校17名 ・他職種の臨地実習協力：9名

2. 地域の支援活動

- ・介護認定審査会協力 【人数】1名派遣 【期間】通年 【頻度】1回/2W
- ・オストミーの会 講話への講師派遣 1回

3. 職員の資質向上

- ・部署内勉強会（全体会：3回/年、職種別勉強会：理学5回/年、言語6回/年、作業回8/年）
- ・他職種勉強会・研修会への講師派遣（院内）4回（院外）5回
- ・学会発表 5題（ST：1題、PT：2題、OT：1題）
- ・臨床実習指導者講習会修了者 PT：5名、OT：3名

4. 診療機能の充実

- ・特定集中治療室早期離床・リハビリテーション加算への参加協力の維持。
- ・脊椎手術・人工股関節・人工膝関節の予定入院患者への外来受診時からの関わり（術前評価・指導）。
- ・職員の増員（理学療法士2名）を図り、リハビリテーション供給量の増加を図った。

2. 令和元年度実績

1. 部門別件数・単位数

			理学療法		作業療法		言語聴覚療法	
			外来	入院	外来	入院	外来	入院
個 別 療 法	脳血管疾患等 リハ料	患者数	700	10,032	308	9,188	121	5,032
		単位数	1,302	13,626	552	13,144	215	7,694
	廃用症候群 リハ料	患者数	0	4,640	0	68	0	0
		単位数	0	5,594	0	97	0	0
	運動器リハ料	患者数	1,422	18,366	3,391	3,127	-	-
		単位数	2,843	25,133	5,924	4,212	-	-
	呼吸器リハ料	患者数	6	10,283	0	632	-	-
		単位数	11	12,901	0	781	-	-
	心大血管疾患 リハ料	患者数	592	5,493	0	30	-	-
		単位数	1,170	7,043	0	42	-	-
	がん患者 リハ料	患者数	-	1,189	-	44	-	0
		単位数	-	1,655	-	61	-	0
	早期加算 (再掲)	患者数	-	40,955	-	10,198	-	3,993
		単位数	-	54,323	-	14,537	-	6,111
退院前訪問リハ指導			-	0	-	0	-	-
退院時リハビリ指導			-	1,074	-	374	-	24
リハビリ総合計画評価			300	3,022	385	888	6	86
摂食機能療法			-	-	-	-	-	4,238
件数合計			2,720	50,003	3,699	13,089	121	5,032
単位数合計			5,326	65,952	6,476	18,337	215	7,694

- ・心肺運動負荷試験 年間14件 ・精密知覚機能検査 年間18件
- ・義肢装具採寸法・治療装具採型法 年間14件

2. 部門別点数

	外 来	入 院
理 学 療 法	1,176,482	1,760,5850
作 業 療 法	1,346,830	5423200
言 語 聴 覚 療 法	55,225	3,058,070
合 計	2,578,537	26,087,120

3. 科別件数

	理 学 療 法		作 業 療 法		言 語 聴 覚 療 法	
	外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院
内 科	28	16,170	7	2,935	13	515
呼 吸 器 内 科		3,897		26		
循 環 器 内 科	217	3,745		19		1
脳 神 経 内 科	329	3,555	170	4,033	45	2,460
血 液 内 科		32				
腎 臓 内 科		3		1		2
精 神 科						
小 児 科		43			13	
外 科	2	6,470		228		87
整 形 外 科	1,539	8,147	3,508	1,789		195
形 成 外 科	21	263	5	6		
脳 神 経 外 科	19	3,379	9	3,936	37	1,759
呼 吸 器 外 科	6	1,247		19		
心 臓 外 科	375	1,583		37		2
皮 膚 科	14	298		17		
泌 尿 器 科		476		1		
産 婦 人 科		454		8		
眼 科		14				
耳 鼻 咽 喉 科	170	221		34	10	11
麻 酔 科						
歯 科 口 腔 外 科		6			3	
合 計	2,720	50,003	3,699	13,089	121	5,032

4. 臨床工学技術科

令和1年度は「急性期医療の臨床支援業務において他職種との横断的な連携強化及び情報の共有化を基に“命のエンジニア”として安全で質の高い技術支援を行う。また、高額医療機器の計画的な更新及び保守管理体制の充実を図り安全で安心して使用できる医療機器の提供と医療機器管理体制を見直し、医療器具不具合時の迅速なる対応を目指す」を年間目標に各診療支援業務における支援体制の強化及び高額医療機器の更新に取り組んだ。臨床支援業務においては、脊椎手術件数の増加におけるNavigationへの対応及びPace-Maker遠隔モニタリングにおける受信率の向上を図るとともに次年度着手すべき内視鏡センターにおける支援業務の基礎創りに取り組んだ。一方、医療機器保守管理においては、病院移転以来使用していた生体情報モニターの更新を行った。更新に伴い電子カルテでの複数患者の生体情報モニタリングが可能となり、更なる医療安全の充実に繋がった。今後も臨床支援業務における質の高い技術の提供及び医療機器保守管理体制の充実により更なる安全性を担保して行く所存です。

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 医療提供体制の充実

- ・呼吸・循環・代謝治療において超音波検査用い安全で効率的な治療に繋げる。
- ・ICUにおける業務拡充・技術支援の充実と医師及び看護部門への負担軽減に繋げる。
- ・内視鏡センターにおける機器管理業務及び臨床支援業務への拡充を図る。
- ・血液浄化センターの技士配置の増員による臨床支援業務の強化及び効率的な運用を目指す。

集中治療における各種治療において超音波検査を導入することで特殊体外循環（CBP及びECMO）中の循環動態、水分管理を把握することができ、より安全で積極的な治療を行う一助となった。また治療に携わる関連職種の負担軽減及び治療の質の向上にも繋がった。内視鏡センター診療支援業務を洗い出すことで、次年度の支援体制の基盤を創れた。一方、血液浄化センターにおいては、昨年引き続きI-HDFの更なる効率的な運用に努め、若干ではあるが増収に繋がっていると考えられた。

2. 人材育成とback up体制の強化

- ・臨床支援体制と教育体制を充実させることを目的に計画的な要員計画を立てる。
- ・Ablation業務における3D mapping操作者の更なる育成を図る。
- ・整形外科Navigation業務対応ができるスタッフの育成を図る。
- ・不整脈デバイス対応件数の増加に伴い対応ができるスタッフの更なる育成を図る。
- ・学生指導力の強化と標準化を目指し、当科スタッフのスキルアップに繋げる。
- ・定期的なローテーションの実施
- ・昼休憩が取れる体制創り

次年度の戦略構想を基に3名の増員計画となった。Ablation 3D mapping業務においては4名、整形外科を含め脳外・耳鼻科のNavigationに対応できるスタッフ6名の育成が完了した。また、下半期からは不整脈deviceに対応できるスタッフの育成に取り組み、不整脈deviceに携われるスタッフの育成できた。

3. 増収に向けた業務運用への取組み

- ・高気圧酸素療法適応疾患の拡大と適正な治療回数の施行による増収へと繋げる。
- ・Pace-Maker遠隔モニタリング患者への効率的な対応を目的にシステム化の構築に取り組む。また、未送信患者への取り組みを継続して行い遠隔患者の受信率を上げる
- ・血液浄化センターの効率的な運用を目指し増収へと繋げる。

高気圧酸素療法は、目標の1200件／年には到達できなかったが、ほぼ昨年並みの件数が確保できた。遠隔モニタリングの受信率の向上を目的に2回目（2019年9月）の患者の送信を促す手紙を配送した結果、受信率は75%から83%まで増加し、その後も80%を維持している。

4. 医療安全強化の充実

- ・ME機器の安全の提供と情報の発信（定期的な情報誌“mechanical information”の発行）
- ・インシデント・アクシデント事例を当科内で検討し、その内容に基づいた看護師対象とした医療機器研修会を開催（3回／年）する。また、検討内容から対策を明確化し、対策を講じた結果を評価する。
- ・医療機器管理体制の見直しと医療機器不具合時における迅速な対応（特に院外修理期間の短縮1か月以内の稼働を目指す）
- ・厚生連技士会としての医療安全への取り組みの継続

インシデントに基づいた医療機器の説明会を医療安全フォーラム期間中に3日間実施。対象医療機器は、生体情報モニター、Nasal high flow, FDLカテーテルにおけるセーフタッチを含めた内容とした。また、更新した生体情報モニターの追加機能の説明会をMEセンターにて5日間実施し、看護部全体の周知ができた。今回の取り組みについては90%以上の看護スタッフへの周知ができた。また、mechanical informationも5部発行となった。

5. 高額医療機器の計画的な更新計画及び効率的な稼働の指導

- ・一般病棟における生体情報モニターの効率的な運用指導を行い充実した運用に繋げる。
- ・人工呼吸器・麻酔器・血液透析装置の更新計画の再検討

生体情報モニターの更新に当たっては、関連職員の意見を十分に取り入れ、適正な導入に繋がった。

6. 機器・材料の管理によるコスト削減

- ・消耗品の運用・管理の見直しによるコスト削減

人工呼吸器に使用するHME（人工鼻）の見直しを図り、コストの削減に繋がった。

7. その他

- ・質の高い医療を提供するために学会発表等への積極的参加を促す。
- ・各種認定資格の取得を推進する。

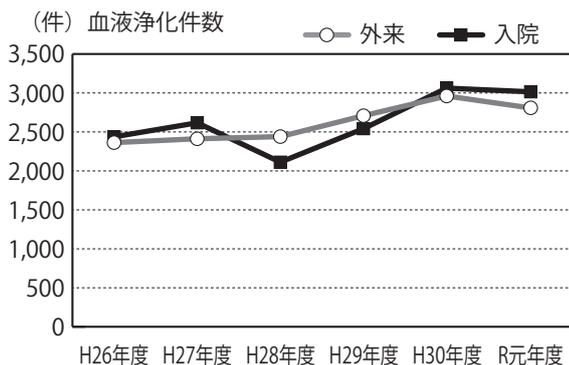
発表及び講演は、学会、研究会等を含め12演題となった。認定資格の取得においては集中治療認定臨床工学技士、血液浄化専門認定技士、内視鏡専門認定技士、心血管カテーテル専門認定技士、手術室専門臨床工学技士、血液浄化認定臨床工学技士、植込みデバイス認定技士の取得に挑み、5名が資格取得となった。

2. 令和元年度実績

1. 血液浄化

件数

	件数
外来	2,809
入院	3,015
計	5,824
末梢血幹細胞	16
CAPD	215
腹水濾過濃縮	45
シャントエコー	891



浄化法別分類

	件数
血液透析 HD	3,527
血液濾過透析 I-HDF	2,116
ECUM	81
血漿交換 PE	31
血液吸着 DHP	19
持続血液浄化療法	50

患者動向分類

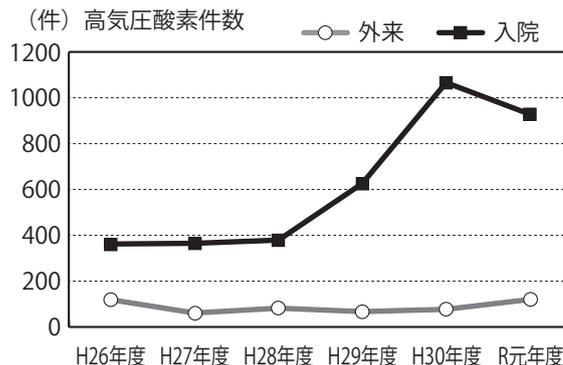
	件数
新規導入	72
急性浄化	9
他院転入	296
転出	353
死亡 慢性	26
死亡 急性	1

2. 高気圧酸素

件数

	件数
外来	120
入院	928
計	1,048

(件) 高気圧酸素件数



科別分類

	件数
内科	33
外科	394
整形外科	34
耳鼻科	321
口腔外科	16
泌尿器科	122
皮膚科	23
形成外科	87
その他	18
計	1,048

疾患別分類

	件数
突発性難聴	313
急性末梢血管障害	15
骨髄炎	35
一酸化炭素中毒	16
腸閉塞	345
皮膚移植	27
難治性潰瘍	162
放射性膀胱炎	92
壊死性筋膜炎	21
放射線壊死	9
急性脊髄障害	12
その他	1
計	1,148

3. 心臓カテーテル

件数

	件数
緊急症例	277
予定症例	969
計	1,246

心カテ分類

	件数
PCI	391
CAG	855
アブレーション	542
3D mapping	493
ペースメーカー交換	88
ICD 新規	10
ICD 交換	4
CRTP 新規	0
CRTP 交換	0
CRTD 新規	3
CRTD 交換	2
体外式ペースメーカー	42
IABP	61
PCPS	6
ペースメーカーチェック	4,391

4. 自己血回収術件数

科別分類

	件数
心臓外科	117
血管外科	17
整形外科	135
その他	7
計	276

5. 心臓血管外科

緊急・非緊急

	件数
緊急症例	9
予定症例	108
計	117

症例分類

	件数
虚血性心疾患	54
弁膜症	43
大動脈疾患	17
その他	3
計	117

6. 脳神経外科・耳鼻科・整形外科 Navigation

科別分類

	件数
脳外科	38
耳鼻科	21
整形外科	127
計	186

症例分類

	件数
腫瘍	37
クリッピング	0
FESS	21
頸椎固定	127
その他	1
計	186

7. 集中治療補助

件数

	件数
診療支援業務	1,904

分類

	件数
人工呼吸器管理	1,567
血液浄化	183
補助循環管理	23
超音波検査	131
計	1,904

8. 機器管理

修理件数

	件数
院内修理	708
委託修理	39
計	747

修理機器分類

	件数
心電図モニター	130
人工呼吸器	16
輸液ポンプ	157
血圧計	102
パルスオキシメーター	68
血液浄化関連装置	93
その他	168
計	721

機器点検件数

	件数
点検件数	35,223

5. 栄養科

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 医療の質の向上（栄養管理の充実）

- ・市民講座の開催
腎臓病教室 2 回、糖尿病教室 3 回、1 型糖尿病教室 1 回、肥満教室 1 回、肝臓病教室 1 回

2. 医療安全の充実

- ・HACCP制度化に向けた衛生管理計画の作成
- ・HACCP研修会の参加（2名）
- ・夏季食品衛生講習会の参加（1名）

3. 人材育成

- ・厚生連栄養士会として統一の管理栄養士新人教育プログラム作成に向け、栄養科教育担当者部会議を開催

4. 地域の支援活動

- ・JA料理教室への講師派遣（77回、受講者数1,455名）

2. 令和元年度実績

1. 令和元年度 食事提供数

①患者食

	食数（食）	比率
常食	154,039	34.6%
軟食	124,727	27.9%
流動食	1,077	0.2%
特別食 A	143,509	32.1%
特別食 B	23,199	5.2%
合計	446,551	100.0%

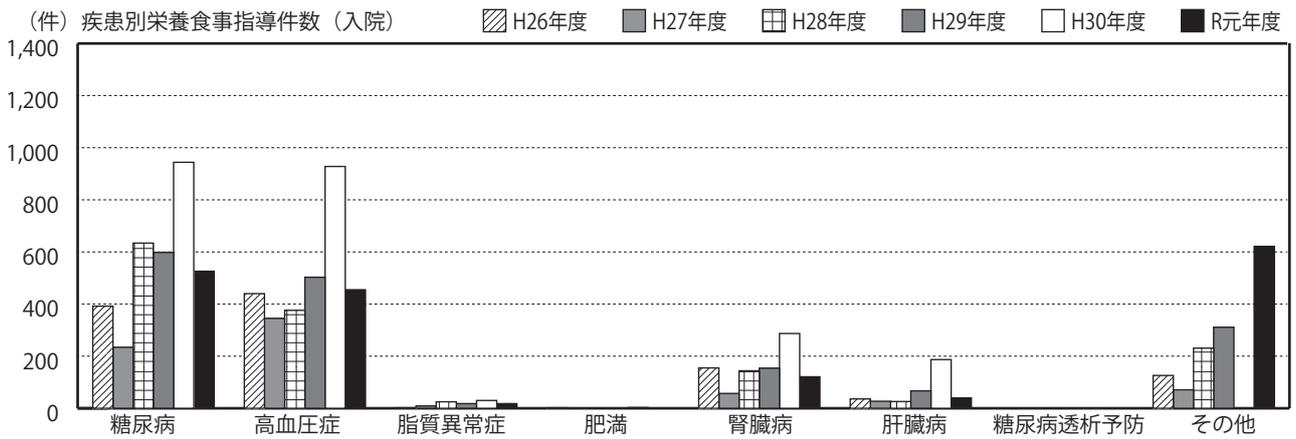
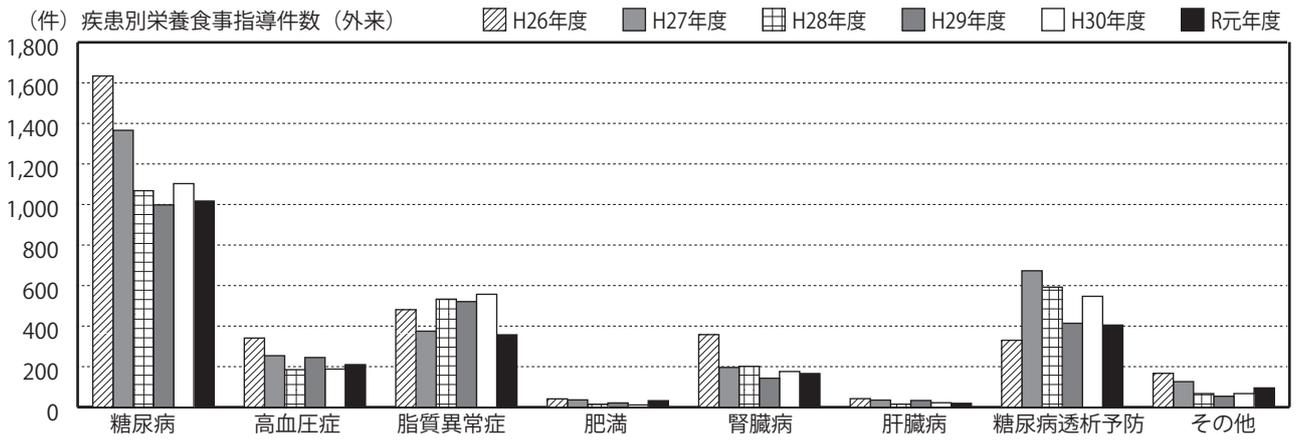
②賄食

	食数（食）
職員食	107,037
付添食	16
合計	107,053

2. 令和元年度 疾患別栄養食事指導件数

①個人栄養食事指導

	外来（人）	入院（人）
糖尿病	1,017	526
心臓・高血圧症	210	455
脂質異常症	357	18
肥満	32	0
腎臓病	166	121
肝臓病	19	40
糖尿病透析予防	405	0
その他	95	621
合計	2,301	1,781



②集団栄養食事指導

	(人)
糖 尿 病	80
腎 臓 病	0
ワンポイント講座	27
市 民 講 座	52
合 計	159

3. 令和元年度 院外活動

①JAあいち豊田料理教室

	(回数)	(人)
松 平 教 室	33	671
保 見 教 室	22	419
三 好 教 室	22	365
合 計	77	1455

6. 薬剤部

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 病棟薬剤業務の充実および薬物治療管理の推進

- ・PBPM（プロトコルに基づく薬物治療管理）の推進と拡充
→新たに代行で実施できる項目を追加した。病棟でのPBPMの件数は30年度2,212件に対して令和1年度は2,297件と85件（3.8%）増加した。
- ・病棟薬剤業務における医薬品情報室との連携強化
- ・PMDAへの副作用報告
→1年間で45件PMDAへ副作用報告を行った。
- ・プレアボイド報告
→1年間で166件プレアボイド報告を行った。
- ・抗MRSA薬以外のTDM介入例数
→1年間で16件の抗MRSA薬以外のTDM介入を行った。
- ・病棟薬剤業務の拡充（持参薬作成業務のサテライト方式への移行等）
→新運用への変更、情報源持参率の啓蒙、入退院支援センター介入により平成30年度と比較し、持参薬報告書作成時間が平均2.4分／枚短縮できた。
令和元年度は2病棟を病棟常駐化し緊急入院の持参薬報告書を作成した。令和元年度は129.3件／月（緊急入院の25%）をサテライトで作成することができた
- ・手術室における薬剤師常駐化への準備
→慢性的な人員不足により手術室における病棟常駐化は達成できず。

2. DPCに向けた取り組み

- ・後発医薬品使用体制加算（後発医薬品使用割合80%以上）
→後発医薬品使用割合については平成31年4月で77.4%から令和2年3月で83.6%となっており、後発医薬品使用体制加算2（80%以上）の算定を達成している。
- ・持参薬管理運用の確立（持参薬処方支援、ポリファーマシーへの介入）
→ポリファーマシー（薬剤総合評価調製加算：250点）は1年間で31件算定できた。

3. 診療機能の充実

- ・通院治療センターにおける服薬指導の充実
→患者指導件数は1,209件行い、うちがん患者指導管理料は241件算定した。
- ・入退院支援センター業務体制の整備（入退院支援センターにおける持参薬報告書の作成、入退院支援センターにおける薬剤師の業務手順の確立）
→平成30年度は主に全身麻酔患者の入退院支援、抗血栓薬の確認、持参薬報告書作成を行った。
令和元年度は局所麻酔、パス作成済み疾患を中心に順次受け入れ拡大、6月より循環器内科（PCI、CAG、ABL）、8月より泌尿器科、9月より耳鼻科、10月より外科、11月より消化器内科に加えて2月より整形外科の入退院支援介入開始、抗血栓薬休薬確認、血栓治療時（ABL、PCI、CAG、EVT等）の抗凝固薬処方確認、持参薬報告書を作成した。
科別・パスごとの取り決めを医師・看護師と協議し一覧にまとめ効率化に努めた。
4月は入退院支援介入患者の持参薬報告書作成率は38.6%であったが、2月以降（整形外科受け入れ以降）の持参薬報告書作成率は月平均97.7%とほぼ全ての入退院支援介入患者に持参薬報告書が作成できた。

- ・抗がん剤投与により発症するB型肝炎対策ガイドラインを順守するためのチェック機能の充実（HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体検査 目標実施率100%）
→実施率 HBs抗原：100%、HBs抗体：99.2%、HBc抗体：99.2%

4. 病院薬剤師連携および薬 - 薬連携の強化

- ・患者情報の提供及び共有化に向けての検討
→吸入指導方法の共有とスキル向上を目的に豊田みよし地区の薬剤師を対象に第2回吸入指導交流会を開催した。今回はトヨタ記念病院や豊田加茂薬剤師会よりチューターとして協力してもらい、有意義な情報交換ができた。また、豊田みよし薬剤師連絡協議会は今年度より年3回開催するよう準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため年度末の協議会は開催中止とした。

5. 認定・専門資格取得の推進

- ・認定実務実習指導薬剤師の育成（長期実務実習生受け入れ）
→新たな資格取得者の確保を目指し、認定実務実習指導薬剤師を中心に実務実習生へのかかわり方や評価の仕方を随時指導した。
- ・改訂モデルコア・カリキュラムを踏まえた実務実習指導内容の見直し
→患者の入院時から退院時まで継続した関わりを持つことと、8大疾患への対応ができるよう実習病棟を追加した。基本的な実習内容は昨年度までのものから大きくは変えず、指導担当者に追加項目のみ伝え、指導時に配慮してもらうようにした。
- ・各種専門・認定薬剤師の資格取得への指導・教育
→各種専門・認定薬剤師資格取得のため、講習会および学会等に参加した。
日本薬剤師研修センター 漢方薬・生薬認定薬剤師 1名合格（全1名）
日本アンチ・ドーピング機構公認スポーツファーマシスト 1名合格（全1名）
日本骨粗鬆症学会骨粗鬆症マネージャー 1名合格（全1名）
日病薬病院薬学認定薬剤師 2名合格（全2名）

6. 供給センター（SPD）の管理体制の充実

- ・物流システム活用の充実
→薬品請求回数を1日1回より3回へ変更しており、物流システムによる請求入力の利用について啓蒙し、薬品管理室からの臨時請求払出し件数の削減に取り組んだ。
目標値：薬品臨時請求数2,341以下／年に対して、実績1,953件であった。
- ・誤接続防止コネクタに係わる国際規格の国内導入への取り組み
→神経麻酔分野における誤接続防止コネクタ導入は物品管理室と協力し円滑に終了した。
- ・医薬品の管理強化（規制医薬品、高額医薬品等）
→キュービックスの導入を行い、一部の高額冷所医薬品の管理方法を確立した。
- ・医療材料の在庫管理強化（消耗品材料のコスト削減、定数見直し等）
→CVカテーテルや気管切開チューブなどの不動品や期限切れを起こしやすい材料は採用取り消しを行った。
防水シートなどの消耗品について材料の変更を踏まえ価格交渉を行った。
カセット品の定数変更については各部署の了解を得て変更していたが、SDP主導でカセット品の定数を変更できるようにした。
- ・不動薬品・材料および死蔵薬品・材料の整理及び削除、部門定数外薬品・医療材料管理強化
→不動薬品として9品目を採用中止。
→針糸の不動材料リストを作成し使用依頼を行い、新規採用品に対応して採用の取り消しを行った。

7. 治験業務の充実

- ・がんゲノム医療連携病院取得の検討に向けた、がん薬物療法に関する治験受託（新規患者数2人／年）
→患者組み入れには繋がらなかったが、肺がんに関する治験を1件受託した。2018年度の実績により、がんゲノム医療連携病院は取得することができた。

8. Quality Indicator

- ・退院指導実施率（退院指導患者数／入院実患者数）の向上（目標実施率35%）
→41.2%（退院指導患者数5,995名、入院実患者数17,539名）であった。

9. 医療情報システムの更新に向けた情報収集

- ・令和3年秋の更新予定に向けて
→現状の問題点を整理し、各メーカー担当者よりヒアリングを行い最新機器の情報を入手した。

2. 令和元年度実績

薬剤部は医薬品および医療材料の安定供給、適正な在庫管理とともに安全かつ適正に使用するために下記の事項に取り組んだ。

1. 医薬品情報提供

従来と同様に、院内医薬品情報誌『DI-Newsくすりの時間』と医薬品情報一元化システム『JUS-DI』の充実に努めた。

薬事委員会の事務局業務も行い、審議資料作成から議事進行補助まで鋭意実施している。

豊田加茂薬剤師会の窓口も医薬品情報室に移譲され、院外処方協議会の準備／運営に尽力した。

2. 病棟業務

ポリファーマシーに取り組みを行った。その結果令和1年度は薬剤総合評価調整加算を31件算定することができた。またプレアボイド報告（194件）および副作用報告（45件）と昨年度に続いて積極的に報告を行った。

3. 調剤業務

お薬手帳の推進のため投薬窓口において患者への声掛けを行った。

調剤室の薬品棚詰めを事務員2名にも協力してもらい、薬剤師のマンパワー確保を行った。

投薬窓口にて患者のプライバシー確保のため、間隔を空けて並んでいただく対策を講じた。

4. 持参薬管理

新運用への変更、情報源持参率の啓蒙、入退院支援センター介入により持参薬報告書作成時間が1枚当たり11.5分で作成できた。昨年度と比較し平均2.4分／枚短縮でき効率化が図れた。

2病棟常駐化にて令和元年度は129.3件／月（緊急入院の25%）をサテライトで作成することができた。

5. 注射調剤

部門システムを利用し調剤・監査の正確性と効率性の向上に努めた。不動在庫の有効利用により経済面での効果向上に努めた。注射薬の個人別セット業務を通して適正な注射薬品の使用推進に努めた。後発薬品が使用できない場合の先発薬品への処方変更や手技・用法の修正等のPBPMに取り組んだ。

6. 薬品・医療材料の管理

薬品・医療材料においては実施棚卸しによる正確な在庫数の把握と、定数による実施補充システムにより



適正な在庫管理、また定期的な期限チェックを行い不動・死蔵品の減少に努めた。医療材料において、病棟カセットの見直し、定数の変更と期限切迫になりやすい品目をカセットから外した。期限切迫品を使用部署へ回すなどの対応を引き続き行った。薬品管理においては、物流システムによる請求を啓蒙し、紙面による不要不急の臨時請求減少に努めた。

7. 化学療法における業務体制の見直し

週2日、化療担当が全日2名体制となり、調製指示をスムーズに行うことができ、午後の患者指導依頼にも対応しやすくなった。

8. NST（栄養サポートチーム）への参加

NSTチームの一員としてラウンドに参加し、低栄養患者栄養管理評価による栄養管理を行った。また栄養サポート委員会の一員として栄養サポート加算を算定できる体制を維持している。

9. 緩和ケアチームへの参加

緩和ケア回診に週2回参加し、薬学的視点から積極的に処方提案を行った。在宅療養・施設転院を目指す患者が増加しており、在宅・施設でもシームレスに薬物治療を継続できるようにするため、院内外の関係部署と連携して薬剤調整を行った。特に在宅でTPNや注射用医療用麻薬を継続投与する場合は積極的に在宅支援カンファレンスに参加し、多職種で連携して患者支援を行った。

10. ICT（感染対策チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）への参加

抗菌薬使用届の集計や病棟薬剤師との情報共有をもとに抗菌薬ラウンドや血液培養ラウンドに参加し抗菌薬適性使用の評価も行った。加えて、感染防止対策加算、感染防止対策地域連携加算の対象となるカンファレンスや相互ラウンドにも参加した。これら定期的に開催されるカンファレンスなどだけでなく、ICT・ASTの一員として感染対策室、微生物検査室等と随時連絡を取り合い院内の感染対策および抗菌薬適正使用に関与した。

11. DST（認知症サポートチーム）への参加

DSTチームの一員としてラウンドに参加し、せん妄の起きている患者への対応、主に薬剤に関する提案を行った。また、せん妄ハイリスク患者ケア加算時に行う患者スクリーニングの際、多職種が協力できるようにチーム内で連携し調整を行った。

12. 治験管理室業務

■下記手順書等を新たに制定し、院内掲示板に掲載し院内に周知を行った。

＜手順書等の制定＞

・特定臨床研究標準業務手順書

■GCP、各種倫理指針に則り、適正かつ効率的な治験、臨床研究等の実施に取り組んだ。臨床研究法が施行され、特定臨床研究として実施する研究が合計12件あったが、手順書を制定し、実施体制の整備を行った。

＜治験＞ 新規受託治験3件

＜臨床研究等＞ 新規医学系研究実施審査54件

ヒトゲノム・遺伝子解析研究実施審査1件

特定臨床研究3件

症例報告審査1件

＜医療倫理＞ 倫理審査1件

■その他

- ・厚生労働省の臨床研究倫理審査委員会報告システムに当院の治験倫理審査委員会の委員名簿、会議の記録の概要、手順書等を更新した。
- ・がん診療連携拠点病院等の整備に伴い病院ホームページを企画室と連携して作成・更新した。
- ・院内で研究者、倫理審査に携わる者を対象に臨床研究セミナーを開催した
- ・医療倫理全体講演会を開催した

12. 院外処方箋発行

豊田加茂薬剤師会と院外処方せん発行にともなう問題について2回の協議を行い、“院外処方箋への臨床検査値記載” “電子おくすり手帳” “診療報酬改定に係る連携”等について議論した。

13. 豊田みよし薬剤師連絡協議会

1) 「調剤業務のあり方」を踏まえた各施設の現状と今後の予定 2) 院外処方せんへの検査値掲載についての各施設の現状と今後の予定 3) 「施設間情報連絡書」についての各施設の現状と今後の予定、をテーマに各病院間の情報交換を行った。第2回はコロナ禍のため開催できず、令和元年度は1回のみ開催となった。

14. 実務実習

長期実務実習2～3期（各11週間）、計8名の実習生を受け入れ指導にあたった。

	1期 (5/27～8/11)	2期 (8/26～11/10)	3期 (11/25～2/16)
名城大学		1	3
愛知学院大学		3	
鈴鹿医療科学大学			1

15. 教育

主に医師を講師とした薬剤師勉強会を1回／2ヶ月に開催した。

4月	71名	総合内科 渡口医師	院内外薬剤師
6月	62名	内分泌内科 加藤大医師	院内外薬剤師
8月	62名	皮膚科 鈴木医師	院内外薬剤師・薬学生
10月	70名	薬剤部 酒井薬剤師	院内外薬剤師・薬学生
12月	72名	看護部 中王子看護師 稲熊看護師	院内外薬剤師・薬学生
2月	72名	婦人科 針山医師	院内外薬剤師・薬学生

令和元年度（主な業務指標）

外来処方せん枚数	56,248枚	薬剤情報提供（外来患者）	42,800件
院外処方せん枚数	126,947枚	薬剤管理指導（入院患者）	15,817件
入院処方せん枚数	98,925枚	無菌製剤件数	13,484件
注射せん枚数	110,396枚	分業率	71.6%
持参薬報告書作成件数	9,920件	吸入指導件数	151件
プレアボイド報告件数	191件		

①処方せん枚数と調剤数

	外 来		入 院	
	令和元年度		令和元年度	
	処方せん枚数	調剤数	処方せん枚数	調剤数
内 科	23,967	95,764	51,283	136,534
精 神 科	2,451	6,930	764	1,280
小 児 科	781	1,618	1,555	1,954
外 科	1,762	5,663	9,175	19,533
整 形 外 科	4,547	11,745	6,061	18,323
形 成 外 科	794	1,462	978	1,929
脳 神 経 外 科	481	1,430	3,518	7,990
呼 吸 器 外 科	162	393	1,736	3,744
心 臓 外 科	172	901	3,728	7,161
皮 膚 科	2,289	6,323	2,450	4,649
泌 尿 器 科	2,501	5,675	2,467	4,867
産 婦 人 科	1,092	2,032	4,762	6,844
眼 科	1,445	2,314	4,050	5,285
耳 鼻 咽 喉 科	1,074	3,323	2,573	4,529
放 射 線 科	50	127	4	4
麻 酔 科	591	1,587	96	313
歯 科 口 腔 外 科	657	1,325	3,228	4,372
救 急 科	11,425	16,698	461	673
計	56,244	165,720	98,912	230,043

②注射処方せん枚数と調剤数

	令和元年度
処方せん枚数	110,396
調剤数	340,744

③無菌製剤

	令和元年度
無菌製剤件数	13,484

④薬剤管理指導

	令和元年度
薬剤管理指導件数	15,817
麻薬加算件数	407
退院指導件数	5,488

⑤薬剤情報提供

	元年度令和
薬剤情報提供件数	42,800

⑥外来患者面談件数

	令和元年度
吸入指導	151
レブラミド等	153

⑦治験協力業務

	令和元年度
治験協力件数	6
被験者数	17

⑧院外処方せん発行状況

	令和元年度
処方せん発行枚数	126,947
分業率	71.6

⑨医薬品に関する問い合わせ（医師・看護師などから）

	令和元年度
問い合わせ件数	2,091

⑩時間外業務

	令和元年度
外来処方せん枚数	13,378
その他件数	35,802

⑪NSTラウンド参加状況

	令和元年度
NSTラウンド件数	996

⑫別記：化学療法無菌製剤（③無菌製剤再掲）

	令和元年度
入院調製件数	2,434
外来調製件数	5,557

7. 看護部

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 看護の質向上へ向けた取り組み

- (1) 各部署の特殊性に応じた適切な看護の提供（標準・安全・個別・倫理・寄り添う・根拠・判断）

- ・夜勤体制の改善：3C病棟の4人夜勤体制

8月より4人夜勤体制開始 3月に中間評価を行いインシデントの発生数の減少、新人のスムーズな夜勤導入、ナースコールへの対応時間の減少を確認

- ・各部署の教育体制の整備……実態把握と改善

5月に部署の取り組みを提出。計画に沿って部署で実施。2月の実地指導者研修にて、成果を共有

- ・ナーシングスキルを活用した教育体制

レベルⅢの保有者にナーシングスキルより3項目以上の視聴を実施。

各部署で、夜勤導入前までに視聴するものを明確にし、新人研修とナーシングスキルの紐づけを行い、次年度より実施できる体制を整えた

- ・効果的なOJT

教育委員会のグループ活動でラダー研修と現場を繋げられるようにする仕組みが必要であることが課題として抽出した。次年度より、研修案内を期首に全て提示することで研修内容、課題などを明確にする。研修受講後に現場でどのようにOJTに繋げるように対応しているかなどの情報を共有できるような仕組みを構築した

- (2) 自己の看護実践に自信が持てる（やりがいがある）

4部署が部署の目標として日々のカンファレンスを通して 看護実践の評価と教育・承認の場となるよう計画。看護係長会においてカンファレンスの実施を呼びかけた。結果、満足度調査の結果では、「看護のやりがい」は、0.9ポイント下がったが、「看護に自信が持てる」は昨年より1.2ポイント上昇した。

- (3) 部署の看護の自慢ができる

- ①課長カンファレンスで「当院看護部コンセプト」の決定

「看護部の価値は、ここで働くスタッフである。急性期病院でここにいるスタッフと一緒に働くことでできる成長がある」

- ②コンセプトの入った看護師募集パンフレットの工夫

- ③リクルーター研修（7/5）の開催

研修参加後、主体的提案や発信の増加、コミュニケーション能力のアップがみられた
確保活動の結果：(2019.7～2020.1の学内説明会・web合説参加者数142名→299名)

2. 労働条件・業務改善に向けた取り組み

- (1) 時間外労働・有休取得の改善

- ・有休の計画的付与とルール化

4月：年次有給休暇の計画的付与制度についての説明後、計画書を作成

9月：中間評価 有給休暇取得状況を把握し、後半の計画修正

10月～毎月『年次有給休暇取得計画票』で取得状況をモニタリング

規定数の有給休暇を全スタッフが取得できた

- ・時間外申請のあり方と承認のルール化

課長会で協議し、時間外申請の基準を作成。さらに残務調整・終礼に取り組んだ結果、昨年より時間外申請は増加した

- (2) 業務負担軽減の推進

- ・入退院支援センターの拡大による病棟業務の負担軽減
8月からPCI、11月から消化器内科、1月から婦人科の全身麻酔の手術を導入
これにより、病棟の入院にかかる時間短縮が図れた
- ・退院支援体制整備による退院支援の効率化
昨年より地域連携室に退院支援専任看護師を増員配置。退院支援担当者会を通して病棟看護師の役割、実践・評価を行うための視点を作成し監査を行った。専任看護師と病棟看護師の協力・連携につながった。
- ・各部署における業務の効率化（業務のスリム化・業務のやりにくさの改善）
「指示は指示簿へ」「義歯・補聴器の運用」取り組み業務が定着した。
係長会を通して、「掲示板の整理」「内服指示受け」「外来部門における入院時チェックリストの運用」などの活動を行った。

3. 診療報酬取得の安定維持

(1) 診療報酬取得の安定維持

1) 7対1看護体制の安定維持

- ・5月：各月の予測必要看護師数を計上し協力依頼、長期休暇取得月の調整
- ・毎月の勤務表確認と余剰看護師数を確認し有給休暇付与（勤務表作成時、毎月10日、20日頃）

2) 急性期一般入院料1の適正運用と重症度、医療・看護必要度基準越え30%の維持

- ・毎月の勤務表確認
- ・重症度、医療・看護必要度基準越え率の推移のモニタリング
30%を下回ることなく経過した
- ・ワイズクリッパーの有効活用
全スタッフが合格することができるよう運用した（年度末には100%達成）
疑問は問い合せ、医師の指示の出し方で「あり」と評価できる項目を確認し、指示簿の修正と周知をすることでB項目の点数上昇につながった
- ・毎月、記録委員会で入力ミス件数やミスの傾向を伝達し、ミスが減少する取り組みを紹介、検討した

3) 16対1看護職員夜間配置加算の適正運用

- ・患者数が多い場合は週末の看護師配置数から可能な入院患者数を提示して可能な範囲（入院病棟の調整等）で、ベッドコントロールを促した結果、要件を満たすことができた

4) 50対1急性期看護補助体制加算の安定維持

- ・4、5月の状況で判断し、7月から25対1を申請したが、8月は維持できず9月に50対1に変更申請。50対1は安定し維持

5) 入院料に関わる看護師配置の調整（准看護師の業務のあり方ガイドライン参考）

(2) 効率的なベッドコントロール

- 1) 消化器内科
- 2) 消化器外科

(3) 入退院支援センター対象の拡大と定着

8月からPCI、11月から消化器内科、2年1月から婦人科の全身麻酔の手術を導入

1. 令和元年度実績

1. 合同就職説明会

日程	名称	参加人数
7月13日	マイナビ	97人
12月26日	SNS	53人
1月11日	キャリアタス	23人
1月19日	マイナビ	80人
合 計		253人

2. 学内説明会

日程	名称	参加人数
4月4日	日本赤十字豊田看護大学	10人
9月11日	愛知県立大学	17人
12月21日	日本福祉大学	23人
合 計		50人

3. インターンシップ

日程	参加人数
3 月	18人
8 月	39人
合 計	57人

4. 就職説明会・施設見学会

日程	新卒者	既卒者	参加人数
4月20日	9人	0人	9人
5月18日	3人	1人	4人
6月1日	2人	1人	3人
6月15日	0人	1人	1人
7月6日	2人	0人	2人
7月23日	1人	1人	2人
8月3日	24人	0人	24人
8月17日	18人	2人	20人
9月7日	0人	1人	1人
1月10日	3人	0人	3人
1月18日	7人	0人	7人
2月1日	6人	1人	7人
2月15日	2人	0人	2人
合 計	77人	8人	85人

5. 学生・実習生受け入れ状況

①中学生体験

学校名	日程	人数
若園中学校	6/6~7	1人
猿投中学校	11/7~8	3人
保見中学校	11/14~15	2人
美里中学校	6/12~13	2人
梅坪台中学校	6/20~21	1人
竜神中学校	6/12~13	2人
高橋中学校	6/20~21	1人
藤岡南中学校	12/3~4	2人
朝日丘中学校	10/16~17	2人
逢妻中学校	11/5~6	2人
藤岡中学校	11/14	3人
猿投台中学校	6/12~13	3人
みよし市立三好中学校	9/12~13	2人
合計人数	—	26人

②高校生体験

主催	日程	人数
愛知県主催	8/7	28人
病院主催	7/25	28人
病院主催	8/21	28人

③看護学生

学校名	日程	人数(延人数)
加茂看護専門学校 1年生	7日間	41人(287)
2年生	40日間	41人(1,640)
3年生	104日間	41人(4,264)
豊田地域看護専門学校 2年生 小児	9日間	12人(108)
内科	13日間	15人(195)
3年生 小児	9日間	23人(207)
内科	12日間	24人(288)
日本赤十字豊田看護大学 1年生 基礎	4日間	26人(104)
日本赤十字豊田看護大学 4年生 成人Ⅱ	10日間	23人(230)
日本赤十字豊田看護大学 4年生 統合	8日間	7人(56)
日本福祉大学看護学部 3年生 小児	10日間	10人(100)
日本福祉大学看護学部 3年生 母性	10日間	15人(150)
日本赤十字豊田看護学部 訪問看護ステーション	8日間	8人(64)
穂の香看護専門学校 助産	40日間	1人(40)
日本赤十字豊田看護学部 訪問看護ステーション	8日間	8人(64)
人間環境大学 4年生 国際看護	5日間	2名(10)

8. 医療安全管理部

1. 令和元年を実施した重点事項とその成果

1. インシデントレポート集計・分析

インシデントレポート件数は総数4,942件で昨年度より140件増加した。診療部は昨年度より79件増加したが臨床研修部は134件減少となった。診療部は報告する文化が定着しつつあると考えるが臨床研修部においては啓発が必要と考える。看護部は262件増加した。療養上の世話の転倒転落においては報告件数73件削減し損傷レベル4も4件減少した。看護部からの転倒転落に関するレポートに関してはラウンド及びコメントをフィードバックした結果と考える。

2. 医療安全対策地域連携加算ラウンド

昨年同様に、加算Ⅰトヨタ記念病院、加算Ⅱ豊田西病院とともにラウンドを実施。今年度は、看護部のレポート件数に着目し、医療安全看護部会での展開やグッドジョブ賞を導入し、スタッフの意識改革に働きかける良い取り組みをされている。定期的に防げた内容に着目することで、職員の提出促進につながるのではないかと評価していただいた。

10月10日 豊田厚生病院・豊田西病院⇒トヨタ記念病院ラウンド

10月17日 トヨタ記念病院・豊田西病院⇒豊田厚生病院ラウンド

2月22日 トヨタ記念病院・豊田厚生病院⇒豊田西病院ラウンド

3. M&Mカンファレンス開催

インシデントレポートや医療事故報告から情報の共有が必要であると思われる事案に対して、各部署から選出されたスタッフが参加。今年度はカンファレンスで検討したことで業務改善につながった事例もあった。

例えば、医療機器・システムトラブルなどのおける緊急連絡体制の見直し、カルテ開示時の申請の際にダブルチェックで確認する体制の導入、等があげられる。今後も検討した内容が現場に活かせる取り組みも継続していく。

4. 啓発活動の実施

全体講演会、医療事故ワークショップ、医療安全フォーラムを開催。全体講演会では参加する職員がどの職種でも興味を持って参加できるように普段の記録の重要性やコミュニケーションについての題材を選択した。医療事故ワークショップについては当院の事例を時系列で振り返り、なぜ起きたのか、どうすべきであったのかを検討した。また働き方改革から開催時間を短縮し平日に実施するなど工夫をした。結果約64%が賛成という結果で貢献度も94%が成果ありとの回答から、今後もウィークデイで研修時間1時間程度を検討する。医療安全フォーラムについては発表部署を絞り込んだことで、各部署の問題への取り組み時間も獲得できた。また報告方法を統一したことで各部署のボリュームも適正化され評価しやすくなった。報告内容もレベルアップされてきたと考えている。

今年度は専任メンバーで各部署の患者確認方法やごみの分別についてパトロールを実施。多職種の視点で効果的な意見交換ができた。

5. 医療事故対応（事例検討会）の実施

6 事例実施

6. 医療事故調査制度に伴う死亡患者の確認

医療事故調査制度の対象事例はなし。



7. マニュアルの整備

針刺し事故防止について行動レベルで表記した。

2. 令和元年度実績

1. インシデント報告件数（令和元年度）

所属部署別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療部	50	37	29	37	34	25	35	31	19	31	33	25	386
臨床研修部	7	27	26	6	24	13	19	19	44	20	13	94	312
放射線技術科	5	3	5	5	4	2	3	9	4	4	8	6	58
臨床検査技術科	20	17	11	16	5	12	11	21	17	12	8	13	163
リハビリテーション技術科	4	3	2	2	4	5	7	3	6	5	3	2	46
臨床工学技術科	1	4	4	7	3	0	5	3	1	2	7	2	39
栄養科	2	6	4	4	0	3	3	2	3	4	6	1	38
薬剤部	7	10	8	8	10	1	10	10	7	8	8	12	99
看護部	238	307	288	317	291	288	330	301	347	271	287	292	3,557
事務部	2	9	10	6	10	12	6	5	3	4	4	5	76
地域医療福祉連携部	6	5	14	9	5	5	8	8	10	5	1	6	82
保険事業部	8	7	8	4	4	1	2	2	3	4	3	1	47
その他	8	3	3	1	0	4	4	4	4	2	4	2	39
合 計	358	438	412	422	394	371	443	418	468	372	385	461	4,942

内容分類別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤	109	159	132	136	166	150	153	179	163	128	143	144	1,762
輸血	2	3	5	4	2	0	8	5	3	3	1	6	42
治療・処置	55	48	46	52	52	36	61	30	47	42	29	65	563
医療機器等	11	14	18	22	11	10	13	14	26	8	15	9	171
ドレーン・チューブ	43	34	48	42	41	32	39	32	37	35	32	43	458
検査	50	65	53	47	38	42	50	54	55	49	52	64	619
療養上の世話 (転倒転落)	44 (28)	59 (45)	51 (45)	74 (58)	50 (31)	57 (26)	73 (42)	63 (46)	74 (34)	63 (35)	70 (40)	70 (52)	748 (476)
その他	文書・書類	16	27	21	22	14	26	22	18	32	21	22	267
	情報管理	12	15	20	10	10	11	17	13	17	14	11	171
	その他	1	3	0	3	1	0	0	0	0	2	0	12
	意見・クレーム・暴言暴力等	15	11	18	10	9	7	7	10	14	7	10	11
合 計	358	438	412	422	394	371	443	418	468	372	385	461	4,942

2. M&Mカンファレンス開催件数

月・日	参加人数	月・日	参加人数
4月24日	18名	10月8日	13名
5月22日	16名	10月30日	15名
6月26日	17名	11月27日	15名
7月24日	16名	12月25日	17名
8月28日	16名	1月22日	16名
9月25日	13名	3月25日	13名

3. 教育活動内容

研修企画：実践

4月3日	新入職者研修	9月12日	看護部ラダー研修 レベルⅡ
4月9日	看護師新人研修	10月4日	中途採用者研修
4月9日	研修医研修	10月11日	看護部ラダー研修 レベルⅠ
8月5日	事務部研修	11月19日	看護補助者研修
8月8日	看護部ラダー研修 レベルⅠ	12月3日	薬剤部実習研修
9月5日	薬剤部実習研修		

全体講演会開催

第29回全体講演会 記録の重要性

7月10日（水）17:30～18:30

講 師：SOMPOリスクマネジメント(株) 星野智史先生

内 容：リスクマネジメントの観点から、事例解説をもとに記録の注意点を解説します

対 象：全職員（必須）

参加者：全体研修当日371名 ビデオ研修（6回開催）592名 DVD回覧386名 合計1,349名

第30回全体講演会 私が見てきた医療現場 ～事故はこうして起こる、防ぐ～

12月3日（火）17:30～18:30

講 師：アナウンサー 追手門学院大学客員教授 寺谷一紀先生

内 容：どうすれば「伝わる」のか、どうすれば「信頼を得る」ことができるのか、コミュニケーションのコツを実践的に講義します。

対 象：全職員（重要）

参加者：全体研修当日333名 ビデオ研修（6回開催）601名 DVD回覧386名 合計1,320名

医療事故ワークショップ

拡大版 M&Mカンファレンス

検 討：何が起きたか、なぜ起きたか、どうすべきであったか

第27回 令和2年2月4日（火）16:30～17:30

救外受診直後、自宅で急変した1例 司会：大橋医師

第28回 令和2年2月5日（水）16:30～17:30

術前評価のCTで所見が見落とされた1例 司会：世古口医師

対 象：各部署より厳選

参加者：2月4日 98名

2月5日 84名

第11回医療安全フォーラム

目 標：各部署が自部署事例の分析・対策を立案し改善策に取り組むことが出来る

対象部署：院内研修の一環であり全部署が対象であるが発表は該当部署のみ

日 時：令和2年1月14日（火）～令和2年1月31日（金）＜活動報告閲覧期間＞

1月14日（火）～ 2月21日（月）：＜アンケート用紙回収期間＞

2月25日（木）～ 2月28日（月）：＜アンケート集計期間＞

参 加 者：1,273名（参加率100%）

※興味を引いた取り組み部署

1位 HCU病棟「HCU病棟における貴重品管理方法の改善に向けた取り組み

2位 4C病棟「～VICTORY ROAD～ 効果的にPDCAサイクルを回すために

私たちがONE TEAM~となった道のり」

3位 入退院支援センター「外来から入院までの入院支援システムの構築

ABL前の患者の確実な抗凝固剤の内服管理」

医療安全パトロール実施

- 6月21日 時刻確認パトロール
- 8月16日 リストバンド装着確認パトロール
- 11月15日 患者確認パトロール

医療安全推進週間

目的：「患者の安全を守るための共同行動（PSA）」の一環として、医療機関や医療関係団体等における取り組みの推進を図り、またこれらの取り組みについて国民の理解や認識を深めていただく事を目的としている（厚生省ホームページより抜粋）

医療安全推進週間を意識付けるために全職員の名札に黄色いリボンをつける

対象：全患者・全職員

概要：患者向け⇒受付番号と診察について

院内処方を受け取り方について

職員向け⇒展示 摂食嚥下認定看護師・認知症認定看護師の活動を実践に活かす取り組み
医療ゴミの分別の実態・事例から学ぶ
洗濯物の異物混入の実態
業者展示

医療機器を安全に使用するために（新心電図モニター導入後のQ&A）

体験 各種行動制限用具を実際に装着してみる

エアーマット、ベッド柵の正しい使用方法 カチャット君での搬送

参加：763名（展示会、参加）

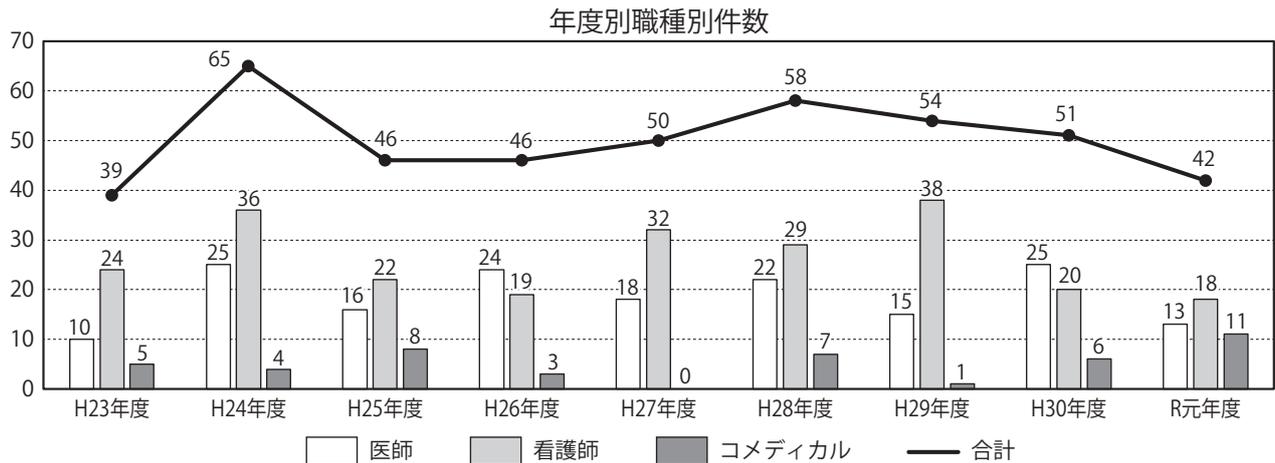
掲示物発行：医療安全情報（医療事故情報収集等事業） セーフティニュース 看護部お便り 1回／月

9. 感染制御部

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 針刺し・切創・粘膜曝露対策

針刺し・切創・粘膜曝露についてのデータ収集を前年度より継続して実施した。医療安全対策委員会・安全衛生委員会メンバーとともに、針刺し防止ワーキンググループでの活動の中で、針刺し・切創・粘膜曝露についての検討、介入を実施した。平成31年度は、42件/年の事例が発生し、前年度（51件/年）より減少し、全国平均を下回った。また、針刺し・切創・粘膜曝露に対する職員への啓蒙として、針刺しニュースの発行（不定期）を行った。



2. リンクナース活動の充実

リンクナースの感染対策に対する知識の底上げとして、計4回の勉強会を開催し、それぞれの部署で伝達講習を実施した。参加率はほぼ100%を達成することができた。また、院内パトロールチーム、標準予防策チーム、血液体液曝露チームに分かれ、それぞれグループ活動を展開した。院内パトロールチームは、毎月各部署から報告があるパトロール結果をアセスメントし、改善策を検討、チェックリストの改訂に向けて取り組んだ。標準予防策チームは、毎月の擦式アルコール製剤の消費量を調査し、適切なタイミングで実施できているか直接観察法を実施した。昨年度と比較し、消費量・患者一人当たりの手指衛生回数が増える結果となり、引き続き取り組んでいく。血液体液曝露チームは、針捨てBOXの変更、針捨てBOX使用状況等を調査した結果、針捨てBOX持参忘れが多いことが分かったため、介入した。また、ゴーグルの着用率が低いことが分かったため、今後ゴーグルの形態の変更などに取り組んでいく予定である。

2. 令和元年度実績

1. 教育活動

開催月日	研修会名
平成31年 4月3日	新入職員研修（全職種対象）「院内感染対策の実際」
4月8日	新入職員研修（看護師対象）「感染対策の概要」「針刺し、血液・体液曝露防止対策の実施と事故後の対応」他
4月10日	新人薬剤師研修「無菌調製～感染対策の観点から～」
4月11日	針刺し・粘膜曝露について（研修医対象）
令和元年 6月12日	リンクナース会「尿道留置カテーテル管理について」
令和元年 7月23日	救急外来勉強会「手指衛生5つのタイミング」
令和元年 8月5日	医師事務研修「感染対策の基本」
8月7日	リンクナース会「手指衛生5つのタイミング」
8月27日	4C病棟勉強会「手指衛生5つのタイミング」

令和元年9月3日 9月10日	全体講演会（全職員対象）「イラストで学ぶみんなの感染対策」 日本赤十字豊田看護大学教授 下間正隆 先生 日本赤十字豊田看護大学統合実習「当院の感染対策」
令和元年10月3日 10月4日 10月9日 10月15日 10月23日	ラダーⅠ研修「標準予防策・感染経路別予防策」 中途採用者研修（全職種対象）「院内感染対策の実際」 リンクナース会「カテーテル関連血流感染予防」 クラーク研修「感染対策勉強会～クラークさんの周りに潜む危険～」 清掃委託業者対象勉強会「病院から排出される廃棄物について」
令和元年11月1日	ラダーⅡ研修「デバイス関連感染・手術部位感染」
令和元年12月3日 12月10日 12月11日 12月12日 12月2日～21日	「季節性インフルエンザの対応～シーズンを乗り越えるために～」 リハビリ勉強会「感染対策勉強会～リハビリ技師さんの周りに潜む危険～」 リンクナース会「季節性インフルエンザ」 地域連携看護技術研修会「STOP！感染拡大～感染対策の基本から、吐物処理の実際まで～」 感染対策講習会（全職員対象）「手指衛生について（15分研修）」 豊田地域医療センター全体講演会
令和2年1月21日 1月23日	看護助手勉強会「感染対策勉強会～看護助手さんの周りに潜む危険～」 事務職員研修「感染対策勉強会～病院で働く事務さんの周りに潜む危険～」
令和2年3月5日	全体講演会（全職員対象）「みんなで取り組む抗菌薬適正使用」 名古屋大学医学部付属病院 手塚直行 先生

2. 地域連携

＜感染防止対策加算Ⅰ・Ⅱカンファレンス＞

開催月日	内 容	主 催
平成31年4月17日	昨年度の感染症の統括と今年度の活動について	トヨタ記念・豊田厚生共同開催
令和元年6月19日	昨年度の感染対策に関する情報共有について	トヨタ記念病院
8月28日	予防接種に関するおさらい	トヨタ記念病院
10月23日	参加施設の取り組み 「微生物検査室のイノベーション」	豊田厚生病院
12月18日	ToRIC参加施設間ラウンド報告 豊田厚生病院・豊田西病院	豊田厚生病院
令和2年2月19日	抗菌薬・消毒薬の使用状況報告	トヨタ記念・豊田厚生共同開催

＜感染防止対策加算Ⅰ×Ⅰラウンド＞

開催月日	内 容	主 催
令和元年7月19日	トヨタ記念病院ラウンド	豊田厚生病院
令和元年9月27日	豊田厚生病院ラウンド	トヨタ記念病院

3. ICTラウンド（毎週金曜日）

毎回テーマを絞って、病棟・外来系のラウンドを実施。

- 4月…環境整備（ミキシング台の環境、滅菌物の管理等）
- 5月…環境整備（ゴミの分別：施設課合同ラウンド、ゾーニング）
- 6月…手指衛生（アルコール手指衛生）
- 7月…手指衛生（流水と石けんでの手洗い）
- 8月…个人防护具（防護具着脱手順）
- 9月…手指衛生（医師・薬剤師のアルコール手指衛生）
- 10月…血流感染（刺入部の観察、側管注射の手技）
- 11月…デバイス関連感染（尿道留置カテーテルの管理、吸引時の防護具）
- 12月…環境整備（滅菌物の管理、ミキシング台の環境）
- 1月…環境整備（ゴミの分別、ゾーニング）

2月…手指衛生（アルコール手指衛生、流水と石けん手洗い）

3月…手指衛生（医師・看護助手のアルコール手指衛生）

4. 血液培養ラウンド（毎週水曜日）・抗菌薬ラウンド（毎週火曜日）

・血液培養ラウンド

血液培養陽性：951例に介入　うち血流感染：47例

・抗菌薬ラウンド

152症例に介入

5. ICTニュースの発行（毎月発行）

発行月	テーマ
平成31年4月	性感染症について③
令和元5月	正しい手指衛生、できていますか
6月	抗生物質が足りません…
7月	血液培養が陽性になったら？
8月	ラグビーW杯が開催されます～海外からの輸入易感染症に注意が必要です～
9月	インフルエンザ流行の兆し
10月	そのゴミ、そこに捨てていいですか
11月	嘔吐物の処理について
12月	インフルエンザ治療薬について
1月	中国武漢市における肺炎について

6. 新型コロナウイルス感染症対応

①感染症病棟（2類感染症病棟）の稼働

当院は第二種感染症指定医療機関であり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者受け入れに伴い、2月16日より感染症病棟を稼働し対応した。

②感染対策の徹底

COVID-19に関わる職員に対し、手指衛生の徹底や個人防護具の着脱手順などが確実に実践できるよう、手順書などの整備、介入を行った。

③院内感染防止の取り組み

看護部門・診療協同部門・事務部門など、各部門と連携を図り、院内感染が起きないように院内の環境を整備した。

④管轄保健所との連携

帰国者・接触者外来や発熱外来を設置し、管轄保健所と連携を図りながら、COVID-19の診療がスムーズにできるよう対応した。



10. 地域医療連携課（地域医療連携係）

急性期病院として期待される要望事項の把握に努め、地域医療機関との交流を密にし、地域医療連携がスムーズに行えるように受け入れ体制を充実させる。

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 地域医療機関との連携強化

①地域医療機関への表敬訪問の実施（77件）

- ・前立腺がん地域連携パス運用開始のため、新規がん地域連携パスの受け入れを依頼した。また、新たに認知症地域連携パスの運用を開始したい旨を説明すべく、副院長と共に医療機関への訪問を行った。
- ・前年度に引き続き、心臓外科代表部長、循環器内科部長による開業医訪問を行った。
- ・平成25年度に取り決めた特別養護老人ホームから当院への救急搬送のルールについて、「豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会」に豊田地域医療センターとともに参加し、施設長からの要望をヒアリングし、対応を検討した。その結果、豊田市内の特別養護老人ホームには、従来通りの対応をしていただくことで了承いただいた。

②登録医の当院広報誌への情報掲載

- ・毎号4医療機関ごと掲載

③5大がん地域連携パス受け入れ医療機関拡大

- ・前立腺がん地域連携パス運用開始となり6大がん地域連携パスとなった。
- ・開業医訪問の際に新規届出および追加届出依頼を行うとともに、届出未医療機関との連携パスを希望する患者が発生した場合、新規届出依頼及びパス説明の訪問を行った（届出医療機関数137機関→147機関に拡大）

2. 勉強会・交流会の開催等

①地域連携勉強会の開催（詳細は2. 令和元年度実績⑬地域連携勉強会を参照）

②豊田厚生病院地域医療支援病院運営委員会開催

- ・平成31年4月17日（水）第10回（令和元年度第1回）
- ・令和元年7月17日（水）第11回（令和元年度第2回）
- ・令和元年10月16日（水）第12回（令和元年度第3回）
- ・令和2年1月15日（水）第13回（令和元年度第4回）

③令和元年5月18日（土）第23回 豊田厚生地域医療連携交流会開催

- ・全参加者：155名（院内医師46名・他35名、院外医師33名・他41名）

④令和元年10月26日（土）令和元年度 豊田加茂地域医療連携交流会参加

- ・当院参加者：43名（医師20名・他23名）

⑤令和元年度 豊田加茂医師会・豊田厚生病院合同CPC

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

⑥ その他

- ・豊田市地域包括ケア企画課からの依頼に基づく「研修の運用についての勉強会」へ地域医療連携課長が出席
7/1、10/25、3/26（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり3/19に個別訪問を受けた）

2. 令和元年度実績（地域医療支援病院運営委員会資料より抜粋）

1. 登録医数・登録医療機関数（令和元年度末）

	登録医数	登録医療機関数
医 科	264	206
歯 科	170	156
合 計	434	362

2. 紹介実績

	延べ紹介患者数	紹介率
医 科	31,040	75.0%
歯 科	2,784	

3. 逆紹介実績

	延べ逆紹介患者数	紹介率
医 科	24,165	82.4%
歯 科	2,279	

4. 紹介の地域医療連携課経由の有無

連 携 課 経 由	26,253
連 携 課 経 由 外	7,571
延 紹 介 患 者 数	33,824
経 由 割 合	77.6%

5. 診察紹介患者の入院実績

診 察 紹 介	31,177
入 院（再 掲）	7,051
入 院 割 合	22.6%

6. 科別紹介実績

診 療 科	計	内 訳	
		外 来	入 院
内 科	14,384	11,451	2,933
精 神 科	227	226	1
小 児 科	1,608	1,058	550
外 科	2,761	2,110	651
整 形 外 科	2,583	1,990	593
形 成 外 科	659	591	68
脳 神 経 外 科	638	483	155
呼 吸 器 外 科	264	226	38
心 臓 外 科	194	179	15
皮 膚 科	1,296	1,173	123
泌 尿 器 科	1,354	1,073	281
産 婦 人 科	1,084	744	340
眼 科	948	613	335
耳 鼻 咽 喉 科	2,010	1,691	319
放 射 線 科	987	984	3
麻 酔 科	43	34	9
歯 科 口 腔 外 科	2,784	11,451	637
合 計	33,824	26,773	7,051



7. 科別逆紹介実績

診療科	計	内 訳		
		紹介元へ	紹介元以外へ	当院患者を紹介
内 科	13,448	9,934	398	3,116
精 神 科	227	81	31	115
小 児 科	352	222	5	125
外 科	1,627	1,353	56	218
整 形 外 科	2,303	329	77	1,897
形 成 外 科	443	315	13	115
脳 神 経 外 科	408	147	15	246
呼 吸 器 外 科	13	6	0	7
心 臓 外 科	377	306	5	66
皮 膚 科	747	523	43	181
泌 尿 器 科	356	65	0	291
産 婦 人 科	275	56	5	214
眼 科	630	457	36	137
耳 鼻 咽 喉 科	1,909	1,827	15	67
放 射 線 科	1,036	1,033	3	0
麻 酔 科	14	2	0	12
歯 科 口 腔 外 科	2,279	1,828	10	441
合 計	26,444	18,484	712	7,248

8. 地域別紹介件数

豊 田 市	24,644
み よ し 市	3,922
二 次 検 診	1,540
そ の 他	3,718
合 計	33,824

9. インターネット予約システム利用状況

地 域 医 療 連 携 課 経 由	26,253
インターネット予約(再掲)	6,609
インターネット予約割合	25.2%
新規利用開始機関数	16

10. 高度医療機器利用実績

内容	計	内 訳	件 数
放射線関係	1,377	CT	816
		MRI	494
		RI	5
		PET-CT	4
		骨密度	56
		上部消化管透視	0
		下部消化管透視	2
内視鏡・生理検査関係	1,270	上部内視鏡	196
		下部内視鏡	321
		腹部超音波	233
		心臓超音波	222
		甲状腺超音波	58
		頸動脈超音波	39
		その他超音波	18
		脳波	6
		その他	177
合 計			2,647

※その他の超音波は下肢血管

※その他はホルター心電図・トレッドミル・神経伝導検査・肺機能検査など

11. 開放病床（25床）利用実績

紹介患者延利用日数	1,989
利 用 率	21.8%

12. 共同回診実績

共 同 回 診 数	13
回 診 医 師 数	3

13. 地域連携勉強会

日程	研修会等の名前	内 容	主 催	対 象	参加者数
4/24 (水)	第22回看護技術研修会 (第31回地域連携勉強会)	摂食嚥下のしくみと誤嚥 予防のための姿勢について	地域医療連携課	連携医療機関看護師	16
5/9 (木)	第 3 回介護技術研修会 (第32回地域連携勉強会)	摂食嚥下のしくみと誤嚥 予防のための姿勢について	地域医療連携課	介護職（介護福祉 士・ヘルパー）	24
6/4 (火)	第 2 回豊田市学童指導員研 修会 (第33回地域連携勉強会)	アレルギーを持った小児 への対応 ～エビペンの操作～	地域医療連携課・ 豊田市役所次世代 育成課	豊田市学童指導員	96
6/5 (水)	第23回看護技術研修会 (第34回地域連携勉強会)	アレルギーを持った小児 への対応 ～エビペンの操作～	地域医療連携課	連携医療機関看護師	16
6/13 (木)	第24回看護技術研修会 (第35回地域連携勉強会)	摂食嚥下のしくみと誤嚥 予防のための姿勢について	地域医療連携課	連携医療機関看護師	18
7/3 (水)	第25回看護技術研修会 (第36回地域連携勉強会)	自宅・施設で安心して看 取るために	地域医療連携課	連携医療機関看護師	13
7/17 (水)	第 6 回乳腺勉強会 (第37回地域連携勉強会)	検診発見乳がんの検討 ～画像と病理の対比～	外科	健診機関、豊田市乳 がん検診協力医療機 関、乳がん地域連携 パスを依頼した医療 機関の医療従事者	57
8/22 (木)	第26回看護技術研修会 (第38回地域連携勉強会)	自宅・施設で安心して看 取るために	地域医療連携課	地域医療機関看護師	18
9/18 (水)	第27回看護技術研修会 (第39回地域連携勉強会)	急変対応 ～バイタルサインから異 常をキャッチ～	地域医療連携課	連携医療機関看護師	27
10/10 (木)	第28回看護技術研修会 (第40回地域連携勉強会)	急変対応 ～バイタルサインから異 常をキャッチ～	地域医療連携課	連携医療機関看護師	25
11/14 (木)	第29回看護技術研修会 (第41回地域連携勉強会)	血管アセスメントに基づ く採血・静脈注射・留置 針研修	地域医療連携課	連携医療機関看護師	18
12/4 (水)	第30回看護技術研修会 (第42回地域連携勉強会)	血管アセスメントに基づ く採血・静脈注射・留置 針研修	地域医療連携課	連携医療機関看護師	17
12/12 (木)	第 4 回介護技術研修会 (第43回地域連携勉強会)	STOP！感染予防	地域医療連携課	介護職（介護福祉 士・ヘルパー）	24
1/22 (水)	第 7 回乳腺勉強会 (第44回地域連携勉強会)	検診発見乳がんの検討 ～画像と病理の対比～	外科	健診機関、豊田市乳 がん検診協力医療機 関、乳がん地域連携 パスを依頼した医療 機関の医療従事者	68
1/30 (木)	第 2 回居宅介護支援時事業 所・訪問看護ステーション 研修会 (第45回地域連携勉強会)	在宅におけるポート管理 ～在宅においてポート管 理が必要な患者 4 事例を 通して～	地域医療連携課	居宅介護支援事業 所・訪問看護ステー ションに勤務してい る職員	19



11. 地域医療連携課（在宅支援コーディネーター係）

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 院内における退院支援体制の質の向上を図る

入退院支援加算1、算定要件の見直しを行い施設基準の体制整備

専従看護師3名、専従MSW1名、病棟専任看護師7名を配置

病棟専任業務の確立のため、病棟専任会を2回/月開催

看護部主催の退院支援担当者会に1回/月参加

病棟、外来、訪問看護師との退院支援の強化

退院支援、退院調整に係る職員にて退院支援部門会議を1回/2月開催

医療と介護の連携のために、ケアマネジャーの訪問件数の把握と介護支援等連携の充実

2. 退院支援における看護師の育成 退院支援の充実

退院支援担当者会に在宅支援コーディネーター係より1名参加

5月 退院指導用パンフレットについて検討

6月 退院支援における記録の監査について検討

7月 退院支援に対する事例検討・病棟専任の役割について伝達

8月 退院支援に対する事例検討「必要な退院支援について、いつ、だれが実践するか」

9月 病棟での退院支援について検討「退院支援カンファレンスのあり方」

10月 退院支援における記録の監査結果から、記録について検討

11月 退院指導用パンフレットの整備

12月 「退院支援が必要か否かを判断するための視点」の活用について検討

1月 「退院支援が必要か否かを判断するための視点」の活用事例の報告

2月 「退院支援が必要か否かを判断するための視点」の活用事例の報告

3月 目標評価と課題について検討

訪問看護への同行訪問は適宜行い、実施翌月に報告を行った。

病棟専任の役割について伝達を行い、病棟との連携を行うことで、退院支援の質向上を働きかけた。

退院支援に対する記録の監査、「退院支援が必要か否かを判断するための視点」を活用することで、病棟での退院支援の質向上を目指した。

3. 地域関係機関との連携強化

【在宅支援コーディネーター係主催の地域連携勉強会】

令和2年1月30日 第2回居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション研修会

「ポート管理について」講師：がん化学療法認定看護師 中王子 美保氏

在宅中心静脈栄養法（HPN）導入の患者の退院調整、HPN指導の実際について事例発表

【加茂医師会主催の在宅医療勉強会】

豊田市在宅医療シンポジウム・多職種合同研修会への参加

在宅医療スキルアップ研修への参加

在宅医療サポートセンター包括ケア研修会への参加

【地域医療福祉連携部主催の交流会】

令和1年5月18日 第23回豊田厚生病院医療連携交流会への参加

令和1年10月26日 令和元年度豊田加茂地域医療連携交流会への参加

令和1年12月13日 ケアマネ意見交換会への参加

4. 地域クリニカルパス推進

【脳卒中地域連携パス運用会議】年2回開催

令和1年8月1日 脳卒中地域連携パスの運用の見直しと評価

「脳血管障害と高次脳機能障害について」講師：豊田厚生病院副院長 服部 直樹氏

令和2年3月12日 「急性期病院実績報告」 紙面開催

【大腿骨頸部骨折地域連携パス運用会議】年3回開催

令和1年6月27日 「骨粗鬆症治療薬関連の話題」帝人ファーマ

「回復期病院からの情報提供」北斗病院

令和1年10月31日 「骨密度測定について」 トヨタ記念病院・豊田厚生病院

令和2年3月9日 「急性期病院実績報告」 紙面開催

5. 在宅支援コーディネーターとしての質向上とキャリアアップ

「スキルアップ」セミナー 退院支援と在宅支援 4名参加

介護支援専門員実務研修 1名参加

あいち小児リハビリテーション懇話会「小児病院のリハビリテーション」 1名参加

身寄りがない人の入院及び医療に係わる意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン研修 1名参加

ELNWC-Jコアカリキュラム 1名参加

第23回日本看護管理学会学術集会 1名参加

2. 令和元年度の実績

看護師3名、MSW1名で、新規747件（前年度比99.5%）の退院調整を行った。

疾患分類で見ると悪性新生物が409件で依頼の54.8%を占め、がん患者の在宅療養の調整件数が増えている。

さらに、医療処置を抱え、在宅療養を希望される件数が増え、多職種で在宅移行カンファレンスを開催することで、多機関共同指導加算は34件（前年度比170%）と増えている。

病棟専任看護師7名が、7,838件（前年度比98.4%）の退院支援計画書を作成し、入退院支援加算1の算定に繋がった。

病棟専任業務マニュアル、早期面談に使用する「安心して生活するために」を作成し活用できた。

退院支援カンファレンスは病棟専任看護師が中心となり、定期的な開催と必要に応じた臨時開催ができる体制づくりを行った。

①退院調整対応件数

	令和元年度
新規件数	747件
継続延べ件数	298件
合計	1,045件

②疾患分類

	令和元年度
新生物	409件
神経系	62件
循環器系	49件
呼吸器系	58件
消化器系	42件
その他	127件

③退院時転帰先

	令和元年度
在宅	433件
転院	73件
施設	4件
死亡	85件
合計	595件

④退院支援計画書・介護支援連携

	令和元年度
入退院支援加算1	7,838件
地域連携診療計画加算	240件
介護支援等連携	172件
多機関共同指導加算	34件

※外来患者の対応件数を除く

⑤地域連携パス件数

	令和元年度
大腿骨頸部骨折	105件
脳卒中	163件
胃がん	51件
胃がん(ESD)	14件
大腸がん	98件
乳がん	122件
肺がん	54件
前立腺がん	1件
在宅緩和ケア	22件
認知症	2件
合計	632件



12. 医療福祉相談課（兼がん相談支援センター）

令和元年度は、増え続けるMSW介入依頼に対して、入退院支援加算の件数を維持しつつ、限られた人員での業務の効率化を図ることを検討してきた。その結果、退院支援計画書については在宅支援コーディネーター係と協働で月700件前後の算定を維持できた。

対前年比に見る相談件数は、実人数で99.6%、総対応件数で99.8%とほぼ横ばいである。新規依頼件数では103.0%とやや増加傾向にある。平成30年度が前年対比で新規依頼件数が13%くらい増加していたことを考えると、平成30年度から増加した状況で横ばいの状態になっている。

このような中で、入退院支援加算の算定要件をクリアするため、医療福祉相談課職員の院内他部署への異動などもあり、医療福祉相談課としてはもともとの配置予定人数を下回る状況で対応しており、前年対比に見る相談件数のわずかな減少は人員減による影響と考えられる。

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 後方病院や在宅関係機関との連携強化

- ・院内の地域包括支援センターとの共催でケアマネジャー向けに退院時の連携についてシンポジウムを行い、医療機関の退院について理解を求めた。在宅支援コーディネーター係も含め、入院から退院までの患者支援の流れを周知した。合計で80名程度の参加があり、在宅支援者の医療機関に対する理解が深まった。その結果、介護等支援連携指導料の算定数増加などに繋がった。
- ・後方医療機関との定期的な情報交換により、空床状況の把握や転院の障壁となる問題について事前に把握し、あらかじめ対処をすることでスムーズな転院に繋がっている。また、新たにできた病院との連携も密にし、転院調整の受け入れ幅は広がっている。

2. 退院支援計画書の算定率確保のための取り組み

- ・在宅支援コーディネーター係と協働で前年に引き続き、月700件前後での退院支援計画書を維持できた。
- ・前年から検討したカンファレンスの人員配置での体制整備は順調に稼働し、算定要件となるカンファレンスは確実に行えている。

3. 部署内の体制整備

- ・配置人数減や、今後の産休育休の取得予定職員や退職予定職員の穴埋めのため、新しい体制づくりの話し合いを重ねた。その結果、新しいチーム制の意義についてスタッフ間で共有することができた。またチームで対応することで、新人教育の補完にも繋がっている。
- ・新入職員の育成を見える化するために、新人指導マニュアルの作成を行った。また具体的な活用に繋げている。
- ・医療福祉相談課以外に配置されたソーシャルワーカーと課題の共有をするために地域医療福祉連携部内でのソーシャルワーカー会を発足。合わせて医療福祉相談課会も発足。部内における課題の共有だけでなく解決のための検討や部署間の補完についても協議する場を明確にできた。

4. 地域包括ケアシステム作りへの協力

- ・豊田市成年後見・法福連携推進会議に豊田市における医療ソーシャルワーカーの代表として昨年に引き続きで参加している。成年後見人制度の活用については、地域にも浸透してきたことで利用者数が増加している。医療機関における患者本人の意思決定にも関係してきており、1年を通して課題の共有を行った。公的センターとしての後見人受任の件数が予想を上まわる状況で推移しているため、市民後見人の育成を具体化するための話し合いと養成について検討している。その結果、市民後見人養成講座の

開設に繋がり、第1期生の具体的養成が始まっている。この市民後見人養成講座の開催にあたり、講師としても協力している。

- ・ 豊田市地域密着型包括支援ネットワーク会議に参加し、今後の豊田市の基盤整備への話し合いに医療機関の代表として提言を行っている。
- ・ 認知症初期集中支援チームと連携を行い、地域の中で問題となっている事例の解決に協力している。
- ・ 令和1年度から豊田市訪問看護師養成センターの稼働が始まり、地域における訪問看護師の要請が始まった。センターへ講師派遣を行うことで、地域の訪問看護師の養成に協力している。

5. 豊田市消防本部との連携について

- ・ 全く新しい取り組みとして、救急隊員とMSWとの直接連携の仕組みづくりを始めている。市内4医療機関が参加しているが、そのうち3次救急に対応しているのは当院ともう1か所だけであり、その2か所で市内の救急車対応の9割近くを取り扱っている。そのため、ソーシャルハイリスクと位置付ける基準を救急隊と協議して、そのハイリスク患者について救急隊からの情報を直接にMSWが受け取ることにした。
- ・ 取り組みにより、救急車の頻回搬送の件数の減少や、社会的支援に確実につなげることを目標としている。月2～8件程度の件数で対象者が出ているが、救急隊のアンケートでは救急隊員の9割が直接連携の継続を望んでいるとの結果が出ている。

2. 令和元年度実績

1. 援助内容別対応件数

援助内容	令和元年度	
	件数(件)	構成比(%)
1. 心理・社会的処遇	306	1.3%
2. 治療と療養生活	797	3.3%
3. 家族関係・在宅生活	296	1.2%
4. 受診・入院	463	1.9%
5. 退院・転院	18,862	79.0%
6. 医療費・生活費・経済	1,272	5.3%
7. 手続き・診断書・保険	1,687	7.1%
8. 職業等社会生活	28	0.1%
9. その他	167	0.7%
合計	23,878	100.0%

2. がん相談支援センター 援助内容別対応件数

援助内容	令和元年度	
	件数(件)	構成比(%)
1. 治療・療養生活等	2,151	69.3%
2. セカンドオピニオン	16	0.5%
3. 治療実績・受診・入院・退院・医療機関紹介	506	16.3%
4. 医療費・生活費・社会保障制度	257	8.3%
5. 不安・精神的苦痛・告知・コミュニケーション	78	2.5%
6. その他	94	3.0%
合計	3,102	100.0%



3. 関係機関との会議等への参加状況

豊田市要保護児童・DV対策協議会、愛知県児童虐待対応医療機関連絡会、豊田加茂児童虐待等関係機関連絡調整会議、地域連携パス会議（脳卒中・大腿骨骨折・在宅緩和ケア）、豊田市地域密着型包括支援ネットワーク会議、豊田市成年後見・法福連携推進会議、難病ネットワーク三河ブロック連絡員会議、愛知県難病医療協議会、難病対策協議会（衣浦東部保健所・豊田保健所）、保健所・難病医療ネットワーク連携会議、認知症医療連携協議会、医療福祉関係機関と名古屋刑務所との連絡協議会、豊田市母子医療保健福祉ネットワーク会議、西三河地域母子保健推進会議、豊田市精神障がい者地域協議会、豊田市アルコール問題支援推進会議、アルコール問題事例検討会、地域支援病院運営委員会、救急隊とMSWの連携に関わる意見交換会 等

4. 地域貢献

- ・愛知県医療通訳派遣システム 講師派遣
- ・名古屋刑務所視察委員会 委員派遣
- ・豊田市成年後見センター市民後見人養成講座 講師派遣
- ・豊田市訪問看護育成センター 講師派遣
- ・みよし市障害支援事業所研修会 講師派遣
- ・とよた市民福祉大学家庭介護コース 講師対応
- ・日本福祉大学「医療ソーシャルワーク演習」 講師派遣
- ・愛知県医療ソーシャルワーカー協会西三河北ブロック運営委員長
- ・愛知県医療ソーシャルワーカー協会認定社会福祉士医療分野研修委員会 委員派遣
- ・実習生対応（他職種含む） 等

5. 患者会開催状況（事務局を医療福祉相談課が対応しているもの）

①オストミー友の会（人工膀胱・人工肛門患者会）— 事務局 医療福祉相談課

- ・第37回 オストミー友の会
新型コロナウイルスの流行により、開催中止

②ひまわり会（在宅酸素療法患者会）— 事務局 医療福祉相談課

- ・第42回 ひまわり会
日 時：令和1年7月6日(土)
テ ー マ：「慢性呼吸不全と食事」 講師 小林憲司（管理栄養士）
イ ベ ント：「フラトレ」 講師 磯谷綾（スマイリング）
座 談 会：意見交換会
参 加 者：会員10名、付添い5名、病院スタッフ20名、酸素業者3名
- ・第43回 ひまわり会
日 時：令和1年10月6日(日)
小 旅 行：「ミツカンミュージアム」
参 加 者：会員10名、付添い7名、病院スタッフ17名、酸素業者2名、開業医1名

13. 訪問看護ステーション

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 豊田市、愛知県の在宅医療・福祉連携推進計画への協力及び参加を通し、ステーションの普及啓発、人材育成、多職種連携の強化の継続

- (1) 豊田加茂訪問看護ステーション部会の活動
 - 月1回部会に出席し状況報告や相談等の協議
 - 人材育成チーム主催の研修会「リンパドレナージュ」（講師：呉 照美氏）他への参加
 - 豊田市就職フェアや豊田市産業フェスタへの協力、多職種の同行訪問研修実施等の協力
- (2) 豊田加茂医師会在宅医療サポートセンター事業主催、在宅医療スキルアップ研修「基幹病院と在宅医療の連携～訪問看護師の立場から～」当ステーションの訪問看護認定看護師が講師を務め、市内の関係職種が90名参加、当ステーションから4名参加
- (3) 愛知県訪問看護ステーション協議会広報委員会の活動
 - 月1回委員会に出席、年2回出版広報誌「りあん」の原案と原稿の作成作業
 - 9/1 春日井市健康救急フェスティバル参加
 - 11/2 東海・北陸ブロック訪問看護ステーション連絡協議会交流会参加

2. ターミナルケアに重点を置いた看護の質の向上

- (1) デスカンファレンスの学習会開催とデスカンファレンスの定期開催実施
 - デスカンファレンスの学習会を実施後、デスカンファレンスの対象者の明記、ケアマネジャーや在宅支援コーディネーターなど関連職種にも参加を促し、実施できた。
 - 目標値は、在宅看取り利用者のデスカンファレンス実施率90%以上とした。
 - 在宅看取り件数18件中デスカンファレンス実施は13件。実施率は72%であった。目標値は母数が少ないこともあり下回った。しかし、取り組みにより「行った看護の良い点が明確になる」「できた事や不足していた点を振り返る機会」「他のスタッフの意見が参考になった」等々の成果が得られた。異動してきたスタッフにとってはカンファレンスで語り合うことがOJTに繋がった。
- (2) 余命期間の予測（PS）とターミナルケアの見直し実施
 - 緩和ケア認定看護師によるPS学習会を実施後、終末期の予後予測実施は定着した。全スタッフの情報共有と、利用者・家族のケアの見直し、声掛けの内容なども具体的になった。異動スタッフは多くが参考になったと意見があった。「残り少ない時間をどう過ごすか、支援するきっかけになった」「指標になるので家族へアドバイスしやすい」「方向性を考えチームで統一した看護ができる」という意見が聞かれた。
 - 以上から、行った看護の振り返りと学びより、具体的に次の支援に繋げることができたと考える。
 - 経験値を高め、互いにアドバイスし合うことで、ターミナルだけでなく全体の看護ケアの質向上を目標としていく。

3. 安全かつ快適な業務環境づくり

- (1) 計画的有休の公平な取得
 - 「全スタッフが有休を利用し連休6日間」という目標を立て、実施した。カレンダーを使用し希望が重ならないように工夫し、100%達成できた。
- (2) 複数名訪問対象の検討と決定
 - スタッフと相談し、神経難病、頸髄損傷の利用者に対し利用者とスタッフの身体的負担、認知症利用者の暴力（処置時の強い抵抗）などに対し全4件の実施。
 - スタッフ及び利用者の身体的・精神的負担は減少した。ハラスメント事例に対しても検討し、今後対

象に入れていく。

(3) ナーシングスキルを活用した看護技術の学習

訪問看護に特化した全12項目を全スタッフで視聴した。視聴後は個々で工夫していることなどのミニディスカッションを実施。OJTに繋がる機会となった。

(4) 残業時間の削減

部署目標「わたし、定時で帰ります」に対し、全員で業務改善案を考え、ポスター化、アラームを使用し時間を意識する取り組みを行った。振り返りアンケート結果では時間を意識することができたという結果が得られた。

目標値として、残業時間の月平均時間が前年度の20%減としたが、部署合計時間は前年度と比較し年間計1,463時間→806時間へ、1ヶ月計133時間→80.6時間へ、一人当たり月平均時間外（緊急訪問含む）は、12時間→7.3時間であり、40%減少する結果が得られた。

全体を通して、働きやすさに対する満足度調査の結果が前年度より上がることを目標としたが、平均点は4.0点⇒後期4.1点 「思う」「ややそう思う」は75.8%⇒80%と上昇した。また、時間を意識し業務に取り組む姿勢は定着したと考える。

「以前より働きやすい」「公平に休暇が取れるようになり良かった」という声も聞かれ、働きやすい職場作りを皆で意識できた。

4. 機能強化型訪問看護療養費Ⅱ及びターミナルケア加算の継続取得

(1) 1人1日当たり訪問件数3.0件以上の維持

訪問件数を増やすため、退院支援担当者会や他事業所のケアマネジャーなどにアピールした。以前使用していた訪問看護パンフレットを再版し在宅支援コーディネーターはじめ地域医療福祉連携部内にも周知した。定期訪問のキャンセル枠にはリハビリ希望者などに連絡し、ランダムに訪問してもらうなど工夫したが、件数の増加には至らなかった。月の訪問件数は609～733件で推移、1人1日あたりの訪問件数3.0件を切ってしまった月が3回あった。

(2) ターミナルケア加算15件以上／通年の維持

在宅看取り件数は総計20件／通年であり、達成できた。

ターミナルケア加算についてはカルテへの表記や加算に必要な条件について資料の読み合わせ、計画の見直しを行った。計画書の渡し忘れや記録不備など加算対象の取りこぼしはなかった。

2. 令和元年度実績

利用者数はマイナス85人で、前年度比94.8%と減少、のべ訪問件数はマイナス27件で、95.4%と減少した。1人1日当たり訪問件数3.0件以上の目標は未達成の月が3回。訪問看護収益でみるとマイナス4,801千円で、前年度比94.8%と減収の結果となった。さらに、人件費の高騰（準職員から正職員、経験年数の多いスタッフの異動などの要因）により、損益は13,802千円となった。

機能強化型訪問看護療養費Ⅱについては、ターミナルケア加算算定件数により維持できた。また、診療報酬改定により令和2年度は機能強化型訪問看護療養費Ⅰの申請を実施できた。しかし、がん終末期医療保険対象の利用者が、下半期は減少しており、院内外への在宅看取りケースの受入れアピールや、終末期ケアの看護の質の向上が求められている。

介護保険については、1人暮らしや高齢者、認知症高齢者世帯など、デイサービス・ショートステイ利用を利用し、多職種との協働により在宅生活の継続を目指しているが、病状の悪化により入院を機に施設入所や転院になるケースも多い。よって、介護保険の利用者も短期間で終了になるケースが増えている。その為、新規受け入れを行っても毎月ほぼ同数の契約終了者が出ている現状である。

1. 訪問実績

	利用者数 (人)	訪問件数 (件)	訪問看護【収益】 (千円)	その他【収益】 (千円)	事業費【支出】 (千円)
医療保険	552	3,101	39,097	539	103,222 損益▲13,802
介護保険	999	4,821	49,782		
計	1,551	7,922	88,879		

2. 終了者数

医療保険	介護保険	計
70	37	107名

3. 新規依頼の紹介元

紹介元		介護	医療	計
院内	在宅支援コーディネーター	17	57	74
	居宅介護支援事業所	2	1	3
	地域包括支援センター	1	0	1
	医療福祉相談課	0	2	2
	医師	0	1	1
	小計	20	61	81
院外	他施設より(他病院・診療所等)	8	2	10
	居宅介護支援事業所	14	4	18
	地域包括支援センター	5	0	5
	小計	27	6	33
合計		47	67	114

4. 学生・実習生受け入れ状況

学校名	人数
加茂看護専門学校	9クール 42名
愛知県立看護大学	3クール 10名
日本赤十字豊田看護大学	2クール 8名
弥富看護学校	2クール 8名
訪問看護認定看護師教育課程	1クール 2名



14. 居宅介護支援事業所（豊田厚生介護保険センター）

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. H30/4介護保険法改正にて、新設されたターミナルケアマネジメント加算を算定
 - ・新規がん末期のターミナルケースを優先的に対応
 - ・要介護認定未の状況が多いため、暫定プランで対応
 - ・担当地区の地域包括支援センター・各関係機関と連携しながら対応
2. 居宅介護支援事業所の特定事業所加算ⅢとⅣを継続算定
 - ・H30/3/1～H31/2/28までのがん末期ターミナルケアマネジメント加算件数7件
 - ・H31/3/1～R2/2/28までのがん末期ターミナルケアマネジメント加算件数5件（要件は5件以上必要）
 - ・週1回ケアマネ会議を開催し、新規ケースや問題ケースなどの情報を共有
 - ・時間外携帯当番を365日対応
 - ・ケアマネごとに個別的な研修目標を設定し受講
 - ・運営基準減算に該当しないように適正にケアマネジメント業務を実施
 - ・短期間で終了するケースや状態悪化にてプラン発生につながらないケースが多いため、今後も新規ケースの継続対応が必要
 - ・特定事業所加算基準の遵守状況に関する所定の記録を毎月末まで作成し、5年間保存
 - ・豊田市集団指導・講習会の情報を適宜スタッフと共有
3. 訪問看護主催のディスカンファレンスや倫理カンファレンス・地域医療福祉連携部看護師会主催のナラティブカンファレンスに参加
 - ・ディスカンファレンス3件、ナラティブカンファレンスに看護職参加
 - ・倫理原則・利用者の代弁・カンファレンスのあり方など振り返りの良い機会となった
4. ケアマネ実務研修実習指導
 - ・3日間実習生1名受入完了

2. 令和元年度実績

1. ケアプラン作成

令和元年度	
件数	収益
1,018	18,277,594

- ① R1/5～特定事業所加算Ⅳ（125単位）算定開始
- ② 活動実績は、ケアプラン件数は前年度比115%、収益は前年度比139%となった
- ③ 急性期病院の中にある居宅介護支援事業所のため、主に医療依存度の高いケースやがん末期のケースが安心して自宅療養できるように受け持ち対応している。医療依存度の高い場合やがん末期ケースの場合、状態変化しやすいケースが多く、急変にて、相談対応は行ってもプランにならないケースが89名、死亡者46名、介護負担などから施設入所など中止（終了）者20名あった
- ④ 入院時医療連携加算3日以内73件、7日以内2件算定
- ⑤ 退院退所加算 112回分算定（カンファなし連携1～2回、カンファ有り連携1～3回含む）

2. 要介護別件数

要介護度別	令和元年度
要介護1	275
要介護2	306
要介護3	132
要介護4	161
要介護5	144
計	1018

3. その他

	令和元年度件数
新規利用契約者	96
中止者（入所等）	20
死亡者	46
利用者（電話相談・訪問対応以外）	1,696
他事業所へのケース紹介（再掲）	0

①11/2 愛知県厚生連 令和1年度高齢者福祉研究会 2名参加

②院外ケアマネから主治医連絡・入院時情報提供書対応件数（地域医療連携課事務担当）

主治医連絡票（平成21年度から対応開始）対応件数	398
介護保険医療連携用情報提供書対応件数	603

③要介護認定者の主治医の意見書取り扱い件数（地域医療連携課事務担当）

令和元年度	
件数	収益
1,739	7,965,360

④医師意見書取り扱い件数（地域医療連携課事務担当）

令和元年度	
件数	収益
47	229,840

15. 豊田厚生地域包括支援センター

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

*平成30年度より事業計画の様式が変更となり、活動目標は3年後を見据えた長期的な活動目標を設定、目標達成に向けての事業計画を立て取り組んでいる。本年度は2年目。

【活動目標】

- ・地域とのつながりが少ない高齢者の実態把握ができ、高齢者が閉じこもらずに出かけられる場所が増えていく
- ・認知症になっても、地域の理解と協力により自宅での生活が継続できる地域を目指す
- ・心も身体も健康でいられるように、地域の高齢者の健康づくりに関する意識向上を目指す

1. 地域とのつながりが希薄になりがちで、単身世帯、高齢者のみの世帯、他の地域から呼び寄せられた高齢者の実態を把握し、地域とつながることができるよう働きかける

(重点事項)

- ①ひとり暮らし高齢者の実態把握 目標70件
- ②高齢者世帯の実態把握
- ③高齢者クラブ・ふれあいサロンの訪問による閉じこもりがちで高齢者の情報収集
- ④既存のサロン等の周知活動と活性化に向けた支援
- ⑤新規サロン等の新設に向けた支援
- ⑥社会資源ガイドブックの作成と発行
- ⑦新たな社会資源の活用

(成果) すべて予定通り実施

- ①ひとり暮らし高齢者登録者数94名。民生委員とボランティア部の中学生が実施する「ひまわり活動」で同行訪問したのは45件、その他、電話や訪問、サロン訪問時等で49件の実態把握を行い、計94件全ての実態把握を行うことができた。実態把握を行う中で、認知機能の低下により独居困難で同居に至った方がおり、廃止届作成のための訪問の際に、家族へ包括の周知と介護保険の説明をすることができた。
- ②民生委員より提供していただいた3世帯の高齢者世帯の実態把握を実施。一人暮らし登録、サービス利用に至った方や若年性認知症で介護保険申請、サービス導入につながった方がみえた。
- ③高齢者クラブやサロン等の各活動を訪問し、認知症で独居の方の近況やサロンに出てこなくなった方の情報をいただくことができた。すでにケアマネジャーや当センターが関わっている方であったが、その後の支援につなげることができた。
- ④社会資源ガイドブックの活用、チラシの配布による周知活動を実施。浄水交流館や自治区のサロンで講話等の依頼を積極的に受けることで活性化に向けた支援を行った。
- ⑤地域住民の「子ども食堂、高齢者向けの集いの場をつくりたい」という想いを、社会福祉協議会、福祉総合相談課とともに支援し、子ども食堂の開設はかなわなかったが、地域の方皆が集える場ができ、社会資源ガイドブックにも掲載し地域住民に周知した。
- ⑥社会資源ガイドブックを作成、関係者や地域住民に配布。社会資源ガイドブックを用いて認知症カフェを案内した方が、実際に参加することができ、閉じこもりの解消と新たな交流機会を作ることができた。
- ⑦車を運転されない高齢者は買い物に行くことができない、という困り事に対し、地域に移動販売車「とくし丸」を導入。高齢者住宅入居者やその周辺にお住いの方が多く利用されるようになり、買い物難民が減少した。

2. 認知症に対する正しい理解と対応の啓発活動を継続し、地域に見守りの目を増やすことができる
(重点事項)
- ①認知症サポーター養成講座の開催 1 自治区と法人職員向け
 - ②認知症サポーターステップアップ講座の開催 年1回
 - ③すべてのささえあいネット登録機関を訪問、3 事業所以上に新規登録勸奨
 - ④まごころフェスタにおいて全世代に認知症に関する啓発、情報発信を実施
 - ⑤ケアマネ向けの事例検討会を実施
 - ⑥医療・介護検討委員の活動の中で、医療との連携に関する学びの機会をもつ
 - ⑦「ささえあいネット会議」で認知症になっても安心して暮らせる地域づくりについて考えるきっかけ作りをする
 - ⑧認知症カフェ「SuiCafe」を毎月共催し、認知症に関する啓発、情報発信、相談対応を実施
(成果) すべて予定通り実施
 - ①当初2自治区での開催を予定していたが、年度途中で区長交代などあり実現できず、地域医療福祉連携部の職員向けに開催し、31名(20代~60代)の認知症サポーターを増やすことができた。開催できた1自治区では27名(10代~70代)のサポーターを養成した。
 - ②認知症サポーターステップアップ講座を院内で開催し8名の方が参加。服部副院長の講演とグループワークで、認知症に対する理解を深めていただくことができた。
 - ③4月、9月にすべてのささえあいネット登録機関を訪問し、気になる高齢者の方がいないか、困っていることはないか聴き取りするとともに、引き続き今後の見守り活動と当センターへの通報の依頼をした。3事業所に新規登録勸奨をし、美容室と接骨院の2事業所は登録に至った。
 - ④11/10のまごころフェスタでは、認知症の中核症状のタペストリーを掲示、間違い探しや折り紙でポチ袋作成など脳トレ体験を実施。125名の方が当センターのブースに寄っていただいた。小さい子ども向けに認知症のキャラクターロボ隊長の塗り絵を用意することで、多くの親子連れも参加された。包括支援センターをPRする機会にもなり、その場で遠方に住む親を呼び寄せる相談などを受けることもあった。
 - ⑤10/24に院内で開催。障がい者相談支援員4名、ケアマネジャー8名、基幹包括支援センター2名、当センター4名の計18名で実施。障がい者相談支援員から、障がいのサービスについてや介護保険との併用についての講義をしていただき知識を深めるとともに、事例検討を通じて、相談しやすい関係づくりができた。
 - ⑥ブロック協力事業の医療・介護検討委員(保健師)の活動の中で、豊田市内の各病院を訪問、実際に窓口となる方々と顔の見える関係づくりができた。その他、当センターと豊田厚生病院医療福祉相談課との共催でケアマネ意見交換会を開催。地域のケアマネ、包括、院内から在宅支援コーディネーター、MSWの総勢69名が参加。双方の困り事を共有する機会となり、「課題に感じていたことが解消された」「困っていたことがグループワークでほとんどなくなった」などの意見をいただくことが出来た。
 - ⑦10/9に開催。自治区長、民生委員、高齢者クラブ、ささえあいネット登録機関、ケアマネ等48名の方に参加いただいた。“認知症”をテーマとした内容で実施、まずは地域の方々が認知症の正しい理解をしていただくことが大切、ということを伝えることができた。
 - ⑧認知症カフェ「SuiCafe」を毎月第4月曜日に老健さなげと共催にて実施。1時間はイベントを実施。イベントを考える際には、脳に良い刺激となることを念頭に、また地区で活躍されている高齢者の方の活躍の場を提供できるように努めている。(31年4月~1年2月述べ参加者270名、平均参加者数24名)

3. 将来に向けた心構えについて考えることができ、心も身体も健康に過ごすためにセルフケアに取り組む高齢者の方を増やす

(重点事項)

- ①地域や自治区が取り組むテレビ体操、ラジオ体操への参加勸奨
- ②包括が実施する講座・講演会にラジオ体操を取り入れ、ラジオ体操の浸透と体操や運動の習慣化を目指す

- ③包括が実施する講座・講演会などに「もしバナゲーム」を取り入れ、将来への心構えについて考えるきっかけづくりを行う
- ④家族介護交流会（介護者のつどい）を年4回開催
（成果）すべて予定通り実施
- ①地域で行っているラジオ体操や区民会館、浄水交流館で行っている元気アップ体操について、社会資源ガイドブックを活用して参加勧奨を行った。
- ②6/12・9/11介護者のつどい、5/30伊保原サロン、2/15ステップアップ講座の開催前にラジオ体操を実施。名古屋弁のラジオ体操の音源を使用しているが、体操の内容が分かるよう、動画の要望があり、令和2年度は動画を準備して活用していく。
- ③5/30伊保原サロンにて「もしバナゲーム」を実施。反応は様々であったが、自分自身と他者との価値観の違いを実感され、「家族と話をしてみよう」というきっかけになった。
- ④昨年度は座談会のみでの開催であり0人の会もあったが、今年度はもの作りなどのイベントを開催することで、平均6名と参加者を増やすことが出来た。

2. 令和元年度実績

1. 相談に対する対応件数（件） ※ほのぼの（地域包括支援センター支援システム）実績

電 話	訪 問	来 所	その他	合計(件)
2,937	1,060	269	348	4,614

2. 介護予防支援実績

件数(件)	収入(円)	前年度比
566	2,478,607	124.1%

3. 介護予防ケアマネジメント実績

件数(件)	収入(円)	前年度比
381	1,686,413	123.3%

4. 介護機器展示室における相談

相談・対応件数(件)
147

5. 会議・研修等参加実績 合計 233回

会議・研修名等(一部)・回数	
民生委員児童委員地区協議会	9回
サービス連絡調整会議	22回
地域包括支援センター連絡会議	11回
ケース検討会議（スクリーニング会議、コア会議含む）	5回

6. 人材育成等計画の実績

事業区分	実施の有無
①センター職員の資質向上のための研修機会の確保	○
②センター職員と法人担当者との業務上の意見交換	○
③包括的支援事業に専念できる環境の整備	○
④3職種確保のための対応策	○
⑤そのほか法人独自の取組（任意）	○

16. 健康管理室

1. 令和元年度に実施した重点事項とその成果

1. 子宮がん検診の充実

今年度より婦人科専門医が確保でき、週4日勤務することになった。従来は、婦人科検診を11時より開始していたが、10時30分より開始可能となり受診者の待ち時間削減につながった。婦人科専門医の常駐により、経膈超音波検査の増加計画を推し進め、案内文の配布も行った結果、前年度251件から今年度2,454件（前年対比977.7%）と大幅に検査数が向上。次年度には、HPV検査の導入も検討。

2. 保健指導の充実 全国協会健保の充実・拡大（当日指導の充実）

平成24年度より全国協会健保等の当日保健指導を開始し、令和元年度は保健指導の受診者が動機付け支援16名減、積極的支援5名減と前年度に比較し少し減少した。要因は、階層化対象者が同じですが、保健指導該当者の減少によるものである。また当日の保健指導の実施率は99.1%と好調であった。当日の保健指導実施率は県下でもトップクラスの評価を頂いた。

3. 予約電話増設

毎年3月末から6月は、予約電話が殺到し繋がりにくい状況に対する対策として、昨年度より、予約電話1台（合計4台）と不在応答メッセージ機器1台を増設し、電話交換手も3名から4名に増員して、3月末から6月にかけて対応した。その結果、苦情件数が激減した。また、不在件数も同時に調査を行い、7月は不在数が増加傾向にあり、電話交換手の削減（4名から2名）が原因と考えられ、次年度は電話交換手の増員を7月末までにするか検討。

2. 令和元年度の実績

令和元年度の受診者総数は19,790名（職員健診含む）、総収入560,077千円、予算は555,700千円に対して予算対比 4,377千円増 100.8と予算を少し上回った。令和元年度の稼働日は260日で1日当たり平均の受診者数は76.1名（職員健診含む）、また一日当たりの平均収入は2,154千円で、令和元年度の一人当たりの平均単価が28,301円であった。各種健診別の受診者の増加率はドック100.8%、企業健診等98.2%、全国協会健保116.2%、豊田市国保特定健診98.0%、豊田市がん検診97.6%と前年度に比べ、全体的に見れば消費税変更の増加分が上乗せされている。

1. 平成30年度のがん検診の精査率

令和2年4月1日現在

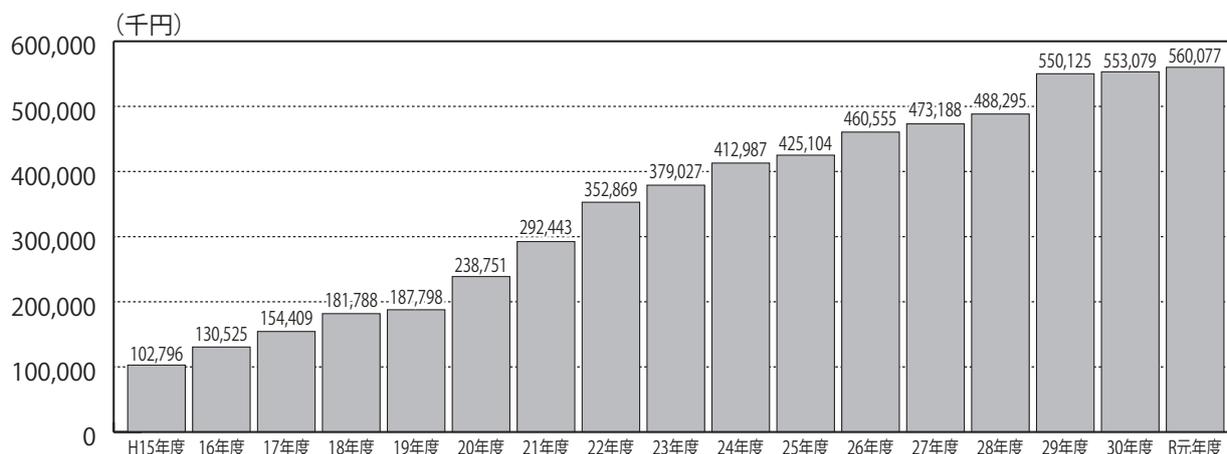
	総受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
胃がん	10,613	786	7.4%	530	67.4%	17	0.16%
肺がん	16,942	314	1.9%	171	54.5%	5	0.03%
大腸がん	12,277	756	6.2%	481	63.6%	16	0.13%
前立腺がん	2,270	142	6.3%	62	43.7%	12	0.53%
子宮がん	4,737	197	4.2%	132	67.0%	0	0.00%
乳がん	5,790	245	4.2%	233	95.1%	14	0.24%

※胃がん検診にて、食物残渣多量、描出不良、撮影不可等の理由にて検査未実施者は総数に含まず
 ※各精検受診者数については、上記日までに当センターに報告されたもののみとする
 ※精査率は1年遅れで集計

2. 健康管理室利用者数前年対比

	令和元年度
人間ドック	3,513
JA組合員人間ドック	89
脳ドック	1,112
PET検診	137
肺ドック	289
レディースドック	191
甲状腺ドック	60
もの忘れドック	5
豊田市国保特定健診	4,523
特定健診（集合契約A）	511
保健指導（動機付け）協会健保含む	252
保健指導（積極的）協会健保含む	200
全国協会健保 一般	1,824
〃 付加・差額	301
〃 乳・子宮がん	561
〃 肝炎	413
企業健診・身体検査	3,733
被爆健診	94
職員健診	2,663
保健指導（動機付け）	28
保健指導（積極的）	18
豊田市がん検診 胃がん	3,634
〃 大腸がん	4,930
〃 肺がん	3,937
〃 子宮がん	1,401
〃 乳がん	1,831
〃 前立腺がん	905
〃 肝炎	463
〃 総合健診	271
〃 乳がん検診（無料券）	113
〃 子宮がん検診（無料券）	25
受診者数（職員健診含む）	19,790
収益（円）	560,077,697

3. 健康管理室収益推移



Ⅲ 職員活動

1. 研究業績

1. 呼吸器内科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	当院における肺非結核性抗酸菌症に対する肺切除例の検討	○谷川吉政、青山昌広、高嶋浩司	第94回日本結核病学会総会	2019. 6. 7
2	シフラが病勢を反映していると考えられた肺放線菌症の一例	○林かずみ、二村圭祐、指尾豊和、青山昌広、谷川吉政	第116回日本呼吸器学会東海地方会	2019.11.16

2. 循環器内科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	マーシャルリエントリーの治療場所	○金子鎮二、篠田政典、窪田龍二、大橋大器、藤田雅也、暁陽祐、羽賀智明、足立健太郎、堀仁美、伊藤亮太、白井義憲	Heart Rhythm2019	2019. 5. 9
2	複雑病変治療におけるOptimal IVUS guided PCI.	○窪田龍二	第9回豊橋ライブデモンストラーション	2019. 6.22
3	Stent-less Percutaneous Coronary Intervention Using Rotational Atherectomy and Drug Coating Balloon for Bifurcation Lesion with Severe Calcification.	○窪田龍二、伊藤亮太、白井義憲、堀仁美、足立健太郎、羽賀智明、暁陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	TOPIC2019	2019. 7.11
4	An easily coronary dissection case during PCI for both LAD and LCX.	○暁陽祐、伊藤亮太、白井義憲、堀仁美、足立健太郎、羽賀智明、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	TOPIC2019	2019. 7.12
5	A case of mitral valve flutter;high density mapping catheter reveals the mistake of differential pacing method.	○金子鎮二	第66回日本不整脈心電学会学術大会	2019. 7.25
6	A case of upper loop reentry AT with Ultrahigh-resolution mapping system was useful.	○藤田雅也	第66回日本不整脈心電学会学術大会	2019. 7.25
7	A case of atrial tachycardia originating from left pulmonary vein which with rare coronary sinus sequence.	○白井義憲、金子鎮二、伊藤亮太、足立健太郎、堀仁美、羽賀智明、暁陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第66回日本不整脈心電学会学術大会	2019. 7.25
8	A case of atrial fibrillation and atrial tachycardia with ablation both from left atrium bottom and coronary sinus ostium.	○暁陽祐、伊藤亮太、白井義憲、堀仁美、足立健太郎、羽賀智明、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	第66回日本不整脈心電学会学術大会	2019. 7.26
9	cryoablation vs radiofrequency catheter ablation for paroxysmal atrial fibrillation.	○足立健太郎、篠田政典、窪田龍二、大橋大器、藤田雅也、暁陽祐、羽賀智明、堀仁美、伊藤亮太、白井義憲	第66回日本不整脈心電学会学術大会	2019. 7.26

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
10	The contact force catheters with LSI indicates good outcome for non-paroxysmal atrial fibrillation from first procedure.	○Hori Hitomi, Kaneko Shinji, Fujita Masaya	第66回日本不整脈心電学会学術大会	2019. 7.27
11	アンギオ所見からの事前予測がトラブル回避に有用であったLMT分岐部病変の一例	○窪田龍二、伊藤亮太、白井義憲、堀 仁美、足立健太郎、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	サッポロライブデモンストレーションコース2019	2019. 9. 6
12	Impact of Impaired Flow-mediated Dilation on Acute Coronary Syndrome in Non-elderly Patients	○豊 陽祐、伊藤亮太、白井義憲、堀 仁美、足立健太郎、羽賀智明、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	第28回日本心血管インターベンション治療学会・学術集会	2019.9.19
13	Safety and efficacy of pericardial ablation with rapid intravenous injection of noradrenaline and atropine in patients with left ventricular dysfunction	○窪田龍二、伊藤亮太、白井義憲、堀 仁美、足立健太郎、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	第28回日本心血管インターベンション治療学会・学術集会	2019. 9.21
14	アブレーション治療が奏功した心房粗動合併収縮性心膜炎の一例	○白井義憲、金子鎮二、伊藤亮太、足立健太郎、堀 仁美、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	日本循環器学会第154回東海・第139回北陸合同地方会	2019.10.19
15	高齢者の好酸球性に対して積極的治療介入が奏功した一例	○櫻井礼子	日本循環器学会第154回東海・第139回北陸合同地方会	2019.10.19
16	塞栓源不明の脳塞栓症を発症した心アミロイドーシスの一例	○井関彰太、羽賀智明、伊藤亮太、白井義憲、堀 仁美、足立健太郎、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本循環器学会第154回東海・第139回北陸合同地方会	2019.10.19
17	PCPS・NO療法を要した一例	○小林明裕、寺田貴史、荒木善盛、川口 鎮	日本循環器学会第154回東海・第139回北陸合同地方会	2019.10.19
18	当院で経験した右心系血管内異物3例の検討	○長井 伸、羽賀智明、伊藤亮太、白井義憲、堀 仁美、足立健太郎、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本循環器学会第154回東海・第139回北陸合同地方会	2019.10.20
19	再発悪性リンパ腫に対する化学療法の効果を経胸壁心臓超音波にて経時的に評価しおえた1剖検例	○岩田恵輔、羽賀智明、伊藤亮太、白井義憲、堀 仁美、足立健太郎、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本循環器学会第154回東海・第139回北陸合同地方会	2019.10.20
20	The use of a high-density grid-style mapping catheter in catheter ablation of ventricular arrhythmias	○Kaneko Shinnji	12th Asia Pacific Heart Rhythm Society (APHRS2019)	2019.10.24
21	Comparison of procedural characteristics for de novo and redo persistent atrial fibrillation ablation using a high-density grid-style catheter with orthogonal bipole algorithm	○Kaneko Shinnji	12th Asia Pacific Heart Rhythm Society (APHRS2019)	2019.10.24



No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
22	Faster mapping for targeted atrial fibrillation ablation using a novel algorithm with a high-density grid style catheter in a Japanese population	○Kaneko Shinnji	12th Asia Pacific Heart Rhythm Society (APHR2019)	2019.10.24
23	Dabigatran bridging therapy during hospitalization for atrial fibrillation ablation is safety	○Kentaro Adachi	12th Asia Pacific Heart Rhythm Society (APHR2019)	2019.10.24
24	Dabigatran bridging therapy during hospitalization for atrial fibrillation ablation is safety	○足立健太郎、篠田政典、窪田龍二、大橋大器、藤田雅也、豊陽祐、羽賀智明、足立健太郎、堀仁美、伊藤亮太、白井義憲	カテーテルアブレーション関連秋季大会2019	2019.11.8
25	再発性心房細動に対してFrAPmapが有用であった一例	○伊藤亮太、篠田政典、金子鎮二、窪田龍二、大橋大器、藤田雅也、豊陽祐、羽賀智明、足立健太郎、堀仁美、伊藤亮太、白井義憲	カテーテルアブレーション関連秋季大会2019	2019.11.8
26	救命できなかった重症心筋梗塞の一例	○豊陽祐、伊藤亮太、白井義憲、堀仁美、足立健太郎、羽賀智明、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	ARIA2019	2019.11.21
27	亜急性心筋梗塞に僧帽弁逸脱や肺うっ血、心原性ショック、腎前性腎不全を合併した一例	○豊陽祐、伊藤亮太、白井義憲、堀仁美、足立健太郎、羽賀智明、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	ARIA2020	2019.11.22

3. 消化器内科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	残胃に胃癌・びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫を同時発症した一例	○安田 司、平賀潤二、鏡味良豊、都築智之	第239回日本内科学会東海地方会	2019.10.6
2	成人腸重積の2例	○豊島 創、安田 司、松葉朋彦、松井健一、竹内敦史、森田 清、高士ひとみ、都築智之	第62回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2019.12.21

4. 脳神経内科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	悪性リンパ腫に伴う神経合併症の臨床特徴 当院24例の検討から	○森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹、氏平伸子、成田道彦、吉田眞理	第60回日本神経学会学術大会	2019.5.22
2	JAK2遺伝子変異陽性骨髄増殖性疾患に伴う脳梗塞3例の検討	○赤塚和寛、森 悠、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	第60回日本神経学会学術大会	2019.5.23
3	髄膜炎尿閉症候群の臨床的特徴	○久納光皓、伊藤瑞規、富田 稔、赤塚和寛、森 悠、服部直樹	第60回日本神経学会学術大会	2019.5.25
4	Trousseau症候群に対する当院におけるDOACの有効性	○水野幸奈、森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	第60回日本神経学会学術大会	2019.5.25

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
5	遅発性に顔面神経麻痺を呈したFisher症候群の一例	○佐藤萌美、森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	第154回東海北陸地区神経内科地方会	2019. 6.15
6	舌下神経麻痺を呈した頸部内頸動脈解離の一例	○赤塚和寛、森 悠、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	第154回東海北陸地区神経内科地方会	2019. 6.15
7	髄膜炎病状を呈さなかった播種性クリプトコッカスの1例検例	○赤塚和寛、森 悠、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹、氏平伸子	第60回日本神経病理学会	2019. 7.15
8	全経過6年でCBSと臨床診断されたPSPの1割検例	○馬場万里子、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹、氏平伸子、成田道彦、吉田眞理	第60回日本神経病理学会総会学術研究会	2019. 7.16
9	生後7ヵ月男児に痙攣で発症し17歳時に呼吸不全で死亡したAlexander病の一部検例	○森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹、氏平伸子、成田道彦、吉田眞理	第60回日本神経病理学会総会学術研究会	2019. 7.16
10	産褥後期に発症したFisher症候群の一例	○水野幸奈、森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	第30回日本抹消神経学会	2019. 8.23
11	発症3週間後に片側顔面神経麻痺を呈したフィッシャー症候群の一例	○佐藤萌美、水野幸奈、森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	第30回日本抹消神経学会	2019. 8.23
12	急激なワリーゼを呈した高齢発症重症筋無力症2例の臨床検討	○佐藤萌美、森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	日本神経学会地方会	2019.10.26
13	突然発症のめまいで発症し経静脈的塞栓術で著明に改善した硬膜動静脈瘻の一例	○森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	第155回日本神経学会東海北陸地方会	2019.10.26
14	肺小細胞癌完全寛解時のLambert-Eaton筋無力症候群再燃に対し免疫グロブリン静注療法が有効であった一例	○馬場万里子、森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹、二村圭祐	第37回日本神経治療学会学術大会	2019.11. 7
15	Stiff-leg症候群の一例	○赤塚和寛、森 悠、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹	第37回日本神経治療学会	2019.11. 7
16	献血により偶発的に診断された無症候性壊死性ミオパチーの一例	○森 悠、赤塚和寛、富田 稔、伊藤瑞規、服部直樹、野田成哉	第156回日本神経学会東海北陸地方会	2020. 3.14

5. 内分泌内科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	糖尿病治療の最新デバイスについて	○加藤大也	地域の糖尿病について考える会	2019. 6.20
2	胃切除後に出現した耐糖能異常にCGMとFGMを使って診断・治療を行った2症例	○松尾悠志、渡邊令奈、加藤大也、澤井喜邦	第239回日本内科学会東海地方会	2019.10. 6
3	十二指腸潰瘍穿孔を契機に甲状腺クリーゼを発症した一例	○大塚晴佳、神田真衣、前田龍太郎、山下千夏、富永隆史、大竹かおり、有吉 陽	第29回日本内分泌学会臨床内分泌代謝Update	2019.11.30



6. 腎臓内科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	ビタミンB1欠乏から心不全、意識障害をきたした血液透析患者の一例	○天野竜彰、村上敬祐、服部晶子、橋本悠作、永田高信	第64回日本透析医学会 学術集会総会	2019. 6.30
2	Obstruction of PD catheter after embedding in Nagoya University Hospital	○吉岡知輝	International Society for Peritoneal Dialysis	2019. 9. 7
3	甲状腺癌に対してレンバチニブを使用 中、ネフローゼと腎機能障害を来した 一例	○伊藤怜花、水野幸奈、吉岡知輝、 堀 貴洋、天野竜彰、倉田久嗣	第240回日本内科学会 東海地方会	2020. 2.16
4	アシクロビル（ACV）脳症・腎症を来 した一例	○石川稜恭、堀 貴洋、佐藤直和、 重本絵美、吉岡智輝、倉田久嗣	第64回日本透析医学会 学術集会・総会	2019. 6.28
5	選択的血漿交換を施行したANCA関連 血管炎の5症例	○佐藤直和、石川稜恭、齊藤絢恵、 堀 貴洋、重本絵美、吉岡智輝、 倉田久嗣	第64回日本透析医学会 学術集会・総会	2019. 6.28

7. 血液内科

著書・論文

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	Successful treatment with desmopressin in a case of severe hyponatremia induced by high-dose cylophosphamide	○Ryota Ito, Junji Hiraga, Naruko Suzuki, Yusuke Taaigi, Hisashi Kurata and Yoshitoyo Kagami	Open Journal of Case Reports in Medicine 2019:1:104
2	Composite gastric cancer and diffuse large B-cell lymphoma arising from the remnant stomach	○安田 司、平賀潤二	OSP Journal of Case Report Vol. 1-101
3	Ulnar artery pseudoaneurysm that developed during rehabilitation for paraplegia in a patient with hemophilia B: a case report	○Shigenori Ito, Tomoharu Koike, Yoshio Matsushige, Junji Hiraga, Hironobu Inagaki and Hinji Kato	Annals of Case Reports. 2019 12:279.
4	Safety and efficacy of forodesine for a recurrent peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified with liver failure	○Naruko Suzuki, Junji Hiraga, Yusuke Takagi, Michihiko Narita and Yoshitoyo Kagami	Archives of Hematology and Blood Disease. 2020 Vol3, Issue1, 09-12.
5	臍帯血移植生着前に発症し高容量 liposomal amphotericin Bで救命しえた 播種性Fusarium感染症	○原田靖彦、村田 誠、松本あかね、 加藤大三、八木哲也、矢口貴志、 吉川剛典、武市拓也、秋山真志、 山口洋平、小山大輔、寺倉精太郎、 西田徹也、清井 仁	臨床血液 2019年60巻12号 p.1641-1646

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	濾胞性リンパ腫と脾臓癌の多重がんの 1例	○田中かずみ、平賀潤二、鈴木奈瑠子、 鏡味良豊、同消化器内科 林雅	第238回日本内科学会 東海地方会	2019. 5.26
2	IL2およびIL4とは異なるIL2/IL4依存性 ATL細胞株の樹立	○鏡味良豊、内山進、加藤春美、 山本一仁、瀬戸加大	第59回日本リンパ網内 系学会総会	2019. 6.29

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
3	肺腺癌と多発性骨髄腫の重複癌症例に対する治療と肝転移	○長井 伸、平賀潤二、鈴木奈瑠子、鏡味良豊、同病理診断科 成田道彦	第8回日本血液学会東海地方会	2019. 6.30
4	重篤な自己免疫性溶血性貧血を合併したリンパ形質細胞性リンパ腫の1例	○鈴木奈瑠子、平賀潤二、高木雄介、鏡味良豊、同病理診断科 成田道彦	第8回日本血液圧壊東海地方会	2019. 6.30
5	Re-expression of CD20 protein and re-obtaining partially rituximab sensitivity treated with azacitidine in CD20-negative transformed diffuse large B-cell lymphoma after using rituximab	○平賀潤二、藤田医科大学血液内科 富田章裕、鈴木奈瑠子、高木雄介、同病理診断科 成田道彦、鏡味良豊	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会	2019. 7.20
6	肉芽腫様弛緩皮膚に血管免疫芽球形T細胞リンパ腫を合併した一例	○糸見百合子、鈴木奈瑠子、原田靖彦、平賀潤二、鏡味良豊	第239回日本内科学会東海地方会	2019.10. 6
7	残胃に胃癌・びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫を同時発症した1例	○安田 司、都築智之、平賀潤二、鏡味良豊	第239回日本内科学会東海地方会	2019.10. 6
8	臨床現場における網羅的遺伝子解析の実現可能性に関する研究	○富田章裕 1、安田貴彦 2、真田昌 2、三好寛明 3、大島孝一 3、加留部謙之輔 4、錦織桃子 5、倉橋浩樹 6、入山智沙子 1、岡本晃直 1、平賀潤二 7、楠本茂 8、福原規子 9、山本松雄 2、齋藤明子 2、永井宏和 2、岡本昌隆 1、服部浩佳 2、金森貴之 2、西島大 2、白石友一 10、宮野悟 11、小川誠司 12、堀部敬三 2 (1. 藤田医科大学血液内科学、2. 国立病院機構名古屋医療セ臨床研究センター、3. 久留米大学医学部病理学講座、4. 琉球大学大学院医学研究科細胞病理学、5. 京都大学大学院医学研究科血液・腫瘍内科学、6. 藤田医科大学総医研分子遺伝学研究部門、7. 豊田厚生病院血液内科、8. 名古屋市立大学病院血液・腫瘍内科、9. 東北大学病院血液免疫科、10. 国立がん研究セ研究所細胞情報学分野、11. 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析セ、12. 京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学)	第81回日本血液学会学術集会	2019.10.11
9	Ph-positive acute lymphoblastic leukemia with T315I mutation treated with IO	○平賀潤二、鈴木奈瑠子、原田靖彦、鏡味良豊	第81回日本血液学会学術集会	2019.10.12
10	当院における多発性骨髄腫のカルフィルゾミブの使用経験	○鈴木奈瑠子、平賀潤二、原田靖彦、鏡味良豊	第81回日本血液学会学術集会	2019.10.12
11	[OS3-15D-4]AMLにおけるFLT3阻害剤の効果予測バイオマーカーと至適治療法の開発	○原田靖彦、石川裕一、川島直実、金 貞姫、中島麻梨絵、足立佳也、牛島洋子、清井 仁	第81回日本血液学会学術集会	2019.10.13



No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
12	Development of predictive biomarker and optimal treatment strategy with FLT3 inhibitors in AML	○Yasuhiko Harada, Yuichi Ishikawa, Naomi Kawashima, Jeonghi Kim, Marie Nakashima, Yoshiya Adachi, Yoko Ushijima, Hitosi Kiyoi. Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Department of Hematology, Toyota Kosei Hospital	第81回日本血液学会学術集会	2019.10.13
13	多臓器不全を呈し治療に難渋した軽鎖沈着症の1例	○岩田恵輔、原田靖彦、鈴木奈瑠子、平賀潤二、鏡味良豊	第240回日本内科学会東海地方会	2020. 2. 6
14	間質性肺炎で発症した悪性リンパ腫の一例	○服部杏子、原田靖彦、鈴木奈瑠子、平賀潤二、鏡味良豊	第240回日本内科学会東海地方会	2020. 2.16

8. 総合内科

著書・論文

No.	題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	救急搬送されたアナフィラキシー患者の重症度とエピペン処方の実態	○西本奏浩、加藤誓子、渡口賢隆	日本内科学会雑誌 109巻臨時増刊号
2	意識障害患者に感染症があるかどうかを推測するための、年齢、心拍数、呼吸数、収縮期血圧を用いた新しい指標「HARIS」の提唱	○西本奏浩、畑田 剛、小林修一	日本農村医学会雑誌 第68巻4号450-459頁

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	高齢化社会における救急担当内科医の負担増について	○西本奏浩、加藤誓子、渡口賢隆	第116回日本内科学会講演会	2019. 4.27
2	意識障害患者に感染症を想起するための体温によらない指標「HAR/S」の提唱	○西本奏浩、畑田 剛、小林修一	第47回日本救急医学会総会・学術集会	2019.10. 4
3	臨床的にTAFRO症候群を疑うも病理解剖にてSLEと診断した1例	○水野幸奈、加藤誓子、渡口賢隆、西本奏浩	第239回日本内科学会東海地方会	2019.10. 6
4	頸部痛で発症した化膿性胸鎖関節炎、鎖骨髄炎の一例	○長ちひろ、船橋 脩、加藤誓子、渡口賢隆、西本奏浩	第239回日本内科学会東海地方会	2019.10. 6
5	末梢静脈カテーテル関連血流感染 - ASTによる発見、ICTによる対策	○渡口賢隆、酒井幹康、駒井博子、永田悠起、岩瀬 豊	第68回日本農村医学会学術大会	2019.10.18
6	Helicobacter cinaed;菌血症から硬膜外膿瘍を来した一例	○川口大也、齋藤絢恵、加藤誓子、渡口賢隆、西本康浩	第240回日本内科学会東海地方会	2020. 2.16

9. 緩和ケア内科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	対麻痺発症後に3重屈曲反射(逃避反射)を認め、反射出現時の両下肢痙縮痛に対しボツリヌス療法が症状緩和に有効であった乳がん多発脊椎転移例	○村松雅人、佐久間政宜、伊藤瑞規、西村大作、近藤 有、横山尚美、植松夏子、安居 円、矢辻和美、齋藤靖子、井口多恵子	第24回日本緩和医療学会学術集会	2019. 6.21

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
1	司会	村松雅人	第10回豊田地域緩和医療交流会	2019.11.20
2	座長	村松雅人	第24回豊田がんフォーラム	2020.2.12

10. 小児科

著書・論文

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	腸チフスの無症候性キャリアの治療中に発症した乳児例	○伊藤卓冬、梶田光春、鈴木大路、辻元基、西田大恭、生駒雅信	日本小児科学会雑誌 123巻第8号 1278-1282頁

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	小児血液・腫瘍患者における中心静脈カテーテルの計画外抜去リスクについての検討	○宮城島萌、濱田太立、村松秀城、奥野友介、鈴木喬悟、川島希、成田敦、西川英里、西尾信博、高橋義行	第122回日本小児科学会学術集会	2019.4.20
2	急に苦しくなって救急搬送された3例(異物誤飲)	○梶田光春、鈴木大路、宮城島萌、武田将典、生駒雅信	令和元年度第1回三機関合同勉強会(豊田市こども発達センター)	2019.6.13
3	新生児マスキングで発見された甲状腺片葉欠損症の一例	○梶田光春、鈴木大路、宮城島萌、武田将典、生駒雅信	第276回日本小児科学会東海地方会	2019.6.30
4	血漿中Lyso-Gb3高値のために酵素補充療法を開始したFabry病姉妹例	○梶田光春、鈴木大路、宮城島萌、武田将典、生駒雅信 明治薬科大学 生体機能分析学研究室 月村孝宏、兔川忠靖 同 臨床遺伝学研究室 櫻庭均 脳神経疾患研究所 先端医療研究センター Mohammad Arif Hossain、衛藤義勝	Fabry Expert Meeting in Nagoya 2019	2019.7.9
5	活気不良で受診し高AMY血症を認めた1歳男児例(家族性膵炎)	○宮城島萌、鈴木大路、武田将典、生駒雅信、梶田光春	第66回豊田加茂小児科医会例会	2019.7.13
6	多飲、多尿、体重減少を認めた7歳男児の1例(中枢性尿崩症)	○鈴木大路、宮城島萌、武田将典、生駒雅信、梶田光春	第66回豊田加茂小児科医会例会	2019.7.13
7	急性弛緩性脊髄炎による左上肢麻痺に対して神経移行術を施行した一例	○西尾洋介、中田智彦、白木杏奈、鈴木健史、川口将宏、牧祐輝、田中雅大、坂口陽子、成田敦、山本啓之、城所博之、梶田光春、平田仁、高橋義行、夏目淳、名古屋大学小児科、豊田厚生病院小児科、名古屋大学手の外科	第51回日本小児神経学会東海地方会	2019.7.27
8	GH投与なしでGatch-up growthがみられたGH分泌不全症の女児例	○梶田光春、鈴木大路、宮城島萌、武田将典、生駒雅信	第68回成長ホルモン研究会	2019.10.5
9	軽微な高Ca血症で発見された原発性副甲状腺機能亢進症の13歳女児例	○梶田光春、鈴木大路、宮城島萌、武田将典、生駒雅信、額綱祐弥、大野伸晃	第24回東海小児内分泌研究会症例検討会	2019.11.2
10	日齢18に発熱がみられ川崎病が疑われた一例	○鈴木大路、生駒雅信、宮城島萌、武田将典、梶田光春	第277回日本小児科学会東海地方会	2019.11.17



No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
11	日常診療の中の先天代謝異常症	○梶田光春	瀬戸旭小児科医会研修集会	2019.12.14
12	首を振る6か月男児例	○梶田光春、鈴木大路、宮城島萌、高橋ゆま、武田将典、生駒雅信	令和元年度第2回三機関合同勉強会	2019.12.12
13	空嘔で紹介受診した4歳男児例（胃軸捻転）	○梶田光春、鈴木大路、宮城島萌、高橋ゆま、武田将典、生駒雅信	第67回豊田加茂小児科医会例会	2020. 2. 8
14	細気管支炎が疑われネーザルハイフローを使用するも改善が乏しかった生後3か月の一例（TAPVC）	○鈴木大路、生駒雅信、高橋ゆま、武田将典、梶田光春	第67回豊田加茂小児科医会例会	2020. 2. 8

講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演 者	主 催	年月日
1	豊田厚生病院看護技術研修会「アレルギーを持った小児への対応～エピペンの操作～」	中西久美子	豊田厚生病院	2019. 6. 5
2	アレルギーを持った小児への対応～エピペンの操作～（放課後児童クラブ指導員対象）	中西久美子	豊田厚生病院	2019. 6. 4
3	第14期アレルギー大学：医学-基礎	中西久美子	アレルギー支援ネットワーク	2019 .6. 1
4	第14期アレルギー大学：医学-基礎（魚國本社にて）	中西久美子	アレルギー支援ネットワーク	2019. 7. 6
5	アレルギー対応研修会：学校現場における食物アレルギーの知識と適切なアナフィラキシー対応について	中西久美子	豊田市教育委員会保健給食課	2019. 8. 8 2019. 8.22
8	園生活における食物アレルギーの対応について	中西久美子	豊田市子ども部保育課	2019. 7. 5

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏 名	学会・研究会名	年月日
1	座長	梶田光春	第66回豊田加茂小児科医会例会	2019. 7.13

11. 病理診断科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	SLEにて急激な経過をとって死亡した症例の中樞神経病理所見	○氏平伸子、水野伸宏、成田道彦、吉田眞理	第47回臨床神経病理懇話会	2019.11.23

12. 外科

著書・論文

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	Comparative study of open approach and laparoscopic surgery for emergent groin hernias	○Yasuhiro Kurumiya, Keisuke Mizuno, Ei Sekoguchi, Gen Sugawara	International Surgery Journal Vol 6, No 4(2019):1047-1050 April 2019

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
2	Pegfilgrastimの投与によりTAC6コースの術前化学療法を遂行し得た乳癌の1例	○久留宮康浩、坂本英至	癌と化学療法46巻7号 Page1179-1181, 2019
3	前治療が著効した浸潤性微小乳頭癌の2例	○久留宮康浩、丹羽多恵、世古口 英、 小林 聡、河合清貴、桐山宗泰	癌と化学療法46巻7号 Page1191-1194, 2019
4	刑務所受刑者における外科治療	○久留宮康浩、水野敬輔、世古口 英、 菅原 元、河合清貴、桐山宗泰	日本臨床外科学会雑誌 80巻4号 Page658-662, 2019.
5	腹腔鏡手術を行った遺残胆嚢内結石の2例	○久留宮康浩、水野敬輔、世古口 英、 菅原 元、河合清貴、桐山宗泰	日本臨床外科学会雑誌 80巻1号 Page133-139, 2019.
6	長期生存中の盲腸癌異時性孤立性脾転移の1切除例 大腸癌脾転移本邦報告75例の検討	○久留宮康浩、小林 聡、菅原 元	日本大腸肛門病学会雑誌 72巻5号 Page215-219, 2019.

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	ポリドカノールの気管内局注により治療した食道亜全摘術後胃管気管瘻の1例	○久留宮康浩、平松義規、岡阪敏樹、 世古口 英、菅原 元、河合清貴、 桐山宗泰、鳥居直矢、蟹江恭和、 渡邊裕樹	第73回日本食道学会	2019. 6. 7
2	再発症例に対するLSCと腸管の取り扱い方	○加藤健宏	第4回LSCビデオセミナー	2019. 6.29
3	膣体尾部切除後8年経過して残腔全摘を施行した膣管内乳頭粘液性膣癌の1例	○菅原 元	第50回日本膣臓学会大会	2019. 7.12
4	糖尿病併存胃癌患者における術後耐糖能の術式別の検討	○久留宮康浩、世古口 英、菅原 元、 井上昌也、加藤健宏、鳥居直矢、 蟹江恭和	第74回日本消化器外科学会	2019. 7.19
5	胆管十二指腸吻合後 31年経過して膣頭十二指腸切除を施行した十二指腸GISTの1例	○菅原 元、久留宮康浩	第55回日本胆道学会学術集会	2019.10. 4
6	消化器外科医が行う腹腔鏡下仙骨固定術	○加藤健宏、小林 聡	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	2019.10.12
7	腹腔鏡下手術により修復した嵌頓Morgagni孔ヘルニアの1例	○曾我宜弘、久留宮康浩、水野敬輔、 世古口 英、菅原 元、井上昌也、 加藤健宏、秋田直宏、鳥居直矢、 蟹江恭和、佐久間政宜、関本晃裕、 竹内健司、緒方諒仁、長田祥子	第298回東海外科学会	2019.10.13
8	保存的に治療した門脈ガス血症の3例	○蟹江恭和、久留宮康浩、菅原 元	第11回日本Acute Care Surgery学会	2019.10.25
9	妊婦に対しAcute Care Surgeryを施行した2例の検討	○菅原 元、蟹江恭和、久留宮康浩	第11回日本Acute Care Surgery学会	2019.10.25
10	高度な腹部大動脈石灰化に対し、血栓内膜切除術を施行した1例	○天野広奈、秋田直宏、水野敬輔	第81回日本臨床外科学会総会	2019.11.14
11	Coral Reef Aortaに対し血管内治療を施行した1例	○大澤拓哉、秋田直宏、水野敬輔	第81回日本臨床外科学会総会	2019.11.14



No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
12	成人毛髪胃石の一例	○鳥居直矢、久留宮康浩、世古口 英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、蟹江恭和、佐久間政宜、関本晃裕、竹内健司、緒方諒仁、長田祥子	第81回日本臨床外科学会総会	2019.11.14
13	胸骨部分切除により食道亜全摘胸骨後胃管再建後の胃管狭窄を解除した一例	○竹内健司、河合清貴、久留宮康浩、世古口 英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、鳥居直宏、蟹江恭和、佐久間政宜、関本晃裕、緒方諒仁、長田祥子	第81回日本臨床外科学会総会	2019.11.14
14	大腸癌原発部位、右側左側からみた肝転移切除例の臨床病理学的検討	○久留宮康浩、世古口 英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、鳥居直矢、蟹江恭和	第81回日本臨床外科学会総会	2019.11.15
15	GISTに対し腹腔鏡下噴門側胃小範囲切除、食道残胃吻合（SOFY法）を施行した一例	○世古口 英、久留宮康浩、井上昌也、加藤健宏、鳥居直矢、蟹江恭和	第32回日本内視鏡外科学会	2019.12. 5
16	当院における緊急胆嚢摘出術の検討	○蟹江恭和、久留宮康浩、世古口 英、井上昌也、加藤健宏	第32回日本内視鏡外科学会総会	2019.12. 5
17	腹腔鏡下脾部分切除で確定診断した悪性リンパ腫の一例	○久留宮康浩、世古口 英、井上昌也、加藤健宏、鳥居直矢、蟹江恭和	第32回日本内視鏡外科学会総会	2019.12. 6
18	幽門輪温存十二指腸切除術10年後に小腸結腸瘻をきたした一例	○浜辺健太、久留宮康浩、水野敬輔、世古口 英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、鳥居直矢、蟹江恭和、佐久間政宜、稲田亘佑、竹内健司、緒方諒仁、長田祥子、天野広菜、石谷紗希、大澤拓哉、曾我宜弘	第53回愛知臨床外科学会	2020. 2.11
19	Pseudo-Meigs症候群を来した直腸癌異時性卵巣転移の一例	○石谷紗希、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、蟹江恭和、佐久間政宜、稲田亘佑、竹内健司、緒方諒仁、長田祥子	第53回愛知臨床外科学会	2020. 2.11
20	多臓器不全を呈し治療に難渋した軽鎖沈着症の一例	○岩田恵輔、原田靖彦、鈴木奈瑠子、平賀潤二、鏡味良豊	日本内科学会東海支部主催第240回東海地方会	2020. 2.16

13. 呼吸器外科

著書・論文

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	神経線維腫症1型に合併した肋間動脈瘤破裂による血胸の一例	○渡邊裕樹、岡阪敏樹、平松義規	日本呼吸器外科学会雑誌 第33巻2号200-205頁

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	出産後に再発・増悪を認め手術を施行した月経随伴性気胸の一例	○渡邊裕樹、岡阪敏樹、平松義規	第36回日本呼吸器外科学会	2019. 5.17
2	非少細胞肺癌術後再発における免疫チェックポイント阻害薬の検討	○平松義規、岡阪敏樹、渡邊裕樹、今村由人	第60回日本肺癌学会学術大会	2019.12. 6

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
3	腎癌術後20年目に発見され原発性肺癌・非結核性抗酸菌感染症との鑑別困難であった胃癌肺転移の1手術例	○渡邊裕樹、岡阪敏樹、平松義規	第60回日本肺癌学会学術大会	2019.12. 8

14. 心臓外科

著書・論文

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	Effect of an artificial ring on mitral valve function	Yokote J, Araki Y*, Saito S, Hasegawa H, Usui A	Nagoya Journal of Medical Science 81. 207-215, 2019.
2	Extreme elevation of the Prothrombin time-international normalized ratio due to a probable interaction between Warfarin and Flutamide.	Konishi Y, Terada T, Araki Y, Kawaguchi O	Internal Medicine. doi: 10.2169,2973-19,2019

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	全内臓逆位、鏡像型右胸心に対するoff-pump冠動脈バイパス術の経験	○寺田貴史、荒木善盛、小林明裕、川口 鎮	第62回関西胸部外科学会学術集会	2019. 6.13
2	心タンポナーデを呈した心臓血管肉腫に対して手術を施行した1例	○小林明裕、荒木善盛、寺田貴史、川口 鎮	第62回関西胸部外科学会学術集会	2019. 6.14
3	慢性期心室中隔穿孔に対する右室切開アプローチの妥当性	○荒木善盛、寺田貴史、小林明裕、川口 鎮	第24回日本冠動脈外科学会学術集会	2019. 7.11
4	肺高血圧を伴う僧帽弁閉鎖不全症に対して術後人工心肺離脱困難となり、PCPS・NO療法を要した1例	○小林明裕、荒木善盛、寺田貴史、川口 鎮	第111回東海心臓外科懇話会	2019. 8.31
5	肺高血圧を伴う僧帽弁閉鎖不全症に対して術後人工心肺離脱困難となり、PCPS・NO療法を要した1例	○小林明裕、荒木善盛、寺田貴史、川口 鎮	日本循環器学会第154回東海・第139回北陸合同地方会	2019.10.19
6	慢性心房細動に対するCryo-Maze手術の成績と再発例へのカテーテルアプローチ所見	○寺田貴史、荒木善盛、小林明裕、川口 鎮	第72回日本胸部外科学会定期学術集会	2019.11. 1
7	狭小弁輪に対する外巻き生体弁CROWN19mmの妥当性	○荒木善盛、寺田貴史、小林明裕、川口 鎮	第72回日本胸部外科学会定期学術集会	2019.11. 2

15. 泌尿器科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	ミトコンドリア抗酸化防御遺伝子Nntによる腎シュウ酸カルシウム結晶形性と活性酸素種（ROS）への影響について	○宇佐美雅之、岡田朋記、田中勇太郎、杉野輝明、海野 怜、藤井泰普、伊藤靖彦、田口和己、濱本周造、安藤亮介、岡田淳志、郡健二郎、安井孝周	第107回日本泌尿器科学科総会	2019. 4.19
2	術後腸閉塞と放射線治療後出血性膀胱炎に対する高気圧酸素治療の検討	○金本一洋、海野奈央子、山田健司、橋本良博、岩瀬 豊、安井孝周	第107回日本泌尿器科学会総会	2019. 4.20
3	当院における敗血症性DICを合併した結石性腎盂腎炎の治療成績	○橋本良博	第66回日本化学療法学会東日本支部総会	2019.10.18



16. 眼科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	滲出性加齢黄斑変性に対して、抗VEGF硝子体内注射を行っている患者への白内障手術の影響について	○大林知広、安川 力、小椋祐一郎	The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO2019)	2019.4.28

講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演 者	主 催	年月日
1	第1回愛知県糖尿病看護研究会 糖尿病網膜症を知ろう	山田麻里	愛知糖尿病看護研究会	2019. 6.23

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏 名	学会・研究会名	年月日
1	座長	山田麻里	第2回 糖尿病と網膜症 予防のための連携会	2019. 6.29

17. 耳鼻咽喉科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	慢性副鼻腔炎に対する手術と術前術後治療～炎症とアレルギーのコントロール～	○欄真一郎	第7回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会	2019. 9. 6
2	再発耳下腺低分化癌に対するNivolumabの使用経験	○欄真一郎、竹内絵里香	第32回口腔咽頭科学会	2019. 9.13
3	重症ハント症候群患者の顔面神経腫脹と造影MRI	○南方寿哉、稲垣 彰、関谷真二、村上信五	第29回日本耳科学会総会	2019.10.11

18. 麻酔科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	低カリウム性ミオパチーにより発見された原発性アルドステロン症の一例	○長橋 究、丹羽治男	第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会	2019. 5.19
2	巨大毛髪胃石症（Rapunzel症候群）の麻酔経験	○高原里奈、太田祐介、長橋 究、小島康裕、上原博和	日本麻酔科学会東海・北陸支部第17回学術大会	2019. 9. 7
3	緊急コールシステムの運用－三年間の検討－	○酒井博生、上原博和、小島康裕、太田祐介、長橋 究	日本麻酔科学会東海・北陸支部第17回学術大会	2019. 9. 7
4	誤嚥性肺炎による重度低酸素血症を伴う腸閉塞の緊急手術に対し意識下挿管を施行した一例	○長橋 究、高原里奈、酒井博生、伊藤雅人、上原博和	第17回日本麻酔科学会東海北陸支部学術大会	2019. 9. 7
5	へき地医療に麻酔を生かす	○長橋 究	第2回自治医科大学31期卒業生 地域医療研究会	2020. 1.25

19. 口腔外科

著書・論文

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	再発後に顕在化したG-CSF・PTHrP産生舌癌の1例	○兼子隆次、河合孝真、岡部一登	日本口腔腫瘍学雑誌 Vol.31 No.1:17-23 2019
2	免疫組織化学的検討により診断された上顎骨歯源正角化嚢胞の1例	○宇佐見一公、兼子隆次、河合孝真、岡部一登	有病者歯科医療 Vol.28 No.1:18-24 2019

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	糖尿病を合併する口腔癌患者の術後に半固形化低糖質経腸栄養剤を用いて血糖および栄養管理を行った2例	○兼子隆次、河合孝真、宇佐見一公、岡部一登、日比英晴	第73回日本口腔科学会総会	2019. 4.21
2	口腔癌患者の術後に半固形化経腸栄養剤を用いた栄養療法の取り組み	○兼子隆次、河合孝真、澤木 廉、高田里奈	第62回日本口腔科学会中部地方部会	2019.10. 6
3	当科における口腔外科疾患に対するHBO（高気圧酸素療法）の有用性	○兼子隆次、河合孝真、澤木 廉、高田里奈	第65回日本口腔外科学会総会	2019.10.25
4	入院管理に難渋した認知症を併発する高齢の下顎歯肉癌患者の一例	○河合孝真、兼子隆次、澤木 蓮、高田里奈	第64回日本口腔外科学会総会・学術大会	2019.10.27
5	口腔癌術後に併発した顎欠損を骨延長とインプラントにて再建した長期観察例	○兼子隆次、澤木 廉、河合孝真	第23回日本顎顔面インプラント学会総会	2019.11.30
6	終末期口腔がん患者に対する緩和ケアの取り組み	○兼子隆次、河合孝真、澤木 廉	第38回日本口腔腫瘍学会	2020. 1.23

20. 整形外科

著書・論文

No.	演題名	発表者及び協同研究者	書名・雑誌名
1	Concomitant methotrexate has little effect on clinical outcomes of abatacept in rheumatoid arthritis: a propensity score matching analysis	Nobunori Takahashi, Toshihisa Kojima, Daihei Kida, Atsushi Kaneko, Yuji Hirano, Takayoshi Fujibayashi, Yuichiro Yabe, Hideki Takagi, Takeshi Oguchi, Masahiro Hanabayashi, Takefumi Kato, Koji Funahashi, Masatoshi Hayashi, Seiji Tsuboi, Yasuhide Kanayama, Yasumori Sobue, Nobuyuki Asai, Takuya Matsumoto, Tatsuo Watanabe, Shuji Asai and Naoki Ishiguro	Clin Rheumatol. 2019 Sep;38(9): 2451-2459
2	Association between seropositivity and discontinuation of tumor necrosis factor inhibitors due to ineffectiveness in rheumatoid arthritis	Yoshikazu Ogawa, Nobunori Takahashi, Atsushi Kaneko, Yuji Hirano, Yasuhide Kanayama, Yuichiro Yabe, Takeshi Oguchi, Takayoshi Fujibayashi, Hideki Takagi, Masahiro Hanabayashi, Koji Funahashi, Masatoshi Hayashi, Seiji Tsuboi, Shuji Asai, Nobuyuki Asai, Takuya Matsumoto, Yasumori Sobue, Naoki Ishiguro and Toshihisa Kojima	Clin Rheumatol. 2019 Oct;38(10): 2757-2763



No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	書名・雑誌名
3	Clinical effectiveness and long-term retention of abatacept in elderly rheumatoid arthritis patients: Results from a multicenter registry system	Nobunori Takahashi, Toshihisa Kojima, Daihei Kida, Atsushi Kaneko, Yuji Hirano, Takayoshi Fujibayashi, Yuichiro Yabe, Hideki Takagi, Takeshi Oguchi, Masahiro Hanabayashi, Takefumi Kato, Koji Funahashi, Masatoshi Hayashi, Seiji Tsuboi, Yasuhide Kanayama, Yasumori Sobue, Nobuyuki Asai, Takuya Matsumoto, Tatsuo Watanabe, Shuji Asai and Naoki Ishiguro	Mod Rheumatol. 2019 Nov;29(6): 910-918
4	Predictors of denosumab efficacy in treating osteoporosis in patients with rheumatoid arthritis: a Japanese multicenter study	Kyosuke Hattori, Yuji Hirano, Yasuhide Kanayama, Nobunori Takahashi, Naoki Ishiguro and Toshihisa Kojima	Nagoya J Med Sci. 2019 Nov;81(4): 571-585
5	大腿骨頭骨折に対して骨接合術を施行した3例	○足立 維、金山康秀、稲垣弘進 辻 太一、二村尚久、村田盛朗	骨折 第41巻No.4 2019
6	MTXにて低疾患活動性を示すも関節破壊が進行しイグマチモド追加により臨床的寛解および骨びらの修復を得た1例	○等々力一徳、金山康秀、長坂日登美	中部リウマチ 第49号1号 8-10, 2019
7	デノスマブによる骨粗鬆症を合併した関節リウマチ患者の治療に対するステロイドの影響～多施設登録研究（TBCR-BONE）よりステロイド併用例と非併用例における36カ月投与例の比較検討～	○金山康秀、平野裕司、高橋伸典、石黒直樹、小嶋俊久	The Journal of Japan Osteoporosis Society Vol.5 No.4 597-604, 2019
8	骨粗鬆症治療薬の初回投与におけるエルデカルシトールの治療成績	○杉本遼介、金山康秀	中部日本整形外科 災害外科学会雑誌 62(5), 845-846, 2019
9	当科における骨粗鬆症に対するデノスマブの治療成績～24ヶ月経過例の検討～	○金山康秀、杉本遼介	中部日本整形外科 災害外科学会雑誌 62(5), 847-848, 2019
10	関節リウマチにおける血清25(OH)ビタミン濃度について	○杉本遼介、金山康秀	中部リウマチ 第49号2号 29-30, 2019
11	舟状骨偽関節の術前MRI画像と治療成績	○稲垣弘進	日本手外科学会雑誌 第36巻3号 286-289頁
12	橈骨遠位端骨折術後に示指深指屈筋腱断裂を来した一例	○館 寛人、稲垣弘進、金山康秀、長田直祥	中部日本整形外科 災害外科学会雑誌 62(2), 311-312, 2019
13	尺度茎状突起衝突症候群の4例	○増田高将、稲垣弘進、佐伯岳紀	日本手外科学会雑誌 第35巻6号 1296-1299頁
14	Dupuytren拘縮に対するCollagenase注射療法について	○稲垣弘進	日本手外科学会誌 第35巻6号 1263-1267頁

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会・研究会名	年月日
1	骨粗鬆症治療薬の初回投与におけるエルデカルシトールの治療成績	○杉本遼介、金山康秀、稲垣弘進、辻 太一、二村尚久、長田直祥	第132回中部日本整形外科災害外科学会学術集会	2019. 4. 5
2	当科における骨粗鬆症に対するデノスマブの治療成績～24ヶ月経過例の検討～	○金山康秀、稲垣弘進、辻 太一、二村尚久、長田直祥、舘 寛人	第132回中部日本整形外科災害外科学会学術集会	2019. 4. 5
3	リウマチ患者における足趾関節エコー所見の検討	○永田篤志、金山康秀、長坂日登美	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会	2019. 4.15
4	当科におけるトシリズマブ、TNF製剤投与症例における関節エコー所見改善効果の検討	○金山康秀、永田篤志、長坂日登美	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会	2019. 4.15
5	セルトリズマブ投与後のフレアはセルトリズマブ特有の現象か？ －多施設研究登録症例(TBCR)よりアダリムマブ投与症例との比較検討～	○金山康秀、金子敦史、高橋伸典、加藤武史、平野裕司、服部陽介、浅井信之、藤林孝義、塩浦朋根、林 真利、高木英希、石黒直樹、小嶋俊久	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会	2019. 4.16
6	TocilizumabのRA頸椎病変進行抑制効果についての検討 －多施設研究登録症例(TBCR)におけるTCZ、MTX投与例との3年経過例における比較検討～	○金山康秀、小嶋俊久、平野裕司、矢部裕一朗、高橋伸典、大石幸由、石黒直樹	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会	2019. 4.16
7	TocilizumabのRA頸椎病変進行抑制効果について～TBCRにおけるTCZ、MTX投与例との比較検討～	○金山康秀、小嶋俊久、平野裕司、矢部裕一朗、高橋伸典、大石幸由、石黒直樹	第92回日本整形外科学会学術集会	2019. 5.11
8	Dupuytren拘縮に対するCollagenase注射療法の治療成績について	○稲垣弘進	第92回日本整形外科学会学術集会	2019. 5.12
9	トシリズマブ投与症例における関節エコー所見の検討	○金山康秀	第10回三河トシリズマブ研究会	2019. 5.25
10	Clinical efficacy of denosumabin patients with osteoporosis between rheumatoid arthritis and primary osteoporosis;24 months of follow-up	○Yasuhide Kanayama, Taichi Tsuji, Naohisa Futamura, Kyotaro Ota, Naoaki Osada, Yui Adachi, Hiroto Tachi, Kazunori Todoroki and Ryosuke Sugimoto	第20回欧州リウマチ学会 (EULAR)	2019. 6.14
11	Efficacy of tocilizumab for suppressing radiographic progression of cervical lesions in patients with rheumatoid arthritis comparison with methotrexate ; three years of follow up ~a multicenter registry study~	○Yasuhide Kanayama, Toshihisa Kojima, Yuji Hiran, Yuicbiro Yabe, Nobunori Takahashi, Yukiyoishi Oishi and Naoki Ishiguro	第20回欧州リウマチ学会 (EULAR)	2019. 6.15
12	橈骨遠位端関節内骨折に対する橈骨月状骨間固定術の4症例	○等々力一徳、足立 維、舘 寛人	第45回骨折治療学会	2019. 6.28
13	陈旧性骨性マレット指に対するPull out suture 法7例の治療経験	○舘 寛人	第45回骨折治療学会	2019. 6.28
14	イベニティ投与を避けたほうが良い患者像とは	○金山康秀	Osteoporosis Tokai Symposium (パネリスト)	2019.7 .27



No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会・研究会名	年月日
15	Clinical efficacy of denosumab comparison with either active vitamin D or native vitamin D on osteoporosis in patients with Japanese rheumatoid arthritis	○Yasuhide Kanayama, Hiroto Tachi, Hironobu Inagaki, Taichi Tsuji, Naohisa Futamura, Kyotaro Ota, Yui Adachi, Kazunori Todoroki and Ryosuke Sugimoto	第41回米国骨代謝学会 (ASBMR)	2019. 9.22
16	Clinical efficacy of denosumab in patients with osteoporosis between rheumatoid arthritis and primary osteoporosis;12 months of follow-up	○Hiroto Tachi, Yasuhide Kanayama, Hironobu Inagaki, Taichi Tsuji, Naohisa Futamura, Kyotaro Ota, Yui Adachi, Kazunori Todoroki and Ryosuke Sugimoto	第41回米国骨代謝学会 (ASBMR)	2019. 9.22
17	関節リウマチにおける血清25(OH)ビタミン濃度について	○杉本遼介、金山康秀	第31回中部リウマチ学会	2019. 9.27
18	関節リウマチにおける血清25(OH)ビタミン濃度について	○寺澤 慧	第12回三河骨粗鬆症研究会	2019.11. 9
19	腰仙椎固定を含む多椎間固定術におけるPJKの検討	○大田恭太郎、長田直祥、舘 寛人、辻 太一	日本脊椎インストゥルメンテーション学会	2019.11.15
20	骨粗鬆症治療の初回投与におけるビスホスホネート製剤の単剤投与とエルデカルシトールとの併用投与の治療成績の比較	○杉本遼介、金山康秀	第47回日本関節病学会	2019.11.21
21	原発性骨粗鬆症患者に対するロモソズマブ投与早期の骨代謝マーカー、補正カルシウム値の変化について	○金山康秀、杉本遼介	第47回日本関節病学会	2019.11.21
22	当科におけるイグラチモド投与症例の関節エコー所見改善効果について～52週経過例の検討～	○金山康秀、永田篤志、下竹美由紀、宮地文子、藤田啓介	第34回日本臨床リウマチ学会	2019.11.30
23	RA骨粗鬆症患者に対するロモソズマブ投与早期の骨代謝マーカー、補正カルシウム値の変化について	○金山康秀、杉本遼介	第34回日本臨床リウマチ学会	2019.12. 1
24	自験例から見るPeficitinibへの期待	○金山康秀	第6回三河関節エコー研究会	2019.12.14
25	特発性側彎症Lenke5（胸腰椎／腰椎カーブ）に対する前方矯正固定から後方矯正固定への変更－その理由－	○辻 太一、大田恭太郎	第6回JALAS	2020. 1.15

講演会等講師

No.	講演会名及び演題	演 者	主催	年月日
1	RA治療におけるBaricitinibの臨床的意義～関節エコー評価を含めて～	○金山康秀	Lilly RA Web conference	2019. 5.29
2	関節リウマチ診療における最新の薬物治療について	○金山康秀	静岡市薬剤師共催リウマチ学術講演会	2019. 6. 5
3	TBCR-plusからイグラチモド投与症例の臨床効果について～自験例における関節エコー改善効果を含めて～	○金山康秀	イグラチモドを語る会	2019. 6. 8

No.	講演会名及び演題	演 者	主催	年月日
4	関節リウマチ診療における頸椎病変の評価とマネジメントについて～生物学的製剤のRA 頸椎病変進行抑制効果を含めて～	○金山康秀	第26回田園都市フォーラム	2019. 6.26
5	関節リウマチ治療におけるDMARDsの使い方 RA治療における経口抗リウマチ薬の役割とイ グラチモドの位置づけ	○金山康秀	豊田加茂整形外科医会学術講演会	2019. 6.27
6	関節リウマチ診療における画像評価のポイント	○金山康秀	旭化成ファーマ株式会社 社内講 演会	2019. 7.11
7	骨粗鬆症治療の新時代～ロモソズマブの位置付 け～	○金山康秀	尾北整形外科連携懇話会	2019. 7.13
8	RA治療における経口抗リウマチ薬の役割とイ グラチモドの位置づけ－他施設コホート研究よ り－	○金山康秀	第32回日本臨床整形外科学会学術 集会（ランチョンセミナー）	2019. 7.14
9	関節エコーの有用性と当院での使用状況につ いて	○金山康秀	第5回豊田関節エコー研修会	2019. 7.21
10	関節リウマチの最新治療戦略	○金山康秀	帝人ファーマ(株)岡崎営業所 社内 研修会	2019. 7.24
11	変形性手関節症の診断と治療の実際	○稲垣弘進	豊田加茂整形外科医会夏の勉強会 （日本臓器製薬共催）	2019. 7.25
12	関節リウマチに併発する骨粗鬆症について	○金山康秀	TOYOTA JAK FORUM	2019. 8.24
13	関節リウマチ診療における関節エコーの臨床的 意義と活用術について	○金山康秀	第45回日本整形外科学会スポーツ医学 会・モーニングセミナー1	2019. 8.31
14	自施設治験症例から見るPeficitinibへの期待	○金山康秀	Smyraf Tokai Symposium	2019. 8.31
15	関節エコー評価におけるオルミエントの特徴	○金山康秀	Lilly RA Web Conference	2019. 9. 4
16	実臨床においてどのようにセルトリズマブペゴ ルの特徴を活かすか～TBCRデータから読み解 く戦略的RA治療～	○金山康秀	中濃リウマチ講演会	2019. 9.14
17	エコーの観点から考えるバリシチニブの可能性	○金山康秀	第3回静岡リウマチ治療を考える 会	2019.11.6
18	骨粗鬆症紹介外来の現状と地域連携	○金山康秀	豊田加茂骨粗鬆症学術講演会	2020. 1.29
19	実臨床におけるロモソズマブの適正使用と二次 骨折予防の重要性	○金山康秀	西尾張大腿骨近位部骨折医療連携 を考える会～骨粗鬆症治療のパラ ダイムシフト～	2020. 2. 1
20	臨床試験から見るスマイラフへの期待	○金山康秀	スマイラフWEBシンポジウム	2020. 2. 6
21	RA治療における画像評価の検討	○金山康秀	第9回整形外科アクティブカン ファレンス	2020. 2. 8
22	これからの関節リウマチ診療におけるJAK阻害 薬の位置づけについて	○金山康秀	アッヴィ合同株式会社 社内研修 会	2020. 2.12
23	関節リウマチに併発する骨粗鬆症に対する治療 戦略	○金山康秀	宮崎臨床リウマチカンファレンス	2020. 2.26

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
1	座長	金山康秀	JAK Expert Meeting	2019. 4.10
2	座長	金山康秀	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会 ワークショップ66 結晶誘発性関節炎・痛風	2019. 4.17
3	座長	金山康秀	三河脊椎関節炎フォーラム2019	2019. 4.20
4	座長	金山康秀	Rheumatologist PsA Seminar in MIKAWA	2019. 4.24
5	座長	金山康秀	第2回RA-BETTRE研究会	2019. 5.23
6	座長	金山康秀	第10回三河トシリズマブ研究会	2019. 5.25
7	座長	金山康秀	豊田加茂整形外科医会学術講演会	2019. 6.20
8	司会	金山康秀	Biologics Users' Forum 2019	2019. 6.22
9	司会	金山康秀	The Consortium RA-Integrity Forum 2019	2019. 6.29-30
10	座長	金山康秀	Pain Forum on Web	2019. 7.12
11	司会	金山康秀	第5回豊田関節エコー研修会	2019. 7.21
12	座長	金山康秀	TOYOTA JAK FORUM	2019. 8.24
13	座長	金山康秀	第25回西三河リウマチ研究会	2019. 9. 7
14	座長	金山康秀	第7回愛知DMARDs研究会	2019.10.19
15	座長・司会	金山康秀	ABatacept Communication Orthopedics Meeting in MIKAWA	2019.10.24
16	座長	金山康秀	第12回三河骨粗鬆症研究会	2019.11. 9
17	座長	金山康秀	RA Seminar in Toyota	2019.11.27
18	座長	金山康秀	第34回日本臨床リウマチ学会 一般演題32	2019.12. 1
19	座長	金山康秀	豊田地区 関節症乾癬クロストークセミナー～皮膚科 とリウマチ科の医療連携を考える～	2019.12. 5
20	座長	金山康秀	第6回三河関節エコー研究会	2019.12.14
21	座長	金山康秀	TOKAI Careram Internet Seminar	2020. 1.16
22	座長	金山康秀	豊田加茂骨粗鬆症学術講演会	2020. 1.29
23	座長	金山康秀	東海・北陸地区リウマチの治療とケア教育研修会 関 節リウマチに求められるチーム医療	2020. 2. 2

21. 形成外科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	鼻翼全層欠損における耳甲介Composite gratと局所皮弁による再建の有用性	○水野玲子、川端明子、茂木公佑	第62回日本形成外科学 会総会学術集会	2019. 5.15
3	電撃症による頭蓋骨露出の一例	○茂木公佑、川端明子、水野玲子	第62回日本形成外科学 会総会学術集会	2019. 5.15

22. 産婦人科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	経膈分娩歴のない症例の全腹腔鏡下子宮全摘術（TLH）における子宮回収についての検討	○安井裕子、山中浩史、正木希世、山本靖子、新城加奈子、針山由美	第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2019. 9.12
2	経膈分娩歴のない症例の全腹腔鏡下子宮全摘術（TLH）における子宮回収についての検討	○安井裕子、山中浩史、正木希世、山本靖子、新城加奈子、針山由美	第20回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2019.10.26
3	当院における細径子宮鏡の導入	○山中浩史、神谷知都世、正木希世、安井裕子、山本靖子、新城加奈子、針山由美	第3回日本子宮鏡研究会学術講演会	2019.11. 9

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏 名	学会・研究会名	年月日
1	座長	針山由美	第20回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2019.10.26

23. 皮膚科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
3	1 肝細胞癌診断の契機となった汗孔角化症の1例	○加藤友久美、足立秀禎、鈴木伸吾、森田 清、芝原弘明	第290回日本皮膚科学会東海地方会	2019.12.15

講演会等講師

No.	講演会名及び演題	演 者	主催	年月日
1	名古屋大学医学部皮膚科講義「薬疹・薬物障害・蕁麻疹」	鈴木伸吾	名古屋大学医学部	2019. 9.11

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏 名	学会・研究会名	年月日
1	座長	足立秀禎	第289回日本皮膚科学会東海地方会	2019. 9. 1

24. 放射線技術科

著書・論文

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	CT領域における医療放射線の安全管理とグループ病院での被ばく管理の実践	○柴田英輝	月刊 新医療 No544 4月号
2	被ばく低減施設の取り組みとグループ病院での被ばく管理	○柴田英輝	月刊 INNERVISION 10月号

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	Iliac EVTにおいて、PCXMCを用いた患者被ばく線量の報告 ファントムの違いによるESDの評価	○村山和宏	KCJL2019	2019. 4.12



No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
2	当院血管撮影室の被ばく線量管理の現状報告	○黒瀬颯太、小林晋也、村山和宏、小澤 功	第41回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会	2019. 6. 1
3	次世代型逐次近似処理を用いた画像再構成法の特性に関する検討－軟部条件を対象とした評価－	○柴田英輝、巴山みえ、北岡まりな、鷲羽正悟、小寺直人、深田真司、浅田恭生、松原孝祐、武村哲浩、小澤 功	日本CT技術学会第7回学術大会 (JSCT2019)	2019. 6.22
4	CTC検査の読影補助の現状	○深田真司、小寺直人、柴田英輝、鷲羽正悟、阪口 明、北岡まりな、小林晋也、巴山みえ	第23回CTサミット	2019. 7.13
5	心臓CT検査における異なる算出方法によるSize-specific dose estimates (SSDE)と体格指標の関係について	○柴田英輝、深田真司、浅田恭生、松原孝祐、武村哲浩、小澤 功	第47回日本放射線技術学会秋季学術大会	2019.10.17
6	水晶体線量計DOSIRISを用いた水晶体被ばくの把握	○小林晋也、村山和宏、小澤 功	第68回日本農村医学会学術総会	2019.10.18
7	心房細動CryoABLにおいてPCXMCを用いた患者被ばく線量の報告	○村山和宏、小林晋也	CCT2019	2019.10.24
8	DOSIRISを用いた水晶体被ばくの把握～当院水晶体被ばく管理の方向性～	○小林晋也、村山和宏、小澤 功	CCT2019	2019.10.25
9	新人を教える立場の教育について	○深田真司	第12回中部放射線医療技術学術大会	2019.12. 1
10	小児CT検査における最適化に向けた線量調査	○安藤仁美、柴田英輝、深田真司、小澤 功	西三地区会 第2研修会	2019.12.11

講演会等講師

No.	講演会名及び演題	演 者	主催	年月日
1	第23回CTサミット「被ばく低減施設の取り組みとグループ病院での被ばく管理」	柴田英輝	CTサミット	2019. 7.13
2	新採用者研修会	小澤 功	愛知県厚生連診療放射線技師会	2019. 8.17
3	2019教育訓練	柴田英輝	診療協同部放射線技術科	2019.11. 5
4	第4回Brilliant7パネルディスカッション「新人を教える立場の教育について」	深田真司	中部放射線技術学会	2019.11.30
5	第12回中部放射線医療技術学術大会(CCRT2019)「CT領域における被ばく管理について」	柴田英輝	日本放射線技術学会中部支部、日本診療放射線技師会	2019.12. 1
6	救急医療学実技講習「日本の救急医療体制と問題点」	深田真司	日本診療放射線技師会	2020. 2. 9
7	企業病院紹介セミナー「豊田厚生病院での役割と社会人大学院生について」	柴田英輝	藤田医科大学	2020. 2.21

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏 名	学会・研究会名	年月日
1	座長	村山和宏	CVIT 東海北陸地方会	2019.5.31~6.1
2	副実行委員長	深田真司	第23回CTサミット	2019. 7.13
3	座長	柴田英輝	第35回日本診療放射線技師学術大会 international session	2019. 9.14

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
4	座長	村山和宏	CVIT2019	2019.9.19-9.21
5	座長	柴田英輝	第28日本心血管インターベンショナル治療学CT口述セッション	2019. 9.20
6	座長	深田真司	西三技師会	2019.12. 8

25. 臨床検査技術科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	リウマチ患者における足趾関節エコー所見の検討	○永田篤志、長坂日登美、金山康秀	第63回日本リウマチ学会学術集会	2019. 4.15
2	当院におけるCDIの臨床的背景と重症度の検討	○加藤雄大、杉山裕衣、永田悠起、塩谷厚代、山田幸司、田中浩一、中根生弥	第68回日本医学検査学会	2019. 5.18
3	右鎖鎖骨窩皮下にて認めた分泌癌 (Secretory carcinoma) の一例	○宮島里枝、加納由美、鈴木康太、黒木雅子、田中浩一、氏平伸子、成田道彦	第60回日本臨床細胞学会総会	2019. 6. 7
4	当院における生理検査の現状と改善に向けた取り組み	○塩山綾乃、宇野志保、下竹美由紀、永田篤志、山田幸司、中根生弥	第19回愛知県医学検査学会	2019. 7. 7
5	パニック値報告から医師の患者対応までを含めた報告体制の構築	○伊藤彰洋、鈴木 梢、窄中美帆、松井貴弘、松岡友美子、青山敦子、高嶋幹代、中根生弥	第19回愛知県医学検査学会	2019. 7. 7
6	当院における病理診断結果の確認忘れ防止に向けた取り組み	○榊原達朗、加納由美、宮島里枝、鈴木康太、藤井優子、黒木雅子、田中浩一、中根生弥	第19回愛知県医学検査学会	2019. 7. 7
7	Prevalence Survey of Antimicrobial Resistance from 2014 to 2018 in the Toyota Area of Aichi Prefecture - How Can We Tackle the Antimicrobial Resistance? -	○Yuki Nagata, Koichi Tanaka, Ikuya Nakane	第57回大韓臨床病理士協会総合学術大会・国際カンファレンス	2019. 8.31
8	絶対に止めない検査室と臨床支援を目指して	○窄中美帆、鈴木 梢、松岡友美子、高嶋幹代、中根生弥	日本臨床検査自動化学会第51回大会	2019.10. 3
9	当院小児における血液培養陽性症例の後方視的検討	○加藤雄大、松本美咲、杉山裕衣、塩谷厚代、田中浩一、中根生弥	2019年度日臨技 中部圏支部医学検査学会	2019.10.12
10	若手技師主導型スキルアップ『寺子屋』の取り組み	○加藤雄大、赤羽舞花、藤上卓馬、松井貴弘、伊藤彰洋、窄中美帆、中根生弥	2019年度日臨技 中部圏支部医学検査学会	2019.10.12
11	ISO15189取得を見据えた病院機能評価への取り組み	○田中浩一、永田篤志、高嶋幹代、中根生弥	2019年度日臨技 中部圏支部医学検査学会	2019.10.12
12	当院小児における血液培養陽性症例の後方視的検討	○加藤雄大、松本美咲、杉山裕衣、塩谷厚代、田中浩一、中根生弥、梶田光春	第8回日本小児診療多職種研究会	2020. 2. 1
13	急激な経過をたどった高サイトカイン型インフルエンザ脳症の一例	○林 健太、高本智史、下竹美由紀、永田篤志、中根生弥、梶田光春	第8回日本小児診療多職種研究会	2020. 2. 1

講演会等講師

No.	講演会名及び演題	演 者	主催	年月日
1	グラム染色の実際 ～鏡検のポイントとピットフォール～	永田悠起	愛知県臨床検査技師会：微生物研究班 研究会	2019. 4. 6
2	当院における頸動脈超音波の評価法と報告書について	藤田啓介	第10回西三河超音波講習会	2019. 4.13
3	症例検討会（血小板編）症例2	藤上卓馬	愛知県臨床検査技師会：血液研究班 研究会	2019. 4.20
4	症例検討会（血小板編）症例3	酒巻尚子	愛知県臨床検査技師会：血液研究班 研究会	2019. 4.20
5	愛臨技と日臨技について	中根生弥	愛知県臨床検査技師会：フレッシュセミナー2019	2019. 4.21
6	医療法改正Q&A その1	中根生弥	愛知県臨床検査技師会：第1回医療法改正セミナー	2019. 5.26
7	愛臨技と日臨技について	中根生弥	愛知県臨床検査技師会：新人サポート研修	2019. 5.26
8	医療法改正Q&A その2	中根生弥	愛知県臨床検査技師会：第2回医療法改正セミナー	2019. 6.30
9	技師会が目指す臨床検査の認定資格	中根生弥	愛知県臨床検査技師会：第19回愛知県医学検査学会	2019. 7. 7
10	輸血機能評価認定（I & A）受審を経験して	木村有里	愛知県臨床検査技師会：第19回愛知県医学検査学会	2019. 7. 7
11	医療法改正Q&A その3	中根生弥	愛知県臨床検査技師会：第3回医療法改正セミナー	2019. 7.28
12	基礎講座のまとめ	永田悠起	愛知県臨床検査技師会：微生物研究班基礎講座	2019. 8. 4
13	感染症領域の遺伝子検査 ～市中病院編～	加藤雄大	愛知県臨床検査技師会：遺伝子・染色体検査研究班 研究会	2019. 9.14
14	医療法改正Q&A その4	中根生弥	愛知県臨床検査技師会：第4回医療法改正セミナー	2019. 9.29
15	「検査分析システム：cobas8000」導入効果	中根生弥	日本臨床検査自動化学会 第51回大会	2019.10. 3
16	「検査分析システム：cobas8000」導入効果	中根生弥	日臨技中部圏支部医学検査学会	2019.10.11
17	絶対に止めない検査室と臨床支援を目指して	中根生弥	日臨技中部圏支部医学検査学会	2019.10.12
18	次世代検査室の構築「ラボマネージャーの視点からみた導入ベネフィット」	中根生弥	ロシュセミナー2019	2019.11. 9
19	医療法改正Q&A その5	中根生弥	愛知県臨床検査技師会：第5回医療法改正セミナー	2019.11.24
20	Roche Automatic Experience in Toyota Kosei Hospital	中根生弥	Roche Efficiency Day (RED) 2019	2019.12. 7
21	肝臓	藤田啓介	愛知県臨床検査技師会：生理検査研究班基礎講座	2019.12. 8

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
1	座長	中根生弥	第68回 日本医学検査学会	2019. 5. 18
2	座長	窄中美帆	第19回愛知県医学検査学会	2019. 7. 7
3	座長	中根生弥	第3回 Roche Medical Science Day	2019. 7. 27
4	座長	鈴木康太	第17回 愛臨技スキルアップ講習会	2019. 8. 31
5	座長	中根生弥	日本臨床検査自動化学会 第51回大会	2019.10. 3
6	座長	鈴木康太	日臨技中部圏支部医学検査学会	2019.10.13
7	座長	中根生弥	第24回東海地区分析研修会	2019.11. 1
8	座長	中根生弥	第30回生物試料分析科学会年次学術集会	2020. 2. 1
9	司会	鈴木康太	愛知県臨床検査技師会 一般検査研究班 研究会	2020. 2. 8

26. リハビリテーション技術科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	肺癌術後に繰り返し気管支断端瘻を併発した低肺機能患者に対し、積極的なリハビリ介入が有効であった一例	○畑 康夫、平松義規	第6回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 東海地方学会	2019. 4. 6
2	当院におけるWallenberg症候群の嚥下障害症例11例の臨床的検討	○荻野周作、渡口賢隆、伊藤瑞規	第25回摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	2019. 9. 6
3	脳梗塞発症後に視覚失認と記憶障害を主とした多彩な高次脳機能障害を呈した一症例	○佐藤裕子	第53回日本作業療法学会	2019. 9. 6
4	緩和ケア病棟入院中の寝たきり末期がん患者に対し段階的離床を行い 結果一時自宅退院可能となりQOL向上に有効であった症例	○今村祐介	第29回愛知県理学療法学術大会	2020. 3. 29

講演会等講師

No.	講演会名及び演題	演者	主催	年月日
1	介助方法勉強会	佐藤太亮、濱井 均	公益社団法人 愛知県臨床検査技師会	2019. 4. 1
2	ボディメカニクスを活かした介助方法について	佐藤太亮、濱井 均 稲吉美枝	愛知県厚生連臨床検査技師会	2019. 6. 1
3	臨床に生きる！訪問リハビリ入門	中根裕基	一般社団法人 国際統合リハビリテーション協会	2019. 6. 29
4	健康寿命をのばそう 今日から始めるロコモ体操	足立大典 加古 覚	JA愛知厚生連豊田厚生病院	2019.10.27
5	健康寿命をのばそう 今日から始めるロコモ体操	足立大典	JA愛知厚生連豊田厚生病院	2019.11. 8



27. 臨床工学技術科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	LADの透亮像に対しOCTを施行し治療方針が大きく分かれた2例	○遠藤泉樹、中前健二、兵藤好行、沖島正幸、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷 亮太、太田委住、辻川圭亮、佐野公俊	第29回日本臨床工学会	2019. 5.18
2	一酸化窒素吸入療法の使用経験	○藤井夕貴、中前健二、兵頭好行、沖島正幸、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、酒出篤弥、辻川圭亮、西山和芳、太田委住、谷 亮太、遠藤泉樹、佐野公俊	第29回日本臨床工学会	2019. 5.18
3	当院における過去6年間の人工呼吸器稼働実績を基にした適正台数及び運用の検討	○中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷 亮太、太田委住、遠藤泉樹、佐野公俊	第29回日本臨床工学会	2019. 5.18
4	腹水濾過濃縮再静注法（CART）における穿刺固定の検討	○谷 亮太、中前健二、兵藤好行、沖島正幸、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮、佐野公俊、澤田知広	第64回日本透析医学会 学術集会・総会	2019. 6.28
5	アンケート調査に基づく東海・北陸地区における持続血液浄化療法の現状	○中前健二	第64回日本透析医学会	2019. 6.28
6	効率的な業務を目指して	○千々岩尚子、小金丸直美、中前健二、酒出篤弥、佐野公俊、倉田久嗣	第64回日本透析医学会 学術集会・総会	2019. 6.30
7	業務改善への取り組み	○酒出篤弥、中前健二、兵藤好行、沖島正幸、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、西山和芳、太田委住、谷 亮太、遠藤泉樹、辻川圭亮、佐野公俊、澤田知広	第64回日本透析医学会 学術集会・総会	2019. 6.30
8	ヘパフィールドシリンジ採用による業務合理化への取り組み	○佐野公俊、中前健二、酒出篤弥、小金丸直美、千々岩尚子	第64回日本透析医学会 学術集会・総会	2019. 6.30
9	拡張期電位をTurbo Mapを用いて検討した一例	○辻川圭亮、金子慎二、藤田雅也	第66回日本不正脈心電 学会学術大会	2019. 7.25
10	“危機的状況下支援”における愛知厚生連臨床工学技術科の取り組み	○中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷 亮太、太田委住、遠藤泉樹、佐野公俊	第68回日本農村医学会	2019.10.18
11	血液浄化センターにおける業務改善の取り組み	○酒出篤弥、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、西山和芳、谷 亮太、太田委住、遠藤泉樹、佐野公俊	第68回日本農村医学会	2019.10.18
12	危機的状況下支援における豊田厚生病院から足助病院への取り組み	○谷 亮太、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、太田委住、遠藤泉樹、佐野公俊	第68回日本農村医学会	2019.10.18

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
13	Biatrial Tachycardiaにて難渋した一例	○辻川圭亮、金子慎二、藤田雅也	カテーテルアブレーション関連秋季大会 2019	2019.11. 8
14	施設紹介	○沖島正幸、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷 亮太、太田委住、遠藤泉樹、佐野公俊	第20回中部臨床工学会	2019.11.10

講演会等講師

No.	講演会名及び演題	演 者	主催	年月日
1	教育講演血液浄化療法に必要な基礎知識	中前健二	愛知厚生連臨床工学技士会	2019. 6. 1
2	腹水濾過再静注法の基本的知識 “そんな事とはつゆ知らず”	中前健二	カネカメデックス(株)名古屋支店	2019.12. 6
3	腹水濾過再静注法における回収率	谷 良太	カネカメデックス(株)名古屋支店	2019.12. 6

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏 名	学会・研究会名	年月日
1	司会	中前健二	第14回CHDF技術研究会 学術大会	2019. 8.31
2	座長	中前健二	第30回日本急性血液浄化学会	2019.10.27
3	座長	辻川圭亮	CCT2019	2019.10.25

28. 栄養科

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	糖尿病性腎症の予防と治療 療養指導の取り組みについて	脇阪涼子	第70回愛知県糖尿病療養指導研究会	2019. 6.23

29. 薬剤部

著書・論文

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	Evidence Update 2020 慢性腎臓病治療薬	○鈴木大介	薬局 2020 Vol.71 No.1 p78-81
2	カバジタキセル療法を受ける前立腺がん患者におけるペグフィルグラスチムの費用対効果	○近藤 有、榊原崇芳、古田美里、平岩いづみ、加藤 潤、加藤亜季、平岩あずさ	日本病院薬剤師会雑誌 2020年56巻1号、71-78
3	ラムシルマブによる蛋白尿のリスク因子の探索	佐久間晶基、近藤 有、一木万奈美、杉本智哉、高橋智洋、荒川裕貴、牛腸沙織、間瀬広樹、宮崎雅之、佐藤由美子、築山郁人、久田達也、板倉由縁	日本病院薬剤師会雑誌 2020年56巻1号、191-197



学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	当院での救急外来における低血糖症例の患者背景に関する検討	○松田詩乃、加藤大也、澤井喜邦、三宅芳男	第62回日本糖尿病学年次学術集会	2019. 5.24
2	ゾレドロン酸抵抗性の高カルシウム血症に対しデノスマブが奏効した一例	○近藤 有、村松雅人、林 雅、安居 円、横山尚美、田中沙耶、植松夏子、三宅芳男	第24回日本緩和医療学会学術大会	2019. 6.21
3	Cost-effectiveness of pegfilgrastim in prostate cancer patients receiving cabazitaxel	○近藤 有、榊原崇芳、古田美里、平岩いずみ、加藤 潤、加藤亜季、三宅芳男	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会	2019. 7.18
4	大腿骨近位部骨折患者の骨粗鬆症治療薬使用率およびその動向に関する調査	○下野大貴、近藤 有、金山康秀、三宅芳男	第21回日本骨粗鬆症学会	2019.10.12
5	豊田厚生病院で実施している臨床研究の現状調査～倫理審査委員会事務局の立場から～	○近藤 有、三宅芳男	第68回日本農村医学会学術総会	2019.10.17
6	抗菌薬ラウンド運用変更に伴う効果	○酒井幹康、岩瀬 豊、渡口賢隆、駒井博子、永田悠起、三宅芳男	第68回日本農村医学会学術総会	2019.10.18
7	nivolumab,ipilimumab併用療法後に好中球減少が発現した一症例	○加藤 潤、橋本良博、佐々木英雄、三宅芳男	第29回日本医療薬学会年会	2019.11. 2
8	感染症専門医不在の施設におけるCandida血症に対するAntifungal stewardship の効果－単施設における後方視研究－	○酒井幹康、岩瀬 豊、渡口賢隆、駒井博子、永田悠起、三宅芳男	第29回日本医療薬学会年会	2019.11. 2
9	免疫チェックポイント阻害薬投与による間質性肺炎発現状況に関する調査	○平岩いずみ、三宅芳男、佐々木英雄、間瀬 悟、近藤 有	第29回日本医療薬学会年会	2019.11. 3
10	Extended-spectrum β -lactamase産生菌による腎盂腎炎に対するCefmetazoleの有効性に関する検討	○大岩由香里、三宅芳男、酒井幹康、渡口賢隆	第29回日本医療薬学会年会	2019.11. 3
11	CKD患者の多剤併用療法に介入する秘訣	○鈴木大介	第29回日本医療薬学会年会	2019.11. 3
12	入退院支援センターにおける薬剤師の取り組みと課題について	○植松夏子、桜井美咲子、加藤 潤、近藤 有、戸田州俊、間瀬 悟、井上 健、三宅芳男	第29回日本医療薬学会年会	2019.11. 3
13	免疫グロブリン製剤によってHBVスクリーニング検査が偽陽性となった一症例	○間瀬 悟、平岩いずみ、加藤 潤、古田美里、榊原崇芳、近藤 有、佐々木英雄、三宅芳男	第29回日本医療薬学会年会	2019.11. 4
14	スキルアップセミナー 腎性貧血治療薬入門講座	○鈴木大介	第13回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会	2019.11.16
15	大腿骨近位部骨折治療後の骨粗鬆症治療薬使用に関する調査	○下野大貴	令和元年度第2回愛知県厚生連薬剤師会相互啓発研修会	2019.11.16

30. 看護部

著書・論文

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名
1	輸血の取り扱い・挿管介助	○藤本 歩	手術看護エキスパート 3, 4月号
2	災害急性期から亜急性期における高齢者のニーズに関する支援看護師の認識	○二本千春	日本災害看護学会誌 Vol.21 No.2 2019 29~40頁
3	トリアージの位置付けと運営	○吉田栄里	トリアージナースガイドブック2020 第1版第1刷発行 38頁~40頁

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	Rapid Response System 構築へ向けての取り組み	○溝渕智恵、吉田栄里、畑田 剛、 勝野知子、杉浦 薫、小林修一	第22回日本救急医学会 中部地方会総会・学術 集会	2019.11.23
2	当院における自己血輸血看護師の役割を医療の質から考える	○小見山貴代美、辻 太一、 木村有里	第33回日本自己血輸 血・周術期輸血学会学 術総会	2020 3.13~14

31. 感染制御部

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	感染対策研修の参加率100%を目指した取り組み -手指衛生に関する15分間研修を導入して-	○駒井博子、横山浩子、渡口賢隆、 酒井幹康、永田悠起、紀藤祥仁、 岩瀬 豊	第68回日本農村医学会 学術総会	2019.10.17

32. 事務部

学会・研究会

No.	演 題 名	発表者及び協同研究者	学会名または雑誌名	年月日
1	病院のブランディングに向けた取り組み	○大橋朋恵、近藤良夫、浅岡一公、 長谷川雅敏、大藪宏樹、熊澤喬士、 目谷怜士	第69回日本病院学会	2019. 8. 2
2	自動洗浄装置更新と併せたガーグルベースン・吸口付カップのディスポ化による費用削減について	○濱田秀哉、大藪宏樹、加藤信也、 近藤良夫、勝野知子、畠中京子、 中村治彦	第69回日本病院学会	2019. 8. 2



2. 院内研修活動

1. 全体講演会・全体発表会

No.	題名	講師	主催部署・主催委員会	開催日
1	2019年度臨床研究セミナー 「人を対象とする医学系研究を実施するために」	株式会社CTD 代表取締役社長 小林史明 氏	治験倫理審査委員会	2019. 6.12
2	千葉大学 井上教授 講演会 「DPCデータから見える現状と課題」	千葉大学医学部附属病院 副院長 病院経営管理学研究センター長 井上貴裕 氏	幹部会議	2019. 6.28
3	第29回医療安全対策委員会全体講演会 「診療録・看護記録の重要性」	SOMPOリスクマネジメント株式会社 医療介護コンサルティング部 星野智史 氏	医療安全対策委員会	2019. 7.10
4	第6回医療倫理全体講演会 「臨床で倫理を話し合うために～呼吸器、透析等を考える～」	中京大学法科学院 医療倫理学教授 稲葉一人 氏	治験倫理審査委員会	2019. 8. 5
5	第21回感染対策委員会全体講演会 「イラストで学ぶみんなの感染対策（吉本新喜劇バージョン）」	学校法人 日本赤十字学園 日本赤十字豊田看護大学 学術情報センター・図書館長 教授 下間正隆 氏	感染対策委員会	2019. 9. 3
6	第2回認知症サポート委員会全体講演会「認知症ケア、総合機能評価について」	精神科代表部長 前川和範 看護係長 石川雅恵	認知症サポート委員会	2019.10.29
7	第17回患者サービス向上委員会全体講演会 「医療機関のクレームを予防し、現場での対応力を磨く」	コミュニケーション・ホーム喜舎 代表 生利喜佐男 氏	患者サービス向上委員会	2019.11.12
8	第2回感染対策講習会 「手指衛生について」	感染対策委員会	感染対策委員会	2019.12. 2 2019.12. 6 2019.12. 7 2019.12.12 2019.12.17 2019.12.19
9	第30回医療安全対策委員会全体講演会 「私が見てきた医療現場～事故はこうして起こる、防ぐ～」	アナウンサー 追手門学院大学 客員教授 寺谷一紀 氏	医療安全対策委員会	2019.12. 3
10	第18回院内学会発表会 かも学会	資材供給管理係長 戸田州俊 看護係長 中王子美保 放射線技術科 小林晋也 耳鼻咽喉科代表部長 欄真一郎	教育委員会	2020. 1.17
11	第27・28回医療事故ワークショップ拡大版 M&Mカンファレンス	循環器内科CCU部長 大橋大器 医療安全管理室長兼外科外来部長 世古口英	医療安全対策委員会	2020. 2. 4 2020. 2. 5
12	第24回豊田がんフォーラム 「がん疼痛治療の最前線～and/with hydromorphone hydrochloride～」	中部徳洲会病院 疼痛治療科 総括部長 服部政治	緩和ケア委員会・がん診療連携推進委員会事務局	2020. 2.12
13	第16回保険診療委員会全体講演会「2020年度診療報酬点数改定説明会」	株式会社ソラスト 医療事業本部 病院経営支援課 ディレクター 加藤慶一 氏	保険診療委員会	2020. 3.17

2. 研修会・勉強会

No.	題名	講師	主催部署・主催委員会	開催日
1	平成31年度4月新入職員研修	豊田厚生病院職員	教育委員会	2019. 4. 2~3
2	第79回平成31年4月薬剤師勉強会「感染症治療の考え方について」	総合内科医長 渡口賢隆	薬剤部	2019. 4.11
3	第146回救急症例検討会	救急科外来部長 畑田剛	救命救急センター外来委員会	2019. 4.17
4	第1回看護技術研修会（第31回地域連携勉強会）「経路別感染予防」	摂食・嚥下障害看護認定看護師 松井都 リハビリテーション技術科 中根裕基	地域医療連携課	2019. 4.24
5	第22回ボランティア合同研修「ポルトガル語で話してみませんか」	通訳 マリナ	ボランティア委員会	2019. 4.25
6	第49回豊田厚生病院ICLS講習会「BLS/モニター・電気ショック/気道管理など」	救命救急センター長 小林修一	救命救急センター外来委員会	2019. 4.27
7	第3回介護技術研修会（第32回地域連携勉強会）「経路別感染予防」	摂食・嚥下障害看護認定看護師 松井都 リハビリテーション技術科 中根裕基	地域医療連携課	2019. 5. 9
8	看護部全体研修及び看護研究・看護実践発表会	日本赤十字豊田看護大学 成人看護学教授 東野督子 看護部長 阪口浩子 副看護部長 西森陽子	看護部研究サポート委員会	2019. 5.25
9	第2回豊田市学童指導員研修会（第3回地域連携勉強会）「アレルギーを持った小児科への対応～エピペン操作～」	小児科 中西久美子	地域医療連携課	2019. 6. 4
10	第23回看護技術研修会（第34回地域連携勉強会）「アレルギーを持った小児への対応～エピペン操作～」	小児科 中西久美子	地域医療連携課	2019. 6. 5
11	第81回BLS/ADE講習会「一次救命が必要な患者の発見から処置までのデモンストレーション」	看護係長 吉田栄里 看護部 溝渚智恵	救命救急センター外来委員会	2019. 6.13
12	第24回看護技術研修会（第35回地域連携勉強会）「経路別感染予防」	摂食・嚥下障害看護認定看護師 松井都 リハビリテーション技術科 中根裕基	地域医療連携課	2019. 6.13
13	第147回救急症例検討会	救急科外来部長 畑田剛	救命救急センター外来委員会	2019. 6.19
14	第25回看護技術研修会（第36回地域連携勉強会）「施設や自宅で安心して看取るために」	緩和ケア認定看護師 安居円 訪問看護認定看護師 古賀智美	地域医療連携課	2019. 7. 3
15	第23回ボランティア合同研修会「心不全について」	副院長 篠田政典	ボランティア委員会	2019. 7.12
16	第50回豊田厚生病院ICLS講習会「BLS/モニター・電気ショック/気道管理など」	救命救急センター長 小林修一	救命救急センター外来委員会	2019. 7.13
17	第6回乳腺勉強会（第37回地域連携勉強会）「画像と病理の対比」	副院長 久留宮康浩 病理診断科代表部長 成田道彦 外科 丹羽多恵	外科主催・放射線技術科・臨床検査技術科・健康管理センター共催、地域医療連携課事務局	2019. 7.17

No.	題名	講師	主催部署・主催委員会	開催日
18	第80回平成31年6月薬剤師勉強会「先進デバイスの有用性と糖尿病チーム医療」	内分泌・代謝内科病棟部長 加藤大也	薬剤部	2019. 7.22
19	第81回令和元年8月薬剤師勉強会「薬疹について」	皮膚科代表部長 鈴木伸吾	薬剤部	2019. 8. 8
20	第148回救急症例検討会「救急移送症例発表会」	救急科外来部長 畑田剛	救命救急センター外来委員会	2019. 8.21
21	第26回看護技術研修会（第38回地域連携勉強会）「施設や自宅で安心して看取るために」	緩和ケア認定看護師 安居円 訪問看護認定看護師 古賀智美	地域医療連携課	2019. 8.22
22	第82回BLS/AED講習会「一次救命が必要な患者の発見から処置までのデモンストレーション」	看護係長 吉田栄里 看護部 溝渕智恵	救命救急センター外来委員会	2019. 9.12
23	第27回看護技術研修会	急変対応～バイタルサインから異常をキャッチ～	地域医療連携課	2019. 9.18
24	第82回令和元年10月薬剤師勉強会「抗菌薬の使い方とAST/ICT業務の紹介」	薬剤師 酒井幹康	薬剤部	2019.10.10
25	第28回看護技術研修会「急変対応～バイタルサインから異常をキャッチ～」	看護係長 吉田栄里	地域医療連携課	2019.10.10
26	第51回豊田厚生病院ICLS講習会「BLS/モニター・電気ショック/気道管理など」	救命救急センター長 小林修一	救命救急センター外来委員会	2019.10.14
27	第149回救急症例検討会「救急移送症例発表会」	救急科外来部長 畑田剛	救命救急センター外来委員会	2019.10.16
28	第2回豊田厚生病院吸入指導交流会「ミニレクチャー/吸入指導依頼書の運用状況報告/吸入デバイスを用いたグループワーク」	病棟部長兼アレルギー科病棟部長 青山昌広 薬剤室長 祐垣田和正 病棟業務課長 間瀬悟	呼吸器内科、薬剤部	2019.10.19
29	第1回令和元年度放射線講習会「放射線業務従事者の教育訓練」	千代田テクノ 放射線技術科 柴田英輝 氏	放射線技術科	2019.10.29
30	第1回令和元年度放射線講習会「放射線業務従事者の教育訓練」	千代田テクノ 放射線技術科 柴田英輝 氏	放射線技術科	2019.11. 5
31	第24回ボランティア合同研修会「伸ばそう健康寿命～今日から始めるロコモ体操～」	リハビリテーション技術科 足立大典	ボランティア委員会	2019.11. 8
32	第29回看護技術研修会「血管アセスメントに基づく採血・静脈・留置針研修」	看護係長 中王子美保	地域医療連携課	2019.11.14
33	第10回豊田地域緩和ケア交流会	豊田地域医療センター 総合診療専門医 野崎博司 氏	緩和ケア委員会	2019.11.20
34	第5回がん看護基礎研修会	薬剤部医薬情報室病棟業務課長 間瀬 悟 看護課長 古橋美直子 林真千子 看護係長 中王子美保 吉田栄里、佐藤修秀 看護部 藤本歩、古賀智美 稲熊幸子、安居円	がん診療連携委員会	2019.11.30 2019.12. 1

No.	題名	講師	主催部署・主催委員会	開催日
35	第30回看護技術研修会 「血管アセスメントに基づく採血・静脈・留置針研修」	看護係長 中王子美保	地域医療連携課	2019.12.4
36	第83回令和1年12月薬剤師勉強会 「がん看護について」	看護係長 中王子美保 看護部 稲熊幸子	薬剤部	2019.12.12
37	第83回BLS/AED講習会 「一次救命が必要な患者の発見から処置までのデモンストレーション」	看護係長 吉田栄里 看護部 溝渕智恵	救命救急センター外来委員会	2019.12.12
38	第4回看護技術研修会 「STOP!感染拡大」	看護係長 駒井博子	地域医療連携課	2019.12.12
39	第150回救急症例検討会 「救急移送症例発表会」	救急科外来部長 畑田剛	救命救急センター外来委員会	2019.12.18
40	第50回豊田厚生病院ICLS講習会 「BLS/モニター・電気ショック/気道管理など」	救命救急センター長 小林修一	救命救急センター外来委員会	2020.1.19
41	第7回乳腺勉強会（第44回地域連携勉強会）	副院長 久留宮康浩 病理診断科代表部長 成田道彦 外科 丹羽多恵	外科主催・放射線技術科・臨床検査技術科・健康管理センター共催、地域医療連携課事務局	2020.1.22
42	第2回居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション研修会	看護係長 森めぐみ 中王子美保	地域医療連携課	2020.1.30
43	第6回脳死下臓器提供シミュレーション	愛知腎臓財団 臓器移植コーディネーター 鷺見陽子氏 日本臓器移植ネットワーク 臓器移植コーディネーター 小林由紀子氏	臓器移植倫理委員会	2020.1.30
44	第84回令和2年2月薬剤師勉強会 「がん看護について」	産婦人科代表部長 針山由美	薬剤部	2020.2.13
45	第151回救急症例検討会	救急科外来部長 畑田剛	救命救急センター外来委員会	2020.2.19



3. 市民講座・市民公開講座

No.	題 名	講 師	主催部署・主催委員会	開催日
1	第102回がんサロン煌 「自分らしく、この病気と向き合っていく」	臨床心理士 加藤史哲	がん相談支援センター	2019. 4.20
2	第47回入院食ワンポイント講座	栄養科係長 江口真奈美 栄 養 科 牛田浩司、村瀬美咲、 水野なつみ	栄養科	2019. 4.25
3	第26回腎臓病バイキング教室	腎臓内科 吉岡知輝 薬 剤 部 植松夏子 栄 養 科 杉浦彩紀	栄養科	2019. 5.15
4	第103回がんサロン煌 「乳がんについて」	外科代表部長 久留宮康浩	がん相談支援センター	2019. 5.18
5	第48回入院食ワンポイント講座	栄養科係長 江口真奈美 栄 養 科 牛田浩司、村瀬美咲、 水野なつみ	栄養科	2019. 5.22
6	第63回糖尿病バイキング教室	内分泌・代謝内科代表部長 澤井善邦 検査科 竹内好正 栄養科 飯田直樹	栄養科	2019. 6.12
7	第49回入院食ワンポイント講座	栄養科係長 江口真奈美 栄養科 牛田浩司、水野なつみ	栄養科	2019. 6.26
8	第42回ひまわり会総会 「第42回在宅酸素療法患者会 ひまわり会 総会」	栄養管理課長 小林憲司 スマイリング 磯谷綾 氏	栄養科	2019. 7. 6
9	第50回入院食ワンポイント講座	栄養科係長 江口真奈美 栄 養 科 牛田浩司、村瀬美咲、 水野なつみ	栄養科	2019. 7.24
10	第104回がんサロン煌 「がん治療と食事」	栄養管理課長 小林憲司	栄養科	2019. 8.17
11	第51回入院食ワンポイント講座	栄養科係長 江口真奈美 栄養科 水野なつみ、牛田浩司	栄養科	2019. 8.28
12	第105回がんサロン煌「リンパ ドレナージュについて」	看護部 近藤久美子	がん相談支援センター	2019. 9.21
13	第52回入院食ワンポイント講座	栄養科 水野なつみ、牛田浩司	栄養科	2019. 9.25
14	第106回がんサロン煌 「もしバナゲーム～もしものた めの話し合い～」	医療福祉相談課 夏目洋介	がん相談支援センター	2019.10.19
15	第53回入院食ワンポイント講座	栄養科 水野なつみ、牛田浩司	栄養科	2019.10.23
16	第10回肥満教室 「体重コントロールを考える!」	内分泌・代謝内科代表部長 加藤大也 栄養科 白岩みゆき	栄養科	2019.10.24
17	第37回肝臓教室「肝臓と栄養に ついて考えよう」	内 科 西村大作 栄養科 水野なつみ	栄養科	2019.11.13
18	第107回がんサロン煌 「抗がん剤の作用・副作用」	薬剤部 榊原崇芳	がん相談支援センター	2019.11.16
19	第54回入院食ワンポイント講座	栄養科 水野なつみ、牛田浩司	栄養科	2019.11.27
20	第64回糖尿病バイキング教室	内分泌・代謝内科 澤井喜邦 栄養科 金子広奈 薬剤部 神野禎実	栄養科	2019.12.11

No.	題名	講師	主催部署・主催委員会	開催日
21	第2回ケアマネ意見交換会 「豊田厚生病院の入院から退院までのスクリーニングと支援の体制」	看護係長 森めぐみ	医療福祉相談課・豊田厚生地域包括支援センター	2019.12.13
22	第108回がんサロン煌「がん相談支援センターについて」	医療福祉相談課係長 杉村龍也	がん相談支援センター	2019.12.21
23	第54回入院食ワンポイント講座	栄養科 水野なつみ、牛田浩司	栄養科	2019.12.25
24	第27回腎臓病バイキング教室	腎臓内科 吉岡知輝 栄養科 近藤早	栄養科	2020.1.22
25	第54回入院食ワンポイント講座	栄養科 水野なつみ、牛田浩司	栄養科	2020.1.29
26	第7回1型糖尿病教室 「1型糖尿病患者さんを取り巻く環境～豊田厚生病院の取り巻き～」	内分泌・代謝内科代表部長 加藤大也 看護部 鈴木泰子 栄養科 高山日菜	栄養科	2020.2.1
27	第7回健診スクール 「本当は怖い脂肪肝」	内科 西村大作	健康管理室	2020.2.14
28	第110回がんサロン煌 「血液がんについて」	副院長 鏡味良豊	がん相談支援センター	2020.2.15

4. 学生実習等受入状況

1. 実習

受入部署	職種	学校数	実習人員	実習延人員
各診療科	医師	4	45	360
薬剤部	薬剤師	3	8	440
臨床検査技術科	臨床検査技師	4	6	131
リハビリテーション技術科	理学療法士	5	6	35
	作業療法士	3	2	22
	言語聴覚士	2	4	64
	小計	10	12	121
臨床工学技術科	臨床工学技士	2	2	2
栄養科	管理栄養士等	5	19	85
医療福祉相談課	社会福祉士	12	23	252
看護部	看護師等	6	260	7,030
訪問看護ステーション	看護師等	4	26	124
地域包括支援センター	看護師等	1	2	4
居宅介護支援事業所	看護師等	1	1	3
医事課／情報システム課	診療情報管理士等	3	4	25
救命救急センター	救急救命士・消防士等	5	20	165
保育所	看護師	1	36	84
合計		61	464	8,826

2. 職場体験・見学

学校別	件数	実習人員	実習延人員
大学・専門学校等	13	25	180
高等学校	5	92	92
中学校	19	34	68
合計	37	151	340

IV 委員会活動

1. 委員会一覧

H 31 年 3 月末現在

名 称	設置 年月日	目的	開催回数
栄養食事委員会(法)(保)	S63.4.1	豊田厚生病院の行う患者の食事療養と及び、賄食に関する必要な事項を検討協議する	4回
治験倫理審査委員会(法)	H9.4.1	委員会は病院長の諮問に応じ、審査の対象とされる治験及び臨床研究等が倫理的及び科学的に妥当であるかを審査することを目的とする。医療の倫理性と患者の人権保護に関する基本的事項を審議及び検討することを目的とする	6回
輸血療法委員会	H10.6.1	「輸血療法の適正化に関するガイドライン」に示された望ましい輸血の管理体制に基づいた適切な輸血療法を推進する（厚生省健康政策局通知健政発第502号、平成元年9月19日制定「輸血療法の適正化に関するガイドライン」）	6回
臓器移植倫理委員会	H14.4.1	医の倫理に基づき検討し、適正に実施する（平成9年法律第104号臓器移植に関する法律（平成9年10月16日施行））	6回
診療録管理委員会(保)	H12.4.20	豊田厚生病院の診療録(電子カルテ含む)および印刷物に関する事項について協議し、診療録の内容の向上と適切な管理を行う	12回
研修管理委員会(法)	H11.5.1	豊田厚生病院および関連病院、関連施設における医師臨床研修を統括管理する	3回
臨床研修委員会(法)	H27.4.1	研修医がプライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけ、『患者に適切な医療を提供』できるようになる為に、臨床研修医プログラム、各部署、各職種間との連携及び研修医の処遇などを充実させる	12回
歯科医師研修管理委員会(法)	H24.4.1	歯科研修医が『歯科医師として患者を全人的な視点に配慮した上で、基本的・総合的な臨床能力を修得し、患者や家族の信頼に応じられる姿勢を身に付ける』ことを主旨として、歯科医師臨床研修医プログラム、各部署、各職種間との連携及び研修医の処遇などを充実させる	3回
栄養サポート委員会	H15.5.1	入院患者の栄養の評価と栄養改善に関する提言を行い、栄養教育を支援する	11回
褥瘡予防対策委員会	H15.5.1	入院患者の褥瘡の発生の予防をし、既造の褥瘡の治療を集約的に行う	7回
摂食・嚥下推進委員会	H16.4.1	豊田厚生病院における摂食・嚥下障害を有する患者の機能評価および機能回復の推進に関する事項について協議する	12回
クリニカルパス委員会	H11.8.6	医療資源の効率的な活用と医療の質の向上を図り、クリニカルパスの作成とその運用についての協議を行い、病院の発展に寄与する	6回
化学療法委員会	H15.10.17	豊田厚生病院の化学療法の安全かつ適正な運用を図り、診療内容の向上に寄与する	12回

診療関連

名 称		設置 年月日	目的	開催回数
診療関連	緩和ケア委員会	H16.4.1	患者のQOLに配慮して様々な苦痛や症状の緩和を図ることを検討し、緩和医療の適応基準や緩和プログラムの具体的な支援について協議する	12回
	がん診療連携推進委員会	H19.4.1	患者や家族の相談にあたる他、がんに関する専門的、学術的または総合的な研究を推進するとともに、がんの予防、診断、治療等に係る技術の向上、その他、がん医療を提供する体制の整備を図る	6回
	電子カルテ運用委員会	H20.2.1	豊田厚生病院における医療情報システムを円滑に運用する	6回
	認知症サポート委員会	H28.10.1	認知症の容態に応じた適時・適切な医療を提供するため、職員へ認知症患者のサポートに関する提言を行い、認知症対応能力の向上を目的とする	4回
教育・広報	教育委員会	H15.4.1	職員の知識および患者サービス向上を目的とする	12回
	ボランティア委員会	H6.4.1	職員とボランティアの協議により、地域の人たちのための病院づくりの活動をする	6回
安全管理関連	防災対策委員会(法)	H1.4.1	地震・火災・その他の災害が発生した場合に人的、物的被害を最小限に防止するため防災管理対策を徹底することを目的とする。また、災害拠点病院として常に行動できるよう調整する。	11回
	医療ガス安全管理委員会(法)	H2.4.1	医療ガス(医療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等をいう)設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する	1回
	廃棄物管理委員会(法)	H10.8.1	病院としての特殊性に鑑み、廃棄物処理法及び廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアルに従って、主として感染性廃棄物を中心に、加えて一般廃棄物および産業廃棄物について、厚生連廃棄物処理規程に基づき必要な事項を定め、適正な処理を確保し、もって生活環境の保全及び公衆衛生の向上、推進を図る	1回
	感染対策委員会(保)	H3.4.1	豊田厚生病院における院内感染防止に関する事項について協議し、感染対策を立案、実施する	12回
	医療安全対策委員会(保)	H12.4.1	医療事故・再発防止・対策などを検討及び具体化して、患者に安全で質の高い医療を提供する	12回
	医療事故防止対策委員会	H14.4.1	重大な医療事故への具体的対応を行い、併せて再発防止策を検討し、患者に安心と安全な診療を提供する	1回
	虐待対応委員会	H12.11.1	この委員会は、子ども虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者暴力(DV)の予防及び早期発見と被虐待児、被虐待者の救済を目的とする	6回
	透析機器安全管理委員会(保)	H22.4.1	血液浄化療法を安全に運用するため、関連機器の管理ならびに使用する透析液水質管理をする	3回
	コンプライアンス委員会	H25.4.1	この委員会は、コンプライアンスに関する意識の向上とコンプライアンス態勢の確立を図ることを目的とする	5回
	業務改善	患者サービス向上委員会	H13.2.6	医療はサービス業であるとの認識を持って患者により良いサービスを提供する
業務分担推進委員会		H24.4.1	病院勤務医、看護職員・負担の軽減及び処遇の改善を検討することを目的とする	1回



	名 称	設置 年月日	目的	開催回数
経営関連	薬 事 委 員 会	S55.4.22	医薬品その他薬品の管理、適正使用、医療内容の向上および病院経営の発展に寄与する	6回
	医 療 材 料 委 員 会	H16.4.1	医療材料・検査試薬の管理及び適正合理化を図り、医療内容の向上、病院経営の発展に寄与する	6回
	購 買 委 員 会	H8.12.12	事業年度における固定資産枠内取得品目の選定を適正かつ円滑に行う	2回
	保 険 診 療 委 員 会	H12.4.1	診療報酬の効率的な算定、返戻・査定減に関する事項、DPCの運用、適切なコーディングに関する事項および病床管理について協議を行い、病院診療の運営に寄与する	6回
各部門運営関連	放 射 線 安 全 委 員 会 (法)	S60.10.1	法律に基づき、放射線発生装置の取扱いによる放射線障害の発生を防止すると共に、公共の安全を確保する	1回
	中央放射線部運営委員会	H13.6.1	中央放射線部の適正な活用と質の向上を目的とし、その運営について協議し、病院の発展に寄与する	6回
	臨床検査運営委員会(保)	H12.4.1	臨床検査の適正な活用と臨床検査の質の向上を目的とする	6回
	救命救急センター外来委員会	H15.4.8	救命救急センター外来に係る諸問題を検討し、円滑な救急医療ができる体制を整える	12回
	救命救急センター病棟委員会	H15.4.1	豊田厚生病院におけるICU・HCUの利用状況を把握し、問題点などを検討及び協議する	6回
	中央手術室運営委員会	H14.4.1	手術室の運営に関わる諸問題を検討し、円滑な手術室の運営ができる体制を整える	6回
	外 来 運 営 委 員 会	H20.9.26	外来の運営に関わる諸事項を検討し、円滑な外来診療ができる体制を整える	6回
	入退院支援センター運営委員会	H24.8.1	入退院支援センターの円滑な運営に資する	9回
	供 給 委 員 会	H27.10.1	豊田厚生病院における薬品、医療材料及び物品の適正な供給と管理を目的とする	6回
職員関連	安 全 衛 生 委 員 会 (法)	H1.4.1	豊田厚生病院における職員の安全と健康を確保し、業務の向上と円滑な遂行を図る	9回
	保 育 委 員 会 (法)	H5.4.1	愛知県健康性農業協同組合連合会 保育所管理要領第4条第3項の規程に基づき、院内保育所、病児保育室、小児病棟、その他附帯する業務の円滑な運営を行う	6回
	総 務 委 員 会 (法)	H10.4.1	愛知県厚生農業協同組合連合会の規程改訂及び病院業務運営の改善向上に関する意見を集約し病院長に具申する	2回
	厚 生 委 員 会	H10.8.1	職員の親睦ならびに資質の向上と、健全明朗な環境を作り上げ、豊田厚生病院の繁栄に寄与する	12回
	人事考課制度推進委員会	H12.4.1	事業所における人事考課制度の実施・推進を目的とし、人事考課制度の円滑な運用を図る	3回
	看護職確保対策委員会	H25.4.1	看護職の確保に係ることについて検討することを目的とする	12回
特別	病院機能評価受審準備委員会	H15.4.1	病院機能評価の受審を通じ、より良い病院機能の知識・確立を図ることを目的とする	2回
	病 院 祭 実 行 委 員 会	H21.2.16	病院祭の開催を目的とする	8回

(法)：法律に基づく設置

(保)：診療報酬に基づく設置

豊田厚生病院 令和元年度年報

2020年10月 発行

発行・編集 愛知県厚生農業協同組合連合会
豊田厚生病院

〒470-0396

愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

TEL (0565)43-5000

印刷部数 270部

印刷 ニチモウ印刷株式会社